

371-P44ウ



71  
44

春秋社思想選書

ベスタロッチ

ゲルトロードは如何に  
その子を教ふるか

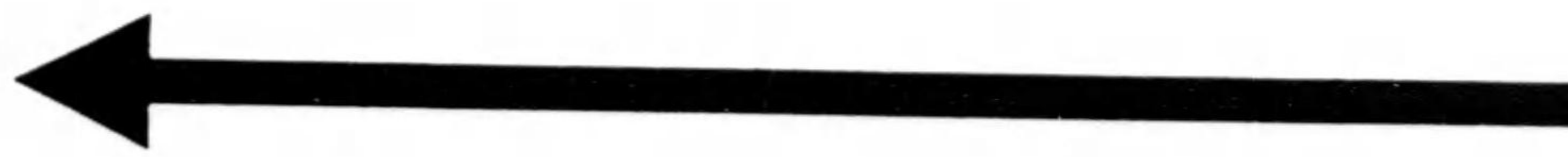


田 制 佐 重 譯

春秋社版



始





371  
P44



11  
14  
15

11



253

913

## 譯者序

こゝにハインリヒ・ベスタロッテ永眠す。一七四六年一月十二日、チューリヒに生れ、一八二七年二月十七日ブルグに死す。ノイホーフに於ては貧民の救済者となり、『リーネルドとゲルトールド』に於ては國民の宣教師となり、スタンツに於ては孤兒の父となり、ブルグドルフとミューンヘンブクゼーに於ては新國民學校の建設者となり、イフェルデッンに於ては人類の教育者となる。眞の人間たり、基督者たり、市民たり。すべてを他のために爲して、一つも己れのために爲すことなし。彼の名に惠福あれかし。

とは、即ちベスタロッテの墓碑銘である。これ蓋しベスタロッテ八十一年の全生涯をいとも簡潔に傳へて餘蘊なしといふべきであらう。教育者の典型、はたまた教育精神の權化——これを吾人は我がベスタロッテその人に於て極めて鮮かに見出すことが出来る。彼は實に貧民の救済者、國民乃至庶民大衆の宣教師、孤兒の父、新國民學校の創始者、そして遂に全人類の教育者となつて、その全生涯の極頂に攀登したのである。これこそは即ち、取りも直さず彼が一生を通じて刻



刻進展した苦心努力の閱歷を如實に物語つたものでなくて何であらう。ベスタロッチが吾々にとつて永劫に限りなき感激の源泉たるゆゑんは、まさしくこの一點にありといふも溢言ではなからう。

ベスタロッチの青年時代は熱烈なルソー主義者であり、自然を讚美し、自然生活に憧れ、相愛の妻アンナ・シュルテスと共にノイホーフに自然人として田園生活を営んだのも全くルソー主義の然らしめるところであつた。然し彼がこゝに田園生活を送る間に彼の人間愛の精神は痛ましくも悲惨な生活境遇に虐げられたスイス庶民とその子女の救済に向はざるを得なかつた。而も彼の最初のこの貴き試みを徒らに十幾年の勞苦を重ねたのみで、脆くも失敗に歸してしまつた。一七八〇年、彼が三十四歳の時である。爾來スタンツ孤兒院長として再起するに至るまでの十八年間は、彼が一生中最も落魄寂寥なものであつた。彼としては素より文筆生活に毫も意がなかつたが、遣る瀬なき悶々たる衷情を、たまたま二三の友の切なる勸告によつて、然らば、「妻子のため、衣食のために」とて書き綴つたのが、彼の處女作「隠者の夕暮」で、同じ一七八〇年に世に出たものである。その翌年には有名な「リーンハルドとゲルトロード」が出て一躍文名を高めるに至つた。即ち、ベスタロッチはノイホーフに於て自ら體驗したところを一篇の小説にまとめ上げたものであるが、當時のスイス農民の腐敗墮落せるを深慨し、その原因と救済とを如實に描寫

し、結局、教育によつて農村と貧民たちの救済を策せんとした美はしき理想が全篇に浮き出してゐる。彼自らもこの書を「民衆の書」と稱したほどで、貧と自墮落とに陥つて自ら自己を救ふことの出来なかつた一般民衆の代辯者、その限りなき愛護者、熱心な救済者としての彼一生の大本願が、この書によつて早くも具體化されたといふべく、「リーンハルドとゲルトロード」に於ては、國民の宣教師なりと墓碑銘に謳はれたゆゑんである。

かくしてベスタロッチは、一七九八年五十二歳の冬、スタンツの孤兒院長として迎へられ、ここに失意逆境の半生が漸く轉廻した。彼もまた全力を擧げて孤兒院教育に盡し、いはゆる「孤兒の父」と慕はれるに至つたが、たまたま戰亂のために前後僅かに三年で孤兒院の閉鎖となり、それから間もなく五十五歳の時、ブルグドルフの學校に奉職し、いはゆる「新國民學校の建設者」となつて赫々たる偉業を遺したのである。

本書「ゲルトロードは如何にその子を教ふるか」は一八〇一年、即ちベスタロッチがブルグドルフの學校に奉職した年の十月出版されたもので、全卷十四通の書信より成り、もとその友チューリヒの出版書店主ハインリヒ・ゲスナーに宛てて送つたものを、後にまとめて刊行したものである。最初に自己の教育事業に關する歴々たる苦心談を試み、或は世間の批評や嘲笑などについて率直に物語り、また助手の來援せる顛末や助手の人物などを敘したる後、更に進んで自己の教



育主義を論じ、直観による言語・圖畫・書方・算術・測量の教授方法をば一々自己の實驗に訴へて説明し、また初等教育の改革を論じ、そして最後に道徳及び宗教の教育を述べ、教育は終始絶えず母性の懷にあるゆゑんを力説してゐる。ゲルトルードとは取りも直さずかゝる理想の母性に外ならない。

本書は、全篇を通じて必ずしも輕易な物語ではなく、むしろ嚴肅な教育理論と見るべきものはあるが、而もその理論の背後には、飽くまでベスタロッチその人の教育愛がにじみ出で一讀人の肺腑を衝くものがある。この書こそは實に、教育者としてのベスタロッチの最も圓熟したる代表作といはざるを得ない。

ベスタロッチは、晩年ブルグドルフからイフェルデウシに轉じたが、彼の教育生活は蓋しブルグドルフ時代を以て最高潮と見るべきであらう。最大の慰安者・激勵者たりし最愛の妻を亡ひ、嘗て信頼せる助手どもに反かれて人間性の最も醜惡な半面を見せつけられるなど、老來ますます苦難が重疊したが、彼性來の人類愛の精神は爲めに却つてその光彩を發揮し、いはゆる「イフェルデウシに於ては人類の教育者」となり、やがて程近きブルグの小村に八十一歳の複雑多岐なりし生涯の幕を閉じたのである。彼こそは實に聖なる教育者、教育的聖人の名に値ひするといふべきであらう。

ルソーに發した近代教育の改革は、ベスタロッチ、やがてまたフレイベルによつて繼承展開されて以て現代教育の基調となつてゐることは改めていふまでもないが、特に國民教育の理論、教育方法論は、我がベスタロッチの名と共に永久に記念せらるべきものである。従つて「ゲルトルードは如何にその子を教ふるか」の教育的古典としての價値もまた蓋し不滅といはねばならぬ。

譯者



## 原著・第二版の序文

若しこの書中の書信が、或る諸點に於ては既に時日の経過に依つて答辯され、且つ多少は論駁されたものと認められ得るもの、従つて、それは現在に屬するよりもむしろ過去に屬するものと見えるならば、而も尙且つその初等教育の觀念が、若しもそれ自身に於て、何等かの價値を有し且つまだ、將來に於て存続すべき資格をもつものであるならば、さうした場合にこれらの書信が私の心中に如何なる徑路を辿つて、初等教育の觀念が發展して來たかの次第を明らかにするものである限りは、苟くも教育的方法の心理的發展をば自から價値ありと考へる人々にとつて、それは生きた價値をもち得るものであらう。尙、この事柄に關するかうした一般の見解以外に、ここに確かに注意して置くべきことは、即ち、この觀念が私の單純無技巧な本性と生活との渦中に於て、恰かも夜中の暗闇から出て來たやうに、私の心中の暗黒裡から、生れて來たものであるといふ一事である。さてこの觀念は、その最初の萌芽に於ては、さながら人間の心意を捕捉し、理解せらるべき力を示すところの炬火の如くに私の心中に燃え立つたのであるが、然し、その後世人がそれを目して、より深きその意味に於ては、理性の事柄であり、理智の問題であるとい



ふに至つて、もはやそれはその最初の生き生きした力を維持することなく、一時は掻き消されたとも思はれた程であつた。かうした初期の階梯にあつても、尙イツ、ヨハンゼン、ニーデラーを初め、その他の人々は、私の見解に就いての私自身の發表に對して、意義を與へてくれたのである、それらの人々の意見は、實に私が自分で發表したものよりも遙かに先きを越して敷衍したものであつた。然しその爲めに却つて支持すべからざる方法で一般の注意を刺戟したことは事實である。グルーナー、フォン・チュルク及びシヴァンヌはほゞ同時に、やはり、ちやうど同じ目立つた方法で吾々の實驗の結果をとりあげ、そしてこの問題に關する私の本來の見解を遙かに超越し、且つ私の努力の基礎に横たはれる力を遙かに超越するところの方法で一般大衆の面前にもち來たしたのである。私の心底の意識には、實に教育の本質に對するより深き洞察によつて目指され得べく、また目指されねばならぬところの最高目標の豫覺が深く宿つてゐたことは確かに事實である。そして、初等教育の觀念は、私がその完全な意味で解釋したところの見解の中に含まれ、且つ私が發表したすべての言葉の中に、既に閃き出てゐたことは争ふべからざるところである。然しながら、大衆のために、彼等の何人にも理解さるべき簡単な教授の方法を求め、且つ見出さうとする私の衝動は、ひとたびそれが見出された場合には、その方法の結果から生じ得べき最高目標に就いての私の豫覺より發生したのではなく、反對に、この豫覺こそ却つて其の方法

を求めしめずには措かぬところの實際の衝動から發生したものである。そして、私はこの豫覺によつて、およそ大衆に理解さるべき教授の方法は、一般的原則としては、單純なる初歩點から出發するものであること、そしてまた、若しその方法が連続的な秩序的進程に於て進められるものであるならば、その結果は心理的に確實であるといふことを自然的に且つ簡明に理解するに至つたのである。然し、私のこの見解は、これを哲學的に且つ明瞭に説明し、科學的に關係づけ得ることは、とても覺束なきものであつた。私は抽象的演繹法によつては、とても満足すべき結果に達することが不可能であつたから、それで私は私の見解を實際的に證明し、且つ初めから實驗によつて、私が眞に希望し、また實地になし得るものを私自身に明瞭ならしめ、それによつて私の目的を成就するための手段を見出さうと試みた。當時私が努力したすべての事、そして、今日私が努力するすべての物は、その實、二十年前に私が私の所有地で試みたものと密接な關係をもつてゐると、私には考へられるのである。

然しながら、非常に高聲で、非常にいろ／＼と、そして同時にまた、私は甚だしく不注意に且つ輕率にといはねばならぬが、とにかく私の見解に與へられたより、高き意義は、私がブルグドルフ學院で私の意見を實行したところの形と方法とに對して、實は私自身の精神の結果でないと同じ時にまた、私の周圍の一般大衆の精神の結果でもなく、はたまた私の助手連中のそれでもない



ところの方向を與へてくれたのである。かくして、私は私自身の意に反し、私がこれまで一度も  
進つたことの無いところの、私にとつては全く覺えない世界に導かれるに至つた次第である。  
確かに、吾々が恰も天界からでも落下したやうな、この夢の多き世界は、たゞに私にとつて全然  
新奇の世界であるのみならず、また、私の風變りな性格や、私の乏しき科學的教養や、他人とは  
一種特別な私の全人間や、さては當時に於ける私の老齡などの諸點を割引して考へて見ても、私  
はこの進路を照らすところの星の微光だも殆んど期待し得なかつた理由が、かうした事柄に存し  
てゐたのである。この世界に好結果を以て進入しようとする希望は、實に幾多の越ゆべからざる  
難關のために、はかなくも阻止されるものと思はれなかつた。そして、これらの難關は、實に  
私の助手連中の特異性に存してゐたのである。彼等は自らでは全く無力なほどであつたが、この  
新たな世界に於ける私の努力に對しては進んで助手の手を差し伸べたのである。かくする中に、  
この新世界を踏破しようといふ熾烈な衝動が私共の間に興つた。然し吾々が未だ實際に出来な  
かつた中に「吾々にはそれが出来る」とか、吾々がまだ實際に爲さなかつた中に「吾々はそれを爲  
さうとしてゐる」といふ叫びが餘りに高く、餘りに鮮明であつた。そして、その人々の證言がそ  
れ自身、眞の價値を持ち、従つて注意に値ひするやうな人々の間からさへも、かうした叫び聲  
が餘りに頻繁に反復されたのである。然しそれは吾々にとつては餘りに多量の魅力をもつたもの

であつた。吾々は實際にそれが揚言され若しくは意味されたのである以上に、それを買ひ被つた  
のである。要するに、かうした事情の下にあつた當時の時勢が吾々を眩惑せしめたのである。而  
も吾々は實際に目的に到達せんがために元氣に活動した。吾々は二三の初歩的學科をば、多くの  
點に於て、今までよりも一層善き順序に置き、一層善き心理的基礎に据ゑることに成功した。そ  
して、この方面に於ける吾々の努力は實際に重要な多くの結果をもち得たであらうが、然し、吾  
吾の目的を立派に成就せしめる筈の唯一の要素であるところの實地の活動は、吾々が努力したに  
も拘はらず、次第次第に悲しむべき状態に陥つてしまつたのである。吾々は吾々が當然爲すべき  
任務とは全く縁のない、頗る懸け離れたいゝな事柄のために時間と努力とを、すつかり費し  
てしまひ、その結果、吾々の當初の努力は、その單純性と進行と統一と甚だしきは、その人間味  
までも一切没却するやうな大打撃を被つたのである。いつたい吾々の事業を高尙に解釋した結果  
として生じた、そしてまた、忽ちそれが誇張もされたのであるが、とにかく、社會改善といふ一  
大理想、この大理想の手前、吾々はひどく心を掻き亂されてしまつて、眼前に迫つてゐた我が學  
院の種々の必要事件に對して全く注意を怠つてしまつたのである。かゝる事態に於ては、吾々當  
初の一致協力といふが如き高遠の精神が失はれたことは、もとより必然であり當然であつた。吾  
吾の間に於ける相愛の情は、もはや當初と同じではあり得なかつた。吾々は多かれ少かれ惱んで



あるところのすべての禍悪を認めたのであるが、然し何人もその禍悪を十分に探究したものもなく、また彼等が當然探究しなければならぬ大本、即ち、彼等各自の中に、その本源を見出したものであつた。各自は多少を問はず他を非難した。お互は自分自身が、しもせねば、出来もせぬ事を他に要求したのである。そして、この事情の下に於ける吾々にとつての最大な不幸は、實に個々特殊的な、且つ一面的な吾々各自の努力が、學院の禍悪に對する救済をば深き哲學的研究の中に求めるやうに導かれたことであつた。吾々は一般に、吾々が求めるべきものをばこの方面に於て見出すには不向きであつた。ただひとりニーデラーのみは、吾々が現に突進してゐたこの方面の事柄に於て、飽くまでも自信力を自ら感じてゐたのである。そこで、彼はこの自信力を以て幾年かの間吾々の間にあつて、ただひとり相變らず突進したのだから、遂には私の仲間の人たちばかりでなく、この私までもかれの絶大な強迫的影響を受け、その結果、私は實際にわれながら茫然自失するほどであつた。そして、私は私の本性に反き、はたまた、すべての成功の見込にも反いてまでも、どうかしてこの方面に少しでも歩を進めようと思つて、私自身及び私の學校をば從來とても當にさうであらねばならなかつたところのものにまで仕上げようと試みたのである。ニーデラーが吾々の仲間にあつて獲得したこの絶大な支配的勢力と、彼がこの問題に關して陳述したいろく／＼な見解とは、實に私自身を完全につかまへてしまひ、そして、私に對して退嬰的

屈從と完全な犠牲と私自身の忘却とを餘儀なくせしめたのである。そこで、私は自から承知してゐる通り、今日に於て私は次の如く明瞭にいふことが出来るし、また、明瞭に言はねばならないのだ。即ち、私が嘗てこれらの書信を書いた當時に於て、若し彼が吾々と共同に仕事してゐたならば、私はこれらの書信の内容と、従つてまた當時私の眼中に映じた如き初等教育の觀念とは彼から生れ來り、そして、彼の心に吹き込まれるのだから、恰かも雲霧の中に閃くところの幻影のやうなものであつたらうと、私は十分確かにさう考へるのである。さて、私のこの陳述を信じ、且つそれが自身から生れ來るやうに自然的な、そして無理なきものと、それを考へるためには、君は實際もつと深く私を知らねばならないのだ。換言すれば、君は一方に於て、私が如何ばかりこの問題に就いて、明瞭な、哲學的な、確定した觀念を待ち設けてゐたか、そして今尙それを期待してゐるかの確信に、如何に私が激勵されてゐるかを明確に知らねばならぬと同時に、他方に於て、吾が友の高遠な見解に對して、如何なる程度の信用を私が懐いてゐるか、そして、私の心の中には臆ろげに、漠然と、且つ如何にも狭く現はれてゐるところの、それらの諸觀念に對して、必然的に彼が強壓力をもつてゐるといふことを、君は明確に知らねばならないのだ。ニーデラー君が、私がこれらの書信を書いた當時、吾々と一緒に仕事をしてゐなかつたといふことは、私をしてニーデラー君が、いつたい初等教育に於ける吾々の事業に對して盡してくれた功績と、それぞ



ら、私が私自身から生み出したものと考へ得るそれとを明瞭に見分けることを可能ならしめる唯一の機會となつてゐるのである。私は私の功績が如何に些細なものであるかを知つてゐる。そして、もしもそれが單なる無でないならば、若しくは、少くとも何ものかゞそれから生れ来るものならば、それが如何に多くのことを、そして何ものを今尙要求するかを、私は承知してゐるのである。結局に於て、私の報賞は私の功績より大なるものである。いづれにせよ、かういふことだけは、私には十分に明瞭である。といふのは、吾々の努力に就いての推斷的見解は、實際の業績を擧げるに先き立つて進み、遙かにそれを凌駕し、そして、それを後へ置き去りにするのであるが、此の推斷的見解は、實にニードラー君の見解であつたのである。それからまた、この問題に關する私の見解は、私自身が方法を探索しようとするところから生れ出たものであり、そしてその方法の遂行實施が私を驅つて能動的に實驗的に當時まだ當面に存せざりしところのものとして、當時まで私が實際に知らなかつたところのものを探索し獲得しまた實地工夫し出さざるを得ざらしめたいといふことだけは十分に明瞭である。これらの二つの努力は、吾々二人の各々が共通の目的に到達するために必ず行かねばならぬところの道、そして吾々二人の各々が各自別個の力を自から所持するところの道を開いたのである。だが然し、吾々は實際に於てさうはしなかつた。そして、お互がお互の邪魔をしたのである。なぜかといふに、吾々はお互が提携

して進むには、換言すれば同一の靴を穿ち、そしてお互が歩調を合せて進むには無理にも吾々自身が長い間、否、餘りに長い間かゝらないわけに行かなかつたからである。吾々の目標は同一であつたが、然し吾々がそれに到達するためにとらねばならなかつたところの道は、初めから自然に吾々お互にとつて全然別々なものであつた。そして、吾々は若しお互が完全な自由と獨立とを以てその目標に向つて進み、且つ辿らうとしたならば、もつと氣樂に、もつと確實にそれに到達するであらうといふことを、早く覺れば早いだけよかつたわけである。吾々は餘りに懸け隔つてゐたのである。若し私の努力に對して、ほんの一片の榮養物でも與へてくれ、そして私の努力を促進させるだけの力をもつたものと考へるならば、その道中に横はるばん屑にさへも私は心を奪はれたのである。私はそれを拾ひ上げねばならなかつた。私はそれを見て立ち止まり、そしてそれを吟味しなければならなかつた。そして、私はこの點に於て、それが十分の資格を備へたものだとならぬ間は、私は恐らくそれを批判的に考察することは出来ないし、また私はそれが私にとつて教訓を與へてくれるものと認めることは出来ない。即ち、そのものが單に一個物として、果して吾々の努力に對してもつところのすべての關係と一般的の聯絡や結合を保つものだとは認め得ないのである。私は如何なる事柄でも、それが事實によつて支持され、そして何等かの自信を私の心中に目醒ましたといふことの背景をもたない間は、實に私の生活態度全體の上からして



私はその事柄に關する確明瞭な觀念を取り急いで探求しようといふ何等の力も、何等の性癖をももち合せてゐないのである。それだから、私は死ぬまで、やはり私の見解の大多數に就いて、恰かも霧の裡に止まる如きことであらう。だが然し、私はかういはねばならない——それは若しこの霧が種々雑多な、そして十分に鮮明な感覺的印象といふ背景をもつならば、それは私にとつて神聖な霧だといはねばならない。これがそもそも私がその裡に生き、若しくは生き得る唯一の光明である。そして、この私の一種特別な微光の裡に、私は苟くも平和及び自由に進行する限りは安心と満足とを以て私の目標に向つて絶えず進んで行くのである。そして私は私の理想を追うて居る途上、苟くも私が到達したその地點に於て、私は次の確信を飽くまでも固執するのである。その確信とは、即ちたとひ私の一生に於て、言葉によつて、哲學的確實さを以て定義し得るところの觀念に到達したことは頗る僅かしかないにしてもそれでも尙ほ、私は私獨得の方法で私の目的にまでの二三の手段を見出したのである。而も、それらの手段をば、私は私の問題に就いての明瞭な觀念を、かうした哲學的研究によつて發見することをせすに済んだのである。なぜかといふに、私は實地直接に、その明瞭な觀念を造ることが出来たからである。それだから、私は私の手間取つたことを少しも残念には思はない。また思ふべきものでもない。私は私の生活方法であるところの私の實驗の方法を、喜び勇んで進んで行くべきものである。私にとつて、また一

種特異な私の天性にとつては、實に禁斷の果實であるところの知識の木の実を取て欲しいとは思はずに進んで行くべきである。たとひ如何に僅少でも、とにかく、私は私の實驗の道を正直に忠實にして元氣よく進んで行くならば、私は考へる、かくすることに依つて、私は真正正銘の私であり、私が知れるだけのことを知つてゐるものである。それからまた私の生活及び行爲は、たとひ不完全なものであつても、それは決して實際は理解してゐないところの實驗を、たとひ單に盲目的に摸索してゐるものではない。私はそれ以上のものであることを希望するのである。私は他の如何なる方法で、それと同様にはさう容易に明瞭ならしめることの出来ないところの私の問題の或る二三の點を、私獨得の方法で哲學的に明瞭に説明したいと希望するのである。私の意見では、いつたい各人各個の特性は人間性の最大な天恵であり、また人間性の最高にして且つ最も本質的な天恵中の唯一の基礎である。それ故に、個人の特性は最高度に尊重さるべきものなのである。これらの特性なるものは、吾々がそれを見ない處には在り得ず、また、萬事がその特性の自己發現を阻止する場合、また、すべての利己心がそれぞれ各自特別の規則を作らうと試み、はたまた、他のものの特質をば、すべて自己の特質に隷屬せしめようと思つて試みる場合に於ては、吾々は到底その特性なるものを見ないのである。若し吾々がその特性を尊重しようと思ふならば、神が結び付けたものを破壊してはならぬこと、それからまた神が破壊したものを結びつけてならぬこ



と、これが是非とも必要のことである。すべて人爲的に、そして無理やり、眞實でないもの、物を結合することは、その性質上、實に個々人のよろ／＼の力と質とを阻止拘束する結果となるのである。そして、かく不適當に結合された、故にまた、拘束され、且つ亂されたる個々のあらゆる力と質とは實にかゝる場合には悉く不自然なものとなつて發露し、無理強ひに生み出され、そして、それらがかくして折角全き個性、特性のために結合されたものではあるが、その全き個性の上に破壊的な、混亂した、そして歪んだ形を取つて働きかけるものである。私は現に私の眞價ならざるものを知つてゐる。それだからして、私は私の眞價以上のものとならうとは思はぬと正直にいへるのである。然し、現に私の眞價に相應せる力が私の掌中に入り來り、それを使用せんがためには、私は私の力を自由獨立に使用しなければならぬ。たとひ、その力が如何に僅かなものであらうとも、そして「持つところの彼にまで與ふべし」といふ言葉が私及び他の人々にとつて眞實であり得んがために、そして「持たざるころの彼その人から、その人が持つところのものでも奪ひ去るべし」といふことが、私にとつて履行されても餘りに失望的であり得ないがために。

私は今日、かやうにしてこの本が私及び世人にとつてもち得るところの眞價を認めるものであるから、今より二十年以前に於て、この本が大膽にも世間に踏み出したそのまゝの形で發表しな

ければならない。爾來、私は私の新たな著書の或るものに於て、當時以後、教育の實際及び方法に於ける吾々の教育學的進歩について必要なる敘述を公けにして來たのである。私はこの仕事を繼續しようと思ふ。そして特に「リーンハルドとゲルトロド」の第五編(譯者註、これは原稿紛失のため)に於て、私はこれまで私が爲し得たよりも一層多くの説明を、この點に加へたいと思ふ。然し、本書中の書信に於て、私はとに角、歴史的並びに個人的興味の事柄に觸れたのであるから今はそれ以上深入りしない。たとひ、さうしたところで、うまく出來ない。私はその多くの事柄に對して、微笑する。そして私がそれを書いた當時に於てとは全く別な眼を以てそれを眺める。だが、その多くの事柄に對して、私は微笑するよりも、むしろ泣きたいと思ふのである。然し私はその何れをもすまい。今日、私は泣くとも笑ふともどちらともいへない。私の良心は私の沈黙の時期がまだ過ぎ去らぬことを私に告げる。私の運命の車は、これまたまた廻轉し切らないのである。笑ふも泣くも、戸を閉ざしてしまへば、有害ではなくても、まだまだ共に早や過ぎるであらう。本書に於て觸れた問題や見解の多くは、恐らく早晚これを變改することが出來よう。恐らく、私は今日泣かねばならぬその多くの事柄を、早晚笑つて過すやうになるであらう。また、恐らく私は私が今日笑を以て過すところの事柄について早晚頗る眞面目に考へるやうになるであらう。この状態に於て、私は本書を殆んど訂正せずに残したのである。本書中に説かれてある事と



その説かれてある事に就いての私の現在の意見との對照は、時がこれを説明してくれるであらう。そして、時はまた、若し必要であるならば、現に解釋や説明の出来ないものと見えるところの事柄をも説明してくれるであらう。私はそんな必要が起らうとは殆んど考へない。然し、若し私の死後にそんな必要が起るならば、希くは、それはきらきらした、まぶしい色彩ではなく、おだやかな色彩であらうことを祈るものである。

一八二〇年六月一日インフェルダッソにて

ペスタロッチ

## 目次

譯者序……原著・第二版の序文……	一
第一信……	三
第二信……	六
第三信……	九
第四信……	一五
第五信……	一八
第六信……	二四
第七信……	二四
音……	二四
(一) 發音の教授……	二四
(二) 單語の教授……	二五
(三) 言語の教授……	二七
形……	二九



	(一) 測量の術	一九三
	(二) 描き方の術	二〇三
	(三) 書き方の術	二〇四
第八信	算術	二一八
第九信	無理ならぬこの涙	二六二
第十信	新版に對する注意	二七〇
第十一信	新版に對する注意	二七三
第十二信	ここに一大缺陷がある	二八五
第十三信		三〇三
第十四信		三三八

ゲルトロードは如何にその子を教ふるか

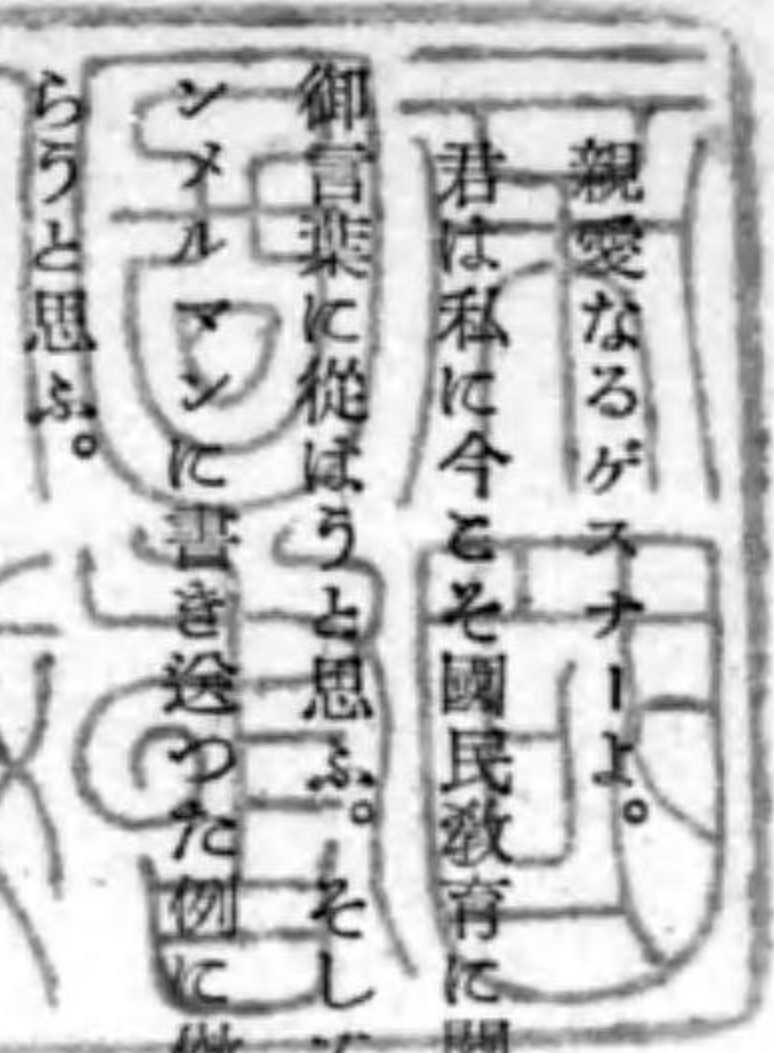
ベスタロッチ著  
田制佐重譯



第一一信

一八〇一年元旦

ブルグドルフにて



親愛なるゲスナーよ。  
君は私に今こそ國民教育に關する私の意見を公にすべき時だといはれたが、今、私は君のその御言葉に従はうと思ふ。そして、私はラファーターがその靈魂不滅論を幾通かの手紙によつてチンメルマンに書き送つた例に倣つて、君に宛てて卑見を發表し、而も努めて明瞭にそれを書き送らうと思ふ。

私は國民教育といふものは恰も底知れぬ沼地のやうなものであると考へてゐた。そして私はその泥土の中を、非常に困難な思ひをしてあちこちと踏み渡つた擧句、漸くその水の出て來る水源や、湧き出る水の堰きとめられる原因や、何處から腐敗した水を排出させてよいかの場處などを見究めたつもりである。

そこで、私は思慮や熟練を積んだ結果といふよりは、むしろ偶然といつた方がよいが、とにかく長い間思ひ悩んで、誤解の迷ひをたうとう解くに至つた次第を、暫く君に物語つて見ようと思



ふ。  
あゝ想へば永いことである。青年時代この方、絶えず私の心は一條の大河の如く、獨り寂しくただ一つの目的に向つて奔流し來つた——私の周圍なる人々一般大衆の沈みゆく悲惨の源を断たんがために。

私が初めてこの仕事に着手してから、早や三十年以上になるが、今以てそれを繼續してゐる。かのイゼリンのエフェメリデン（譯者註——ベスタロッツナ一七七六年にイゼリンが發行せるエフェメリデン一七八〇年にこの雜誌上）（譯者註——デン誌上に貧民子弟の教育を論じた。また有名なる「隱者の夕暮」も初めに發表されたものである）を見れば、當時私が實現しようと思つた私の夢想や本願は、やはり今日でもそれと同じ意味を含んだものであることが分るであらう。

然し、當時私はまだ若かつた。私は私の計畫にとつての必要條件も知らず、その準備に要する注意事項も知らず、また、その實現に必要な、そして、それが豫想するところの方法手段も知らなかつた。私の理想的計畫は農場や工場や細工場に於ける作業を含んだものであつた。私はこの三個の部門の價値を漠然ながら衷心から感じてゐた。私は私の考案を實現するには、これらの作業が明らかに安全なる道となもの考へてゐた。そして眞實、私はその後幾多の經驗を積んだ今日、尙ほ且つ私の考案の根本基礎に關しては、私は殆ど當初の考に復歸するものである。ただ然し、その根本眞理に對する私の信念が、ひたすら私の本能の確實さに基づいたものであつたがた

めに、失敗を來した次第である。

私の意見の眞理は空な覺束なき眞理であつた。そして、私が私の本能を信じ、私の事業の基礎を信じたのは、睡眠者がその夢の眞理を信ずると變りがなかつた。私は自から實驗した筈であるところの右の三部門に於ては、まことに一個の未熟な子供でしかなかつた。私は仔細な點に於ける便費を缺いてゐた。私の狙つた好結果を擧げるためには、是非とも缺くべからざる用意周到な、堅忍不拔な、そして物慣れた事業處理法が私に缺けてゐた。それで、私の事業に對するこの不用意の結果は早速感ぜられたのである。私の目的に對する資金調達の手段は、忽ち煙と消えてしまつた。而も、私は最初に於て私の仕事に必要なだけの助手を置くことを怠つたために、いよ早く行きづまつたわけである。私が手不足で困つてゐた仕事を適當に爲し得るだけの助手を切に必要と感じた時は、既に現金も信用も盡きてしまつて、とても私には同人の組織が出来なかつた。私の境遇上に於けるかやうな紛糾が持ちあがつたために、私の計畫の破綻は遂に避け得なかつたのである。

私の失敗は實に徹底的であつた。そして運命に對する戦ひは、續々援兵の加はつて來る敵軍に對して底力の弱い軍勢の戦ひであつた。災難に對抗しようと幾ら悪戦苦闘を重ねても、所詮それは徒勞に過ぎなかつた。かかる間に、私はこの測知すべからざる争闘に於て、實に測知すべから



ざる眞理を學び、且つ測知すべからざる經驗を得たのである。そして、私は私の意見や事業の原理が飽くまでも眞理なることを、傍から見れば全然それが失敗に歸したと思はれる、この瞬間ぐらゐ強く確信したことはなかつた。私の心は依然として少しも動搖することなく、同じ目的に向つて躍進した。而も、私は今や悲境に陥つてゐる。私は今や一方に於て私の事業の根本的窮迫を認むると同時に、他方に於て、如何なる種類、如何なる境遇の人々も眞に私の事業の目的に就いて考へ、且つそれを達成すべき手段と方法を認めざるを得ない境遇に立つてゐるのである。それで私はいよ／＼以て私の意見の眞理を認め、且つ理解した。私は私の未熟な計畫が一見楽しさうな結果を見るやうなことがあつても、決してさういふことがなかつたらうと思ふのである。私は、今、天地萬物を支配する神意に對して感謝に燃えつゝ、衷心意氣揚々として、かく言明するを憚らない。曰く、私はたとひ一身の悲境に臨んでも、尙ほ大衆の悲慘とその原因とをます／＼深く知ることが出來た。而も幸福な人々は誰れもそれに就いては知らずにあるのにと。私は大衆が苦しんだと同じく苦しんだ、そして、大衆はありのままの心を私に示した。私以外には誰れにもそれを示すものがなかつたからである。私は永年彼等と起居を共にした。恰も澤山の鳥の中なる一羽の鳥の如くに。だが、私は私を排斥する人々の浴びせかける嘲笑や、「可哀さうな奴だな、お前はあのみじめ極まつた日傭人よりも、自分で自分を助ける力がない癖に、それでも人助けが

出來ると思つてゐるのか」といふ罵詈謗や、かやうな嘲弄の言葉を、私は周囲のすべての人々の唇に認めたが、中にも尙且つ私の心の強き流れは、たとひ孤立無援の寂しさにあつても、私の一生の大目的、即ち、周囲の人々（大衆）が沈み行く悲境の原因を、杜絶せんとの大本願に向つて、滔々と奔流して息まなかつたのである。否、或る意味では、私の力は却つてだん／＼強大さを増すやうになつた。私の艱難は絶えず私に私の目的のます／＼眞理なることを教へた。他のすべての人の心を感はさなかつたものが、私の心を感はしたのである。然し反對に、他のすべての人の心を感はしたものは、もはや私の心を感はすことがなかつた。

私の周囲の人々が誰も知らぬのに、私だけは衆衆を知つてゐた。新興の製綿業から生ずる利益を豫想しての、彼等の愉快、彼等の富の増殖、彼等の住宅の改善、彼等の豊富なる收穫、さては、彼等の教師の或る者の親切なる問答教授、副太守の子弟や理髮屋などの間に於ける讀書仲間、これらは私を欺かなかつた。私は彼等の悲慘を見た。けれども、私はその悲慘の原因が個々別々に處在に散布してゐる大光景を見て茫然自失せざるを得なかつた。そして、それらの眞の状態をます／＼廣く見とほしながら、私はその弊害を矯正すべき實際の力に於ては、一歩たりとも進まなかつた。かうした状態を明かに見た結果、止むに止まれずして書いた私の著書、かの「リールとゲルトロード」(譯者註「一七八一年にその第一巻が出た」)でさへも、實は私のかうした心のたよりなさ、か弱



さを示す何よりの證據であつた。私はかの生を告げつつ、而も死んでゐるところの石の如く、當時の人々の間に立つてゐたのである。多くの人々はそれを眺めた。然し私及び私の目的に就いては殆んど理解しなかつた。ただ私獨り熱練労働の細目と、それを成就するに必要な知識とを理解してゐたに過ぎなかつた。

私は自己一身のことなどは少しも顧みなかつた、ただ私の事業に對する力強い衝動の渦中に捲き込まれるばかりであつた。而も、その事業を如何にして成就すべきかの基礎を十分に築き上げてはゐなかつた。

若し私がそれを築き上げて置いたならば、私は私の目的に對して如何ばかり揚々たる意氣を以て臨むことが出来、そして、如何ばかり速かに私の本願を成就し得たことであらうよ。然し、私は腑甲斐なかつたから、未だ一度もさういふことがなくして過ぎた。なぜなれば、私はただ外部から私の目的を求め、そして、私の眞理及び正義に對する愛の心は、恰も人生の波浪をたゞよふ根無し草のやうに、徒らに安定せざる焦燥の念に驅られたからである。私は日夜、私の切り取られた根を再び元の地盤に植ゑ付けようとし、そして、私の目的にとつて根本的に必要な栄養を求めようと試みたが、常に邪魔されて果さず過ぎたのである。誰れかがこの根無し草を波浪の間から拾ひ上げて、私がそれを植ゑ付けようとして手後れになつた地盤に置いてくれればよいと思

つたけれども、それも無駄に終つてしまつた。

親愛なる友よ、誰れでも私と同じ熱血の一滴をでも持ち合せた人ならば、私に同情の涙をそゞぐ餘り、必ずや私が當時如何に失望の暗い淵に陥つてゐたかを知るであらう。あゝ我がゲスナーよ、君はこの手紙の先きを讀む前に、先づ私の零落、私の失望に對して一掬の涙を獻げ給へよ。

深き不満の心は今や私を呑み盡した。永久に眞であり、永久に正しきすべての物は、今日の境遇に於ては畢竟空中樓閣たるに過ぎぬものとしか私には思へない。私は私の心中に於て既に永久の眞理の基礎を失つてしまつたところの、單なる語や句に飽くまでこびり付いてゐなければならなくなつた。そこで、私は毎日毎日、當座遅れや、俗悪なつまらぬ宣傳を、次第に信するやうに墮落したのである。而も、今日の時代は、こんな下らぬことで、人類を救はうと揚言するのである。

然し、私はこの墮落を感じ、そして、それに對抗しなかつたのではない。三年間、私は本當と思はれない程の骨折で、『人類進歩に於ける自然の進行に關する研究』(譯者註——一七九七年、フイッに於て)を著した。そして特に私は私の平素懐いた思想の進歩と私自身の氣分とを一致させよう且つ、私の市民的權利觀や、道德觀と、私自身の持つて生れた感情とを、びつたり合致させようといふ考で、その著述に従つたのである。然し、この著述も、やはり私にとつては、私の心のた



よりなさを暴露したに過ぎないもの、とかく一本調子で、私自身の感情を釣合のとれるやうに押へつける才のない、そして私の目的を果たすためには、非常に必要であるところの實際的手腕を鍛へる十分の努力を缺いた、ただ物事を思索するだけの力を、徒らにその著書に示したまでに過ぎなかつた。それで、私の實際と私の理論との不調和はただ増すばかりであつて、私自身に缺けたその資格、これを私は是非とも私の目的を成就するために供給しなければならなかつたのであるが、私にはますますそれを供給する力がなくなつたのである。

その上、私は自分で賤いた以上の收穫がなかつた。私の著書の効果は、ちやうど私のこれまでの實地の事業が世間の人々に對して及ぼした効果と同じであつて、一人としてそれを理解してくれなかつたのである。一人としてその著書を譯のわからぬ寝言と考へないものはなかつたからである。半分でも譯の分つたものだといふ感じを私に與へてくれた人は一人もなかつた。ただつひ近頃、或る要路の人で、どつちかといへば私を好いてゐる人が、如何にも慣れ慣れしく「だが本當にベスタロッチよ、君があの本を書いた時に、君は君の目的を正確に意識してゐなかつたとは感じないか」といつた。さうだ、誤解され、非難されるのが、私の運命であつたのだ。私はそれに慣れてゐなければならぬ筈であつたが、事實はさうでなかつた。それで、私は不幸な目に逢ふたび毎に、内心から人を嘲り、又さげすんだのである。そして、それがために、私の主義は

私が衷心持つてゐなければならなかつた筈の、根ぶかい基礎から打ち毀はされたのである。實際私は私を誤解し、輕蔑した人々が爲し得たより以上に、私の主義を一層打ち毀はしたのである。それでも尙ほ私の初志は、少しも動搖することはなかつた。ただ、それは非常に力弱くなつて居り、定まりなき想像と調子の亂れた情緒の中に、尙その餘命を保つてゐた。そして、神聖ならざる土地に神聖なる人間幸福の樹木を栽培したいといふ私の願は、ますます確實になつて來たのである。

ゲスナーよ、私は最近右の著書「研究」の中に、一切の市民權の要求を單に私の動物性の要求であると定義して置いた。そして、それが人間性にとつて價值ある唯一のものに對して、眞實に障礙である限りに於て、それを私は道德的純潔に對する障礙であると見たのである。だが、私は今日、外部の勢力と内部の激情とに驅られて、俗人の耳障りのよい市民的眞理から、善い結果が生ずることを期待し、また十中八九までは、ひたすら我が身の幸福を計つたり、美食を漁つたりしてその目を通して行くところの現代人から、正義の觀念を求めようと心掛けるほど低級な考に陥つたのである。

私は既に胡麻鹽頭になつてゐるが、やはり子供である。而も心の中が千々に碎けてゐる一人の子供である。だが然し、こんな焦燥な月日を送つてゐながら、私は相かはらず終生の目的に向つ



て絶えず進んだ。然し、私の進み方はこれまでよりも一本調子であり、失敗であつた。私は今日一口に一般大衆の陥つた宿弊の根源を發見することに、私の目的への進路を求めた。即ち、市民的權利とその基礎とを激越の口調を以て陳述すること、大衆個々の悲惨に對する反抗心から起るところの忿怒の精神を發揮することに、私の目的への進路を求めた。だが、より純良であつた私の若い時分の主義とても、畢竟、周囲の人々にとつては、ただ單なる騒々しき言葉にしか過ぎなかつたから、今日の私の意見は、尙更、彼等にとつて愚にもつかぬものに相違なかつたであらう。やはり例の如く、彼等はこの種の眞理を汚泥に染ませて平然としてゐた。そして私に對する態度もやはり當然私が期待すべき通りのものであつた。然し、私はただ自分の夢の如き本願に憧れるのみであつて、周囲の人々をだしにつかつて、自分の利慾を満たさうなどはみぢんも考へてゐなかつたから、實はそのやうな仕打ちを大衆から受けようとは、思ひ設けなかつたのである。私はただに悪漢に掛り合つたばかりではなく、また馬鹿者に掛り合つても騙された。私は公平な批評をいひに来る人は、誰でも信用した。だが、それでも私は大衆を知つてゐた。恐らく私以外に大衆を知り、また彼等の當惑や墮落を知つてゐたものが一人もなかつたからであらう。然し、私はこの病源を堰き止め、その弊害を一掃しようとするより外に何の考もなかつた。而もヘルツ・ティウスのいはゆる新人は、欲求するところ徒らに多くして、大衆を知ることの極めて少ない

人々であつたからして、むしろ私のやうな人間を、大衆の救済者であるとは信じなかつた。かやうな人々は一旦境遇が變化すると、恰かも難船に遭へる婦人のやうに、一本の藁でも尙且つ國家を安全な岸へ着かせるための橋だと感違ひするのであるが、然し、これまでは私をば、さながら猫も掴まうとしないやうな藁であると輕蔑したのである。だが然し、彼等はむしろ承知もしてゐなかつたらうし、また故意にしたことでもなかつたらうが、とにかく、私のために善いこと、否これまで爲した以上の善いことをしてくれたのである。即ち、私は彼等によつて初めて私の本心に立ち歸つた。そして、私は我等の乗船を修復しようとして、急に難船に早變りしたことを私かに怪しみながらも、尙その顛覆の初めに發した「私は學校教師にならう」といふ言葉を、依然として發したのも、彼等の御蔭である。そして、私はこの言葉に信頼した。私は實際學校教師となつたのである。そして、それからといふものは、私は私の最後の目的をいつも外部から邪魔するところの内部の缺陷を填め合すべき一大苦戰、而も私の如きものにも襲ひ來るところの一大苦戰に従事し來つたのである。

友よ、私はその時以後の私の心事や事業の全體を、包みかくさず貴君に打ちあけようと思ふ。私は第一執政當時、レグラントから、私の目的たる大衆陶冶(國民教育)の事を託され、そして、スタンツが兵燹に罹つた當時、アルガウに於て、大規模なる教育方案の實施に着手しようとした



のである。そしてレグラントは直ちにかの不便な場處を私の住地として提供してくれた。そこで私はそこに赴いた。私はただ自分の目的を達するためには、如何なる奥山の僻地にでも好んで行かうとしたのであるが、今や私は實際そこに來たのである。だが、私の境遇を想像し給へ、ただ一人、何一つ教育的設備や便宜のなかつた私の境遇を想像し給へ。まだ出來あがない家屋に在つて、私は自分一人で、監督者にもなり、會計にもなり、小用達しにもなれば、殆んど下女もなり、而も、無學な子供や病弱な子供に取り巻かれ、その他、見るもの聞くもの悉く新奇でないものがない有様であつた。子供等の數は次第に八十人に増した。何れも年齢は區々であつた。氣どつてばかりゐる子供もゐるかと思へば、また、路傍の乞丐の子供もゐた。そして三四人を除けばあとは全く眼に一丁字もなきものばかりであつた。こんな子供等を陶冶し發育進歩させることは何たる骨折であつたらう。

而も、私は敢てそれを企て、そしてこの子供等の中に立つて、發音し、それに倣つて子供等にも發音させたのである。それを參觀したものは、誰も皆な、その結果を見て打ち驚いた。それは天空に、見えてはまた消える流星の如きものであつて、何人にもその性質が分らなかつた。私とても自分ながらそれを理解しなかつた。それは私が漠然と感じてはゐたが、然し明白には知らなかつたところの簡単な心理的觀念の結果であつた。

私が當時求めてゐたものは確かに人爲の術の鼓動であつた。私はそれを捉へた。實に不可思議なものを捉へたものである。賢明な人ならば、そんなことを敢てしないだらうに。私は運好く盲目的であつた。さうでなければ、この私だとしてやはりそんなことを敢てしなかつたであらう。私は自分が何を爲したかを明白には知らなかつた。然し、私は何を欲求したかを承知してゐる。曰く、死か然らずんば目的の遂行。

然し、この目的成就の手段としては、實に極度に悪かつた境遇に立ちながら、是非とも働かねばならぬ必要の直接の結果以外には何もものも存しなかつた。

私は如何にしてやり通したかも知らぬし、また殆んど理解もしてゐない。或る意味では、私は必要と闘ひ、眼前に山なす千難萬苦を物ともせずに進んだのである。明らかに不可能なる體力をも顧みず、私はただ直接當面に横はるもの以外には何ものにも眼を觸れず、何ものをも認めまいとする不屈不撓の意志を立て通した。だが、私の意志はその時迫り來つた難關に向ひ、こればかりは切り抜けねばならぬと思つて闘つた。そして私の生死は實にそれによつて決せられると思つたのである。

私はかうしてスタントに於て働いた。然るに、たまく、埃太利軍の侵入のために、私の事業は中心から破壊され、そして迫り來る私の悲しき感じのために私の體力は非常に衰弱し、遂に私は



スタンツを立ち去つたのである。そして、此の時に至るまで、私はまだ私の教育方法の基礎に就いて、はつきり分らなかつた。然し、私がこの不可能事を敢行してゐた時、漸く私は豫想しなかつたことの可能なことに氣づいたのである。そして、私は幾代もの間足跡を印しなかつた道なき密林をどん／＼突き進んで行つた時に、私はたま／＼幾代の間未だ曾て通つたことのなかつた大道に通ずるところの足跡を、その密林中に發見し得たのである。

私はこの事を少し委しく物語らう。私は止むを得ず、ただ一人で、他の手傳も受けずに子供等に物事を教へなければならなかつたが、さうしてゐる間に、私は一纏めに多人數を教授するの術を學び得たのである。そして私には聲高く物言ふより外には、何の手段もなかつたから、そこで生徒等に同時に畫いたり、書いたり、作業させたりするといふ考が、自然に私の念頭に湧いたのである。多勢のものが繰り返へすために非常に騒々しくなるので、そこで、私は調子を合はせ、調子をとることが、子供等にとつて課業の印象を深めることになるといふことを感ずるやうになつた。すべての子供等が全く無學であつたので、私はどうしても初歩の事柄に手間どらざるを得なかつた。そして、そのために初歩の事柄を完全に覚え込ませるやうにすれば、非常に子供等の内部の力が開發され、また、最低度の事柄をすっかり完全に覺えたといふ感じが非常に多大の結果を生むといふことを、私は眞に理解するやうになつたのである。私は如何なる種類の知識でも

その初歩と、知識の完全なる輪郭との關係をその時初めて會得した。そして、知識の階梯を高く進んで行く毎に、これらの點に於て、亂調子と完全さの缺乏とを實地に示すところの測り知るべからざる生徒間の等差が存することを、當時に至つて初めて感じたのである。それで、私がこの初歩の知識を完全に學得させることに専ら注意を向けた結果は、遙かに私の豫期以上の功を奏した。忽ち、兒童にこれまで知られなかつた力の意識を生ぜしめたのみならず、特に美と秩序との一般的の感じを起さしめた。彼等は自己の力を感じ、そして、かの倦怠に満ちた普通の學校の調子は、私の教室から幽靈のやうに消えてしまつた。彼等は欲した、試みた、持続した、成功した、そして嬉笑した。彼等の調子は單に教へられる事柄を學ぶ者のそれではなかつた。何とも言ひ知れぬ力が眠りから覺めた調子であつた。即ち、これら覺醒された力が彼等をして進んで事を爲さしめることの出来る、また事を爲さうといふ心を起させるといふ感じのために、情も智も感激されるといふ調子であつた。

子供等はお互に教へ合つた。彼等は私がするやうに言ひつけたことを進んで實行しようとするとして、多くの方面からその實行の手段を自から工夫し出したことも屢々であつた。兒童がかく學習の初めに於て、多くの方面に自己活動を發揮したのを實地に見て、眞の教授、一切の教育的教授は兒童自身から引き出し、そして、兒童自身の心中に生れさせるやうにしなければならぬと



いふ確信が、非常の力を以て、私の心中に生れ且つ成長したのである。むろん私は主として必要によつてこの確信にまで導かれたのであつた。私には仲間の助手が一人もゐなかつたから、私は一人の出来のよい子供を二人の出来の悪い子供等に割り當てた。彼は二人の子供を兩腕に抱き自分が知つてゐることを彼等に教へ、そして、二人の子供は彼に倣つて自分等の知らないことを言ひ返へすやうに慣らされたのである。彼等はお互ひ仲善く腰掛けた。喜びと同情とは彼等の心を生き生きさせた。そして彼等のお互ひに目覺めた内的生活は、彼等をすん／＼發奮させ前進せしめた。この相互獎勵によつてのみ、初めてかうした進歩向上が出来るからである。

親愛なる友よ、君はかやうな多勢一緒になつて學ぶ子供等の集團について聞いたこともあらうし、また彼等の勇氣や喜ぶ様を實地に見たこともあらう。それを見た時に如何に感じたかを、試みに想像し給へ。私は君の眼に涙の浮べるのを見ると同時に、私の心には、まだ「大衆を教ふることは一つの夢だ」といひ得る人々に對する義憤さへも起つたのである。

實際、それは決して夢ではない。私は母親の手に、子供の手、そして無學者の手に技能を授けよう。さすれば、嘲笑者は罵聲を潜め、そして「それは一つの夢だ」とは、もはやいほなくなるであらう。

神よ、私は私をして必要に迫らしめ給へることを感謝する。若しこの必要といふものがなかつ

たならば、私は決してかやうなことはないはなかつたであらう。従つて私は嘲笑者をして口を緘せしめることがなかつたであらう。

私は今ではすつかり確信が出来てゐる。尤もこの確信が出来るまでは長くかかつた。然し、スタンツで教へた子供等は、うんざりするやうな非心理的な家庭や學校の訓練にも、その力を殺してしまふやうなことがなく、此處の子供等よりも迅速に力が伸びて行つた。人間の種類が別であつたのだ。同じ貧兒でも都會の貧兒とは違つてゐたし、また麥や葡萄栽培地の虛弱兒とも違つてゐたのである。私は人間性の力を見、且つその十人十色の特質が極めて自由に發揮する様を見たのである。そして、人間性の缺陷は實に健全なる本性の缺陷であつて、かの人爲的な劣悪な教授のために生ずる種々の缺陷、換言すれば、絶望的に衰へ果てた、そして、完全に不具になつた心意とは、とても比較すべからざるほど異つたものである。

私はこの無學者の集團の中に、尙ほ直觀の力あることを見出した。そして、既知のもの及び既見のもの、それに就いては彼等初歩の人形どもは少しもはつきりと考へてゐないが、私はなほその中にそれらの確實な概念があることを見出した。

私は彼等から次のことを學んだ。若し學ばなかつたならば、私は盲目であつたに相違なからう。次のこととは、眞實の知識が書物の上の知識に對する自然的關係を知り得たことに外ならな



い。私はこの一面的な文字上の知識及び全然言葉（それはその背後に何も無い場合には、單なる音聲音響であるに過ぎない）に信賴することが如何にも不利益であるに相違ないといふことを彼等から學んだ。私はそれが眞實な直觀の力及び外界の事物の確實な概念にとつて非常な邪魔をなすものであることを知り得たのである。

この事はスタンツに於て私が考へ及んだところである。私は私の實驗によつて、國民教育を心理的基礎の上に築き上げ、直觀を基礎として得らるべき眞の知識を据ゑ、そして皮相的な知識の包みの掩ひをはがすことが出来るといふ結論を得たと感じたのである。私は物事を深く考察し、そして、偏頗な心を持たない人々に對して、この問題を解くことを得たと感じた。然し、偏頗心ある群集は、恰も皮殻を打ち割つた後も、更に鳥栖や小舎の中に閉ぢ籠つてしまつて、そのため飛んだり泳いだりする力をすつかり失つてしまふところの鷲鳥のやうなものであつて、とても彼等を賢しくさせることが出来ないことは、よく私の承知してゐるところである。

然るに、私はブルグドルフに來てから、これ以上の事を學んだのである。

だが然し、想像して見られよ。君は私の心を知つてゐる。私がどんな感じを以てスタンツの地を辭したかを想像し給へ。かの破船の憂き目に遭へる人が、氣の揉める疲れ果てた夜を過ぎて後、漸く陸地を見つけ、生の望みを回復したと思ふ間もなく、またく、悪風のために果てて

れぬ大海に揺られつゝ、震へる心もて幾度か、「何故死ねないのだらう」と繰り返へし口ずさみながら、深淵にもぐり込まず、疲れ切つた兩眼を開き、四邊を見まはし、濱邊はいづこと探し、漸くのこと再びそれを見つけた時には、もはや、身體の節ぶしは痲痺し果て、われと我が身を覺えざるやうになるのである。私はまさしくその通りでさへもあつたのである。

ゲスナーよ、すべてこの事を想像してくれ給へ。私の情緒、私の意志、私の事業、私の船、あゝ私の災難、私の神経の激動、そして私の落膽を考へてくれ給へ。友よ、私がスタンツの地を離れてベルンに赴いた當時は、實にかやうな境遇にあつたのである。

フィッシャーはグルニゲルのツェーエンダーに紹介してくれた。その人のお蔭で、私は其處で少しは落ちついた日を送つた。私は休息を必要としたのである。いつたい私が今日まで生きてゐるといふのは不思議である。然し、それは私の港ではなかつた。それは大海中に在る岩であつた。そこに暫く休息した後、また泳がねばならなかつたのである。ツェーエンダーよ、私は生きてゐる限り、決して當時を忘れまい。當時の休息が私の生命を助けてくれたのである。然し、私は私の仕事をせずには生きてゐることが出来なかつた。グルニゲルの山嶺に立ちて脚下にある美はしき、果しなき谿谷を展望せる時、あゝこれまでかやうに廣々した景色を私は眺めたことがなかつたのであるが、而も、それを眺めてゐる瞬間でさへも、私は自然の美はしき景色などを考



へるよりも、悪劣なる教育を受けてゐる大衆のことを一層深く考へてゐたのである。私は私の目的を忘れては一日も生きてゐることが出来ないし、また生きてゐようとも思はなかつたのである。

當時私は殆ど死に瀕せんとしてゐたのであるが、それでも私はスタンプを立ち退いたのである。然し、スタンプを辭したのは、私の自由意志から出たことではなく、軍隊の策戦上、私の事業の繼續は一時不可能となつた結果であつた。然し、今更ながら、私が如何なる仕事にも役立たず、全然無能であるといふ、例の愚にもつかぬ批評が世間に行はれ出したのである。私の知人でさへも「成るほどこの五個月間は首尾よく事業家としての働きをやりおふしたのであるが、さて六個月目はさうは行くまい。さうなることは初めからわかり切つたことであつた。あの人は何事も徹底的にやれない人である。結局は小説中の古英雄と同じく、實際生活にはとても向かない。今度のことでもその通りで、ただ生命だけは取り留めたといふに過ぎない」といつたのである。彼等は面と向つて、私に「三十代に感情的なことを書いてゐた人が、五十代になつて合理的な仕事をすると思ふのが、いつたい滑稽なことである」ともいつた。そして、彼等がせい／＼私を善意に解釋したつもりで批評したことは「彼は美はしき夢を考へてゐたのであるが、何でも考へてばかりゐる馬鹿者の常として、時折、その夢について奇想天外的なことを考へることがあるも

のだ」といふのであつた。誰も私のいふことに、耳を傾けるものがなかつたことは、いはずと知れたことである。だから、スタンプでも失敗したとか、いつたい、何をやつてもいつでも失敗する人だとか、世間一般が異口同音に私を批評したのである。エフはこの意見を裏書きするところの或る親切な人たちの會話について私に報道してよこした。それは或る公けの會合の席上でのことであるが、然し、私はそのことを餘り詳細に書き記すことを止めて、ほんの少しばかり報告しようと思ふ。

甲の人はいつた「なんと、あの男はつむじ曲りぢやありませんか」と。

乙の人は答へた「さうですね、あの愚物は全く氣の毒ですよ」と。

甲の人はいつた「さうです、私もさう思ひますよ、だが、あの男はとても仕方がありませんね、一時閃きを投ずると、なるほど、あの男は實際何か出来る男だといふやうに考へられるかも知れませんが、次の瞬間には、またまたあの男の周圍はまつ暗らくなつてしまふ。そして、あの男に近寄るといふと、ただ自分の身を焼き焦がすばかりですよ」と。

乙の人はいつた「あの男が自分で焼けて死ななかつたのは、かへつて可哀さうですよ。あの男は灰になるまではとても仕方がありませんよ」と。

甲の人はいつた「全く困つたものだね、僕等は早速それをあの男のために希望しなければなら



んよ」と。

あゝ、これがスタンツに於ける私の事業に對する報酬であつたのである。而も、その事業たるや、恐らくどんな人間でも、かやうなみすばらしき規模で、そしてあのやうなひどい境遇の下に於てではとても企てようと思はれる事業であり、そしてその事業が私の内心に及ぼした結果が遂に私をかうした、今日あるところの境遇にまで實際立ち至らせたのである。

私が昔ながらの意志と以前よりの宿望とを懐き、そして私が中斷した事業の糸を再び取り上げ外の何事をも顧慮せず、一意専心どんな土地でも、再びその糸を継ぎ合はすことより外に何の願ひも、何の求むるところもなく、グルムゲルの山を下つて來た時には、世間の人々は本當にびっくりしたのである。

レンガーとスタッファアとは歓迎してくれた。法官シュネルはブルグドルフに行くやうに勧めてくれた。そこで、私は二日の後にブルグドルフに赴き、そして知事シュネルと醫者のグリムの二人こそは實に今日の舊い腐つた學校が浮砂の上に建てられてゐることを承知してゐることを知り、而も、かやうな浮砂の下にも、尙ほ堅固な地盤を見出すことが必ずしも不可能でないと思ふに至つたのである。私は彼等に感謝する。彼等は私の宿望を眞面目に考へてくれ、そして、私が求めてゐる道を開くことに助力してくれたのである。

然し、ここでも相變らず困難な問題が生じないわけではなかつた。もつちの幸ひにも土地の人は最初、私をばやはり衣食のためにあちこちを轉々する他の學校教師と同じものだと考へてゐたのである。二三の金持は親切に私に挨拶したし、二三の牧師は鄭重にも私の事業に神の恵みを賜はらんことを祈つた。私はたとひその言葉に對して何等の信用を置かぬことを明白に斷はらねばならぬにもせよ。また二三の如才ない人々は、私の事業から、何か自分等の子供にとつて有用なことが生ずるものだと信じてゐた。誰もが、十分安心し、満足してゐたやうだし、そして私の事業からいよ／＼ほの見えたものが、その正體を露はすまで待たうとしてゐるやうに見えたのである。

然るに、この敏活な小都會には地主連の子弟を教へる教師がゐてその教師の教室に私は遣られたのであるが、この教師は自分の商賣の方に却つて熱心してゐた。(譯者註) この教師といふのは立派な靴屋で、サミュエル・デイムリといひ、靴を造りながら子供等に本を教へた。ところが、私がそこに行つて、發音の初歩を口づたひに教授したので、とどのつまりは自分の地位や収入が私のために取つて代はられるのではないかといふことを、その教師が氣づいたと私は考へた。或る時、その教師の教授してゐるハイデルベルと教理問答が私のために廢されようとしてゐるといふ評判が近所の町に弘まつた。いつたい、この問答書は今日でもやはり一番時勢に後れた村の百姓共と同じく下層町民の若い衆の心靈を養ふ糧食であつて、



御承知の如く彼等は結婚の日までそれを後生大事に暗誦するのである。

而も、このハイデルベルヒ問答書一件ばかりに盡きたわけではなかつた。尙ほまた、町内では私が字も書けねば算術も出来ぬし、その上、正確に本も読めぬといふ評判が人の口から口へと傳へられたのである。

さて我が友よ、この巷の噂は必ずしも全然嘘なわけではない。私は完全に書き方も、算術も、読み方も出来るわけではなかつたのである。然し、世間の人々はいつものやうな巷の評判などは随分聞き飽きてゐて、餘り信用を置かぬものである。スタンツに於て、さうであつたことは、君が御承知の如くである。私は自分では完全に字が書けなくても、書き方は教へられたのである。そして實際、私がさうしたことを一切知らないといふことは、いつたい、教授の方法の極めて單純な初歩の個處に觸れんがため、また極めて無經驗な、そして極めて無學な大人も、やはり自分の子供たちと同じことを爲すことの出来るやうな手段を見出さんがために是非とも必要なことであつたのである。

尤も暫らくはブルグドルフの下層階級の人々が私の教へ方を一から十まで何事も前以つて受け容れようなどは期待されなかつた。況んや彼等がそれを信じようなどは尙ほ更ら思ひ及ばなかつたところである。彼等は實際信じなかつた。そこ、彼等は會合を開いて、私の新教授法を

彼等の子女たちに實驗することを欲せざる旨を決議したのである。町の人々は自分ら獨得の教授法に則つて立派にやつて行けるとしたのである。然し幸にして後援者や友人たちは、私の教授法を實地に行ふために必要なすべての處置を採つてくれたので、たうとう私は山の手にある極く初等の學校に職を奉ずることとなつたのである。

私はわれとわが身を幸福だと考へたけれども、それでも初めの中は頗る遠慮がちであつた。いつも私は町の人々が私を學校から廢めさせるのではないかと懸念してゐた。そのために私はいつもよりも一層氣まづい思ひをしたのである。そして、私はスタンツに行つて初めて熱心と快活とを以て教へた當時は、恰かも自から不思議な靈廟を打ち建てたやうに感じたのであるが、今度はブルグドルフに来て見ると、がらり一變して、如何に仕事の上だからとて、世間の拘束に屈從せねばならぬ情けない境遇をかれこれ思ひ合はせると、どうして同じ人間でありながら、かくも心の使ひ分けが出来たか、殆んど譯が分からぬほどである。

この學校には一見合理的だと思はれる學校訓練が行はれたが、然しそれは如何にも術學的であり、見せかけの趣が脱け切らなかつた。かうした教育振りは、私にとつては初めてなのであつた。私はこれまで、かやうなことは、どんな場合でも堪へられなかつたが然し今日では私の目的のためにそれに堪へてゐるのである。私は例の私の字母發音を朝から晩まで大聲で誦へた。そし



て私は別に教案なしに、かのスタンツに於て中止しなければならなかつたところの經驗的方法によつて繼續して行つた。私は挽ます幾つもの綴字の組み合わせをやつた。私は残らずの書物にこれら幾つもの綴字の組み合わせと、幾つもの數字とを書きつけた。かくして、私はあらゆる方法を以て、綴字及び計算の初歩を極度の單純さと形とに置かうと工夫したのである。それで、兒童は極めて嚴密なる心理的順序を以て初歩から次第に第二步へと進むことが出来た。かやうにして、やがては破綻なしに完全に理解された第二步を土臺として第三步、第四步へと迅速無難に進んで行くことが出来たのである。私は最初兒童に石筆を以て文字を書かせたが、今度はその代りに角や方形や、直線や、曲線などを描かせるやうにした。

かうした課業をやつてゐる中に、次第に私には「直觀のイロハ」なるものが可能であるといふ考が生じて來た。これは今や私にとつて重要なものである。そして私はこの考をまず、吟味してゐる中に、一般的教授方法の考案がまだまだ臆げではあつたが、私の念頭にその全面を十分に發露するに至つた。而も、それがはつきりと會得されるまでにはかなり長い間かかつた。君は今以てそれがはつきりと了解されてゐまいが、然し、それは確かに眞實である。私は幾月も幾月もかかつて、この教授の方法をその要素にまで還元しようといふ斬新な企ての初歩の諸點を殘らず考究し、そして、全力を盡しそれを極度の單純さにまで置かうと努めたのである。而も私は

その關係する工合が分らなかつた。否、少くとも明瞭にそれを意識してゐなかつた。然し教へて行く時間毎に、私は次第次第にそれがはつきりと分つて行くやうな感じがしたのであつた。

私がまだ幼少な時分に、下の者が上の者に仕へることは神聖なことであると説教されたものであつた。だが然し、今日に於て私は人が奇蹟を行ふためには、老年になつて我が身をへり下して目上に仕へなければならぬといふことを學び得たのである。尤も私は一つも奇蹟などは行ふまいし、またどの道、それを行ふやうに生れついてもゐなければ、行ふやうに造られてもゐない。私は實際の事實の上でも、かやうな高尚な奇蹟などの程度には達してゐまいし、また、どんなことがあつても奇術によつて奇蹟の眞似をするなどと見せかけようとは思はない。思つても出来ないのである。今日私の能力が如何に微弱であるかはよく承知してゐるのである。然し、若し私のやうな老年の人が全心をこめ、そして不屈不撓の熱心さを以て私自身のやうな主義の下に、下から上へ仕へようと思ひ、または仕へるやうに仕向けられるならば必ず成功するであらう。だが、そんな人は一人もゐない。私ぐらゐの年頃になれば、かやうな人もひとへに安樂椅子を求めらるものである。そして、それは誠に至當のことであり、間違つたことでないからである。然し私の境遇はさうしたものではない。私は身老境にあつても、やはり下から上へ仕へることを許されてゐることを喜ばねばならない。私は自から喜んでかくする。ただそれを我流でやるのである。即ち、



私が実際に行ひ且つ企てる場合には私は本道を求めるのである。かうした本道を通ることの利益は、その眞直な道や公道は曲折の多い道を通つて普通に名譽や賞讃を博するに至るといふ、さうした廻り道の下らぬ面白味を破壊するところにある。苟くも私がしようと試みることを十分に爲し得るならば、私はただそれを説明しさえすればあとは用事がない。さうしてさへ置けば、極く簡単な人でも後にそれを爲すことが出来るであらう。だが然し、私は私の仕事によつて別に名譽も賞讃も得ようと思はぬといふ、明らかかな確信を持つてはゐるものの、やはりその仕事を私の一生の花であり、冠であると認めてゐる。そして、この仕事のために長年月間盡し、且つ老年になつても、下より上へ仕へた後ならば、なほさらそれを私の一生の光榮と考へるであらう。その利益が、日に日に私の心を刺戟するのである。私がこのやうに、くだらぬとばかりはいへぬ學校の細かい仕事を一切引き受けてやつて居り、そして、いつも朝は八時から夜の七時まで——尤もその間に二三時間は休憩するが——とにかく、ぶつ通しやつてゐるが、私はもちろん、毎瞬間始終、物理機械的法則の存在を證明すべき實際の事實をつかまへようとしてゐるのである。そして、その法則に従つて吾々の心意が容易にかまたは困難してかとはとにかく、外界の印象を捉へ、且つ保存するのである。私は毎日もすく／＼かやうな法則の感じに私の教授を當てはめた。然し、私が昨夏私の事業の本質を説明して聞かせた事務官グレルが、私に佛蘭西語で「貴下は教育を機械化した

いと仰しやるんですね」といつた時までは、私は眞に法則の原理を覺らなかつたのである。私は佛蘭西語はほんの僅かしか分らない。が、この言葉によつて彼は私が教育及び教授を心理的に正しき順序にまで還元すべき手段を求めてゐるといふことを意味したものだと思つた。そして、この言葉をその意味に解して見れば、彼は眞に要點に觸れたものであり、また私の意見では、彼は私の目的及びその目的にまであらゆる手段の要領を私に示すところの言葉を私に向つて發したのだと考へる。私はそれを發見するまでにはさぞ長年月を要したことであつたらう。といふのは、私は教授をやつてゐながら、自からそれを實驗せず過ぎ、ただ専ら鮮明ではありながら、漠とした感じによつてゐるに過ぎなかつたからである。そして、その感じは實際私の教授の進行を確實なものとしたけれども、それがために私はその法則を合理的に知らしめようとはしなかつた。尤も私はこれより外に仕方がなかつたのである。私は三十年間といふものただの一冊の本も讀んだことがなかつた。私は一冊も讀み得なかつたし、また現に讀み得ないのである。私はそれ以上に抽象的觀念で對していふことをもたなかつた。私はただ／＼確信、即ち數知れぬ、而も大方は既に忘れてしまつた雜多の直觀の結果であるところの確信に基いて生きて來たのである。かやうに、私は現に自分がそれによつて實行してゐるところの原理原則を知らずにゐながら、ただ一意兒童に直接外界の事物を説明することが兒童の五官によく直接觸れるものだといふこと



を飽くまでも主張し出した。そこで私は初歩の階梯から最後の目標に至るまで教授を辿つて行つたのであるが、かくして私は教へらるべき兒童の初期の歴史を、その根源の初歩にまで溯つて研究しようとした。そして、私は忽ち兒童の教授の第一時間は、兒童の生誕の時間であることを確信するに至つたのである。兒童の心意が自然界から種々なる印象を受け得るその瞬間からして自然界は兒童に教授するものである。新生命そのものは實にこれらの印象を受けんとする當初の覺醒した態度に外ならない。換言すれば、それは今や彼等の個性の發展に向つてあらゆる力と、あらゆる衝動とを以て突進するところの完全なる身體的奮の目覺めに外ならない。更に別言すればそれは今や完全となつた動物の覺醒に外ならないのである、そして、その動物はやがて一個の人間となるであらうし、また、ならねばならぬものである。

かく見れば、人間を教へるといふことは、畢竟、自然を助けてその獨得の働きをますます進行せしめる人間の術に外ならないのである。そして、この術は本來、兒童が受ける印象と兒童の發展せる力の正確なる程度との間の關係及び調和に基礎を置くものである。教授によつて兒童にもたらされるところの種々なる印象の間には、そこに一定の順序次第といふものがなければならぬといふことを必要條件とする。そして、この順序次第が存すればこそ、印象の初めと進みとは、兒童の心意中に發展するところの力の初めと進みとに歩調を合はせて行ける筈である。私は人間

の知識の全範圍を通じて、また特に人間心意の發展を生ぜしめる根本の諸點を通じて、この順序次第の如何なるものであるかを研究することが實に吾々の本性及び欲求に適するあらゆる程度の満足すべき學校及び教科書を得、且つ保持すべき簡單な唯一の方法であることを忽ち會得したのである。それと同時に、私はこれらの教科書を作るに當つて、教授の材料は兒童の發展するところの力の程度に應じて配分安排されねばならぬことを會得し、兼ねてまた、教授の上のすべての事柄に於ては、そも／＼これらの教授材料中の何れが兒童の各年齢に相當するかを極めて正確に決定することが必要である。而も一方に於ては、若し兒童の力が相當の程度に發生發展してゐるならば、兒童のその程度を阻止しないやうにする爲めと、また他方に於ては、兒童が全くそれに基づけられないものを以て、兒童の重荷を増したり、兒童の心の調子を亂したりすることのないために、かく正確に決定する必要があるのである。

これは私には明瞭に分ることである。いつたい、兒童に向つて綴字や読み方を教へても、道理上差し支へない時期に達する以前に、兒童は先づ豫め外界の事物と言語との兩方の知識をかなりの程度に於てもたしめられなければならない。兒童はその初めの年齢に於て萬物の明白な感覺的印象を得るやうに心理的訓練を施される必要があることを私は全然確信したのである。然し、かかる訓練が術の助けなしには到底考へられもせねば、また直ぐさま吾々人間に期待すべからざる



ことであるから、そこで止むを得ず、私は繪本の必要を感じずにはゐられなかつた。これらの繪本は文字の初歩本に先立つべきものである。それは、吾々が言語によつて表現するところのいろいろの觀念を、選擇宜しきを得た眞實の事物によつて兒童に明らかならしめんがために外ならない。そして、この眞實の事物は、或は實際のままにか、或は巧みに出來てゐる模型及び繪畫の形に於てか、とにかく兒童の心意に提供されるべきである。

私は種々便宜を缺いて居り、且つ私の實驗中に誤謬も一面的な個處もあつたに拘はらず、幸にも或る實驗が當時圓熟しなかつた私の意見を著しく確證したのである。それは子供の事を心にかけた一人の母親がまだ三歳になるかならない自分の子供を私の個人教授に委託したのである。私は暫らくの間、毎日一時間だけその子を監視し、そして暫らくの間その子と共に私の方法の鼓動を感じた。私はその子を文字や形體や、その他手當り次第の事物によつて教へようとした。即ち私はこれらの手段によつてその子に明瞭な觀念と表現とを興へようと思つたのである。私はその子は何んでも知つてゐるもの、例へば色であるとか、手足であるとか、場處であるとか、形であるとか、數であるとか、かういふものに就いて彼が知れるものを間違ひなく名ざしていはせるやうにした。私は兒童の最初の疫病ともいふべき難澁な文字の教へを排することを餘儀なくされた。彼は繪と實物との外には何も欲しなかつた。おきに彼は自分の知つてゐる範圍内の事物につ

いて明瞭に自分で表現するやうになつた。彼は街路や庭園や部屋に於ける普通の實物や繪畫を見すると、忽ち動植物の極めてむづかしい名前を發音し、そして既知のものとは全然未知のものとを比較し、心中にその事物の明瞭な感覺的印象を生ぜしむるやうになつた。たとひこの實驗は横路にそれたり、奇異な、現在とは懸け離れたことのために役立つて、却つて現在當面のためには不利を招くやうなことがあつたとはいひながら、その子とその子の環境との接觸を促進せしめ、且つ、その子の力の擴張に於ける自己活動の快味を親しく味はせるための手段を、多方面から明らかにしてくれたことは疑はれない。然し、この實驗は尙ほ且つ私が特に求めてゐたことに對しては決して満足な結果を興へなかつた。なぜなれば、その子は既に私の手許に來るまでに既に特別の教養を受けずに三個年を費したからである。而もこの年齢になつても、尙ほ自然はその子をして無數の事物をば頗る明確に意識せしめたといふことを私は確信するのである。ただ心理的の術を以てこの知識と言語とを結び付け、それによつて言語を高度の明瞭さにまで上げるといふことが必要である。かくして吾々は多面的な人爲的の技術や眞理の基礎をば自然自身が教へるものと結び付け、且つまた自然の教へる事柄をばそれと結びつけらるべき人爲的の技術及び眞理のあらゆる基礎を説明するための手段に供することが出来るわけである。この時分の年齢に於ては兒童の力と經驗とは兩つながら大なるものであるが、元來今日の非心理的な學校は、自然そのも



のが兒童の心意に生命を與へるところの力と經驗とのすべての結果を破壊するための單なる人工的な窒息器たるの觀がある。

友よ、これは君の御承知の通りではあるが、一寸この虐殺の恐怖を想像して見給へ。吾々は兒童が五歳に達するまでは、それをして自然を十二分に享樂せしめ、自然が與へる一々の印象を自由により兒童の上に働らかせるやうにすると、兒童は自己の力を感ずるであらう。彼等は既に無拘束な自由と、すべてその快味との樂しさを十分よく知つてゐるのである。感覺的な樂しき野育ちの兒童が、自己の發育發展に於て取るところの自由な自然的傾向は、兒童の心意に於て既にその最も決定的な方向を取れるものなのである。そして、兒童がまる五年間この感覺的生活の樂しさを味はつた後、吾々はすべてを圍繞する自然界を兒童の眼前から消え失せしめ、彼の無拘束な自由の樂しき進路を亂暴にも杜絶し、彼をば恰も臭い室の中に一群の羊をこちやこちやに入れて置くやうに檻の中に入れ、無残にも數時間、數日間、數週間、數月間、數年間も縛りつけ、そしてひたすら無味乾燥で單調な文字の詮議をなさせて、そして兒童のそれ以前の境遇と比べれば、確かに狂氣にならせるやうな人生の行路を辿らせてゐるのである。

私はこれ以上記述することを止めよう。若しこれ以上述べれば、遂には今日幾千といふ大多數の教師等がただ單に自ら尊敬すべき生計の道を見出すに不適當であるといふだけの理由で、いや

いやながらその職に従つて居り、而も、それよりもまさつた仕事には不向きであるから教師の職に従つて居りさへすればとにかく飢餓だけは免れるだらうといふぐらゐにしか、自分の職務を考へて居らぬ實情を述べることになるであらう。かかる事情の下にあつては如何に無限の苦しみを兒童が受けなければならぬだらうか、若しくはとにかく、そのために害されるだらうかは、蓋し想像の外であらう。

友よ、かの人の首を斬り、そして罪人を生から死へと送るところの劍が人の身體に及ぼす結果は、兒童等がこれまで長い間樂しみ來れるこの自然の美はしき指導から、忌はしく情けない學校の課程への生活變化が兒童の心靈の上に及ぼす影響よりも果して大なることを得べきかを篤と考へてもらひたい。

一般大衆はいつも盲目であるだらうか。吾々の精神錯亂や、吾々の無邪氣の破壊や、吾々の才能の滅却や、はたすべての人々をして不満足な生活を送らせ、幾千の人々を病院に於て死なせたり、または氣狂ひにさせるところの、すべて如上の悲惨事が生むところのあらゆる結果などが逆り出づる大本の源泉、この源泉に一般大衆は永劫に到達しないだらうか。

親愛なるゲスナーよ、若しも私がこの大本の源泉を一般大衆に知らしめる上に微力を盡したならば、如何に心樂しく私はこの世を辭するであらうよ。若しも私に今日無残にも隔離されてゐる



ところの自然と人爲（術）との統一を密接ならしめることが出来るならば、どんなに嬉しく死ねることだらうよ。あゝ、私の深き心魂は如何に激動してゐるのだらう。自然と術とは引き離されてゐるばかりではなく、實に二者は無情な人々のために狂ほしきばかりめちやめちやに引き割かれてゐるではないか。

かそれは恰も、悪靈が現代の吾々の國土に呪ふべき二者の不和を地獄の土産として取つて置いたと思はれるほどである。そして、これまで如何なる時代、如何なる國土に於ても、かの自己欺瞞や僥倖や自惚等が人類を弱力悲慘に陥れたよりも以上に、この哲學的時代に於ける吾々を弱からしめ、そして惨めなものとなさんが爲めに、かくもこのやうな土産を現代の吾々に與へるのであらう。

かやうな世界を忘れたならば、どんなに嬉しいであらうか。私はわが愛兒ルードヴィッヒの傍にあつて全くそんな世界を忘れてゐるのが、どんなに幸ひであらう。今やルードヴィッヒの氣まぐれな心は、私をして次第に深く嬰兒のための入門書の精神に拘せしめずには措かないのだ。然り、わが友よ、この初歩の入門書に於て、現代の愚なる教育に對する絶好の攻撃を與へねばならぬし、また與へるやうにするであらう。入門書の精神は次第次第に私に明瞭になつてゐる。そして、この入門書は最初、人間知識の最も簡単な要素乃至初歩から出發しなければならぬ。それ

は萬物の最も根本的な形を以て兒童の心を深く印象しなければならぬ。その中に數や秤の關係の第一意識を、夙に且つ明瞭に生起せしめなければならぬ。そして、この入門書は兒童に向つて、彼等の知識及び經驗の全範圍にわたつて語と文とを與へ、就中、自然そのものが吾々をすべての藝術と技術とに導くための知識の、梯子の第一歩を完全に踏み占めるものでなければならぬ。

若し、かやうな書物がないならば、なんと大なる缺陷を感じしめることであらうよ。吾々は吾自身の技倆によつて得ることの出來たものを欲するばかりでなく、また今まで得ることの出來なかつたものをも欲するのである。吾々が就中最も欲するものは精神乃至心魂である。即ち自然そのものが吾々人間の助力を待たずその心魂の生命を以て吾々を圍繞するところの、その精神乃至心魂である。この精神乃至心魂が、これまた、吾々人間に缺けてゐる。そして、吾々が現に見る悲しむべき庶民學校とその單調な文字教授とのために、自然が吾々に烙印しようと思ふところの燃焼方式のほとぼりだも吾々の心中から吹き消されつつあるのである。それだからして、吾々は吾と吾が身を虐げてゐるわけである。

だが、餘談はさて置き、話の本筋に歸らう。私はかやうに、一面に於ては心理的に開展するところの人間の能力と才能といふ實際上の手段を最初の發足點とする方針にたより、搖籃時代の見



童より、引き続き如何なる年齢のものの發展に對しても、これを實地に適用すると同時に、他面に於て、その年齢に至るまで全然かかる意見や手段の範圍と交渉に陶冶され、養育され來つたところの兒童を教へなければならなかつたのである。そこで、私はもちろん幾多の方面に於て私自身の意志に反してさうして來たし、そして、私の主義、私の原則、特に私が事物及び言語の知識の心理的順序次第に準據して兒童諸觀念の發展を指導して行かうといふ私の原則に直接反對と思はれる手段方法をむろん採用もしたし、また採用することを餘儀なくさせられたのはいふまでもないことであつた。私にはどうしてもこれより外に爲すすべがなかつたのである。私は恰も暗の中にあつて、兒童の測り知るべからざるほどの、種々なる能力を探知することを餘儀なくされた。私は出来る限りの方法を盡して仕事に着手し、そして、たとひどんなやうきさの兒童でも、殆ど想像し得ざるほど缺けてゐることに思ひ及べば、實際、私には可能と思へた以上に遙かに進歩してゐることを發見したのである。人間の力が及ぶ範圍だけでは、私は一種いふべからざる睡眠状態を見出した。然し、この睡眠状態の背後に、自然は死んでゐなかつた。私は、今や次のことを知り、且つ、いひ得るに至つた。曰く、人間の過誤と無分別とが全然、兒童の心情に宿る人間性を窒息させてしまふ、などといふことは、如何に長くかかつても出來つことがない。そ

こには神があつて、この神が吾々人間の胸奥に、吾々に逆らふところの狂氣に對する一の對抗力を注いだのである。吾々を圍繞する一切自然の生命と眞理はこの對抗力を支持し、造物者の永遠の歡喜を買はんとする。そして、造物者は、吾々人間の神聖な本性が吾々の弱少無智な幼時に於て没却されることを決して欲するものではなく、すべての人の子が確實に眞理と正義との知識にまで向上することを欲するものである。吾々人間は自己内心の本性の價値を、自己自身を通して、自己自身の過誤によつて、そしてその十分なる意識を以て没却してしまへば、誤謬の迷路にさまよひ、不徳の深淵に陥るゆゑを、神は人間をして自覺せしめようとするものである。然し、近頃の大多數の人々は、神が自分らのために如何なることを爲すかを殆んど知ることなく、そして吾々の發展に對して自然が及ぼすところの無限無量の影響を少しも重んじようとはしない。否、却つて彼等は自然の仕事と比べれば、全く歪んでゐて、そして拙劣を極めた人間の貧弱な發明考案をば大騒ぎして持てはやし、さもさも人間の技倆が萬能なものであつて、自然は人類にとつて何等貢獻するところなきもののやうに思つてゐるのである。だが然し、それは誤解であつて、自然こそ、否、自然のみこそ、吾々人類に役立つものである。吾々を墮落させず、また、惑はすことなく一途に眞理と智慧とに導くものが獨り自然のみである。私が自然の進路を辿れば辿るほど私は私の事業をば自然のそれと合一せしめ、そして全力を集中して、自然の進行と歩調を合はせ



ようと努めた。而も、この進行がいよいよ以て無限に及ぶものと私には思はれたのである。然し、自然の進行を進むところの児童の力もまた同じやうに無限である。私はただ自分自身と、またそこにあるものを使用する術とに於ての外は、何處に於ても力の弱さを見出さなかつた。私は如何なる進行も可能でなかつたところに敢て驅進しようとした。尤もそこではそれ自身の中に各々の進行の力を具へてゐるところの事に搭乘することだけが可能であつた。もつと適切にいへば、私は児童の内部から引き出すことだけが可能であるところに、児童の内部に存し、ただ児童の内部に於て刺戟さるべく、決して、外部から児童に注入すべからざるものを、どうしても引き入れようと努めたのである。そこで、私は如何なることに就いて考へる前にも、豫め「児童がそれを爲すことが出来ない」かを三度思ひ廻らし、また「それは彼等にとつて不可能である」といふことをいふ前に十度思ひ廻らすことにしたのである。彼等はその年齢としてはとても不可能であるといふか私には思へぬことを實地に爲した。私は三歳の子供等をして、ただ無意味にむづかしいといふので、極めて無意味であるところの語を綴らせた。友よ、君は四歳以下の子供等が極めて長く、極めてむづかしい文を綴りおふせたのを聞いたであらう。君は實地にそれを目撃しなかつたならば果してそれが可能であると信じられるだらうか。それでも尚ほ私は印刷した文字を殆んど綴ることさへ覺束ない年齢の子供に對して、極めて要をつまんだ形で書いた地圖を残らず読み、且つ

一對の文字によつて指示されたばかりで殆んど知らなかつた多くの語をも讀むことを教へたのである。そして如何に正確に彼等がこれらの地圖を讀み、且つ何の苦もなく樂々とそれを暗誦し得たかは、君が實地に目撃した通りである。

そればかりではない。私は三四人の年長児童に向つて、込み入つた、そして彼等にとつては全く譯の分からぬ自然科学上の色々な命題をさへも、順序を追うて説明しようとして試みた。彼等はこれらの命題を幾度も繰りかへして讀み、完全に暗誦した。そしてこれらの命題を説明した幾つもの間をも覺え込んでしまつた。最初それはすべての問答と同じやうに、興味のない、譯の分からない語を單に鸚鵡のやうに繰りかへして誦讀したのであつた。然るに、一つ一つの觀念間の鋭き區別、この區別に於ける一定の排列、さては深く且つ打ち消し難く印象された、これらの興味のない語の意識が、かくの如き興味のないただ中に、尚ほ且つ光明と説明との閃きに照らされ、次第次第に彼等は眼前に横はる事柄を洞察し、その眞理の感じを得るやうになり、そしてその事柄はさながら濃霧を洩れ出づる日光の如くに、徐々にその姿を露はしたのである。

かやうな試験的な、そして過失だらけの處置によりながら、尚ほその間、私は私の目的を極めて明瞭に心に思ひ浮べることによつて、私はこの最初の試験が私の仕事に關する明瞭な原則を次第に打ち建ててくれたことを感じたのである。そして、私は日に日に次のことが段々明らかにな



つて来るのを覺えた。それは幼兒に於ては、兒童に理由を説明して聞かせるやうなことをしてはならぬもの、ただひたすら吾々は次の手段によつて兒童の心意を發展せしめることに専心しなければならぬといふのである。次の手段とは即ち、

第一に、彼等の感覺的印象の範圍を絶えず擴張せしめること。

第二に、かくして彼等の意識にまで持ち來たされた感覺的印象をば彼等に確實に、そして混亂を來たさしめざるやうに印象させること。

第三に、自然と人爲とが彼等の意識にまで持ち來たしたところの、若しくは一部は持ち來たすだらうと思はれるところのすべてのものに對する言語の完全な知識を彼等に與へること。

私がいつた通り、これら三個の見點が日に日に私に明瞭になつて来るに従ひ、それと同じく次の如きやはり確實な信念が次第に私の心中に出來あがつたのである。即ち、

第一に、幼少な兒童にとつてはいろ／＼の繪本の必要なこと。

第二に、これらの繪本を説明すべき一定確實な手段の必要なこと。

第三に、事物の名稱と、これらの繪本及びその説明に基くいろ／＼な語の知識とにまで導く手引が必要なこと、そして、兒童は綴り學ぶ時まで、それらの語を完全に知つてゐなければならぬ。

いつたい、幼少な時分からすらと事物の名稱をいひ得ることの利益は兒童にとつて極めて價值あることである。事物の名稱の確實な印象は、苟くもその事物が兒童の知識に上げせられるや否や、その事物をば忘るべからざるものとなすのである。そして、實在と眞理とに基づいた一定の順序にもろ／＼の事物の名稱を排列し配合することは、事物相互の眞實な關係の意識を彼等兒童の心意中に發生し且つ保存せしめる効果がある。そしてこのことの利益は、歳と共にますます多大となつて行くものである。されば、兒童は如何なる事物でも、十分にそれを理解するものではないといふので、それ故にこんなことは兒童にとつて何等の役にも立たぬ、とは決して考へてはならぬといふことが肝腎である。イロハを學ぶと共に、また、イロハを學ぶことによつて兒童は自から科學上の名稱に就いて大體その發音と調子とを我がものとした場合に、彼はそれのために、かの家庭や、大商館などにて、搖籃の時分から毎日毎日數限りなきいろ／＼な事物の名稱を知つてゐるところの兒童が受ける如き利益は、少くとも受けることは確かであらう。

汎愛派のフィッシャーは、私と類似の目的を持つた人であるが、私の教育の仕事を始めから實地に視察し、そして私のやり方が、彼自身の方法や意見と異つてゐる場合に、それが誤謬であると批評したのである。彼がシュタインミュラーに宛てて、私の實驗に就いて書き送つた手紙は目下彼がこの問題に就いて如何なる意見を持つてゐるかを示すものである。そこで、私は多少私の



考察を交へて、ここに付け加へて置かうと思ふ。(譯者註、以下引用文中に「彼」とあるはベスタロッツチのこと)

「ベスタロッツチの教育事業を批判するに當つては、萬事は彼の打ち建てた建物の土臺となれる心理的基礎を吾々が如何に判断するかによつて極まるのである。そして、彼の心理的基礎は、たとひその建物の外觀が多少粗笨であり、不釣合ひのところがあるにもせよ、とにかく確實堅固なものであらう。これらの諸缺點の多くは、作成者の經驗的なる心理的方法により、且つまた彼の外部の事情や、事件や、試験や、實驗などによつて説明されるであらう。彼が如何に撓ます幾多の實驗を試みるかは、殆んど信すべからざるばかりである。そして、彼はこれらの實驗を爲す前に於けるよりも、むしろ多くその後を於て、理論化するのであるから——尤も二三主要の觀念は別であるが——彼は確かに幾つも幾つも實驗の度を重ねるに相違ないが、然しその結果はますます確實の度を増すのである。さてこれらの最後の實驗をいよ／＼日常生活にまでもち來たすためには、換言すれば、それらを一般の人々の豫想した觀念や、いろ／＼の事情や、要求などに適用するためには、彼は寛大な同情ある助力者が力を貸して、それを纏まつた形に造り上げてくれることを必要とするであらう。さうでなければ、彼は自分で非常に長い時日を費して、一々徐々こそその實驗の纏まつた形を發見しなければならぬ。そして、かくすることによつて、恰も彼は彼を生氣づけるところの精神乃至心靈に形體を與へることに長い時日を要するであらう。彼の方法

の土臺となつてゐるところの原則は、およそ次の如きものである。」

(左記の五個の見點、これを彼は私の方法の原則と稱してゐるが、それらは、畢竟私が私の目的に對して企圖せる私の見解を一つ一つ數へ擧げたものに外ならない。原則としては、それらのものは、私がそれを考へ出すに至つた大本の基礎的見解に從屬するものである。)

然し、ここには私が初め出發したところの目的の第一見解が必要なのである。言葉を換へていへば、私は普通學校の教授、殊に下級の學校に於ける教授上の種々なる缺點を矯正し、そしてこれらの缺點を伴はないところの教授法を見出さうとするものである。)

第一「彼は心意の能力を内包的に向上せしめようとするものであつて、ただ單に種々の概念を與へて、それを外延的に豊富ならしめようとするものではない。」

「彼は幾多の方法に於て、これに到達せんことを希望してゐる。彼は兒童に向つて高聲に且つ再三再四いろ／＼な語や、説明や、句や、長い文などを讀誦し、そして、それらを兒童に復誦せしめながら、それによつて、また、それぞれ各階梯が有する明確な目的に從つて兒童の諸器官を陶冶し、且つ彼等の觀察及び思考を練習させようとするものである。また、これと同一の理由によつて、彼は復誦練習の時間に於て兒童に自由に石板上に描かせたり、または色チヨークを以て文字を書かせたりする。」



(私はそんな時でもやはり児童をして特に直線や角や曲線などを描かせ、且つそれらの定義を暗誦させることにした。私は経験に基づける原則から、私が書き方教授に於て試みた方法を以て進んだのである。即ち、児童はペンを以て、小さい文字を書くことを指導されるよりも、もつと幼少な時分に既に均衡の知識及び筆の指導に堪へるといふのが、私の原則なのである。)

一彼はこのために、生徒らに透きとほる薄い小紙葉から出来たイロハ帳を配付した。その小紙葉には字の畫と文字が彫られてあつて生徒らはそれを手本として使用する。そして、彼等はその書いた文字の上にそれを載つけることが出来るやうになつてゐるから、書けば書くだけですゝ雑作なく書けることになり、その上、紙が透きとほつて見えるからして、彼等は必要なる比較、即ち手本と自分等が書いたものとを比較することが出来るのである。一時に行はるる二重の仕事は實にお互が觀察を分ち合ひ、少しもそれを無駄に散逸せしめることのないやうな、人生に於ける幾百の事件や、仕事などのための準備となるものである。例へば實業諸学校の如きは全然この準備の上に基礎を置くものである。)

(私は既に三十年以前に於ける私の實驗に於て、極めて決定的な結果を發見した。私は既に當時に於て、児童に絲紡ぎをさせながら私自身は紙に書かずにはとてもやりおほせないところの數へ方を、樂々と児童に出来るやうに慣れさせたのである。然し萬事は教授様式の心理によつて極まるものである。児童は課業の學習と同時に進行するところの手工をば完全に爲し得るやうにならなければならぬ。そして児童がかくの如く課業と共に學ぶところの作業は、如何なる場合にも彼が既に爲し得るところの作業の、ただ容易なる附加物であらねばならない。)

第二「彼は彼の教授を全然、言語によらしめるのである。」

(こは正確にはかういふべきであらう。曰く、「彼は自然の眞實な感覺的印象を受けしめた後に言語をばおよそ人類の知識を獲得するための最初的手段たらしむべきことを主張するものである」と。實は私がこの結論に達するに至つたのは、およそ児童に對して讀み方を合理的に教へ得る前には、先づ児童は話し方を學ばねばならぬといふ原則からである。然し私は児童に話し方を教へる術に結びつけるに、自然が彼等に與へた直覺的觀念と、それから人爲の術によつて彼等に與へられたそれとを以てしたのである。)

「人類のあらゆる進歩の結果は言語に記録されるのである。故に言語の進程を心理的に辿ることが専ら必要なわけである。」

(この心理的追及にまでの手掛かりは、言語そのものの發展の本性中にこれを求めねばならない。野蠻人は先づ第一に自己の對象物に名前を付け、その次にその事物を描き、それからまた、時間と事情とに従つて變化するところのその事物の性質を學んだ後、頗る簡單にその事物と言語



とを結びつける。即ち、その事物を一層精密に識別せんがために、一々限定したり、組み合わせたりして事物と言語とを結びつけるのである。私は更に後に至つて、この見解を開展したいと思ふ。そして、かくすることによつて、私は言語の進程に就いての心理的研究に對するフィッシャーの要求を「言語」の題下に於て満足させようと思ふのである。

「彼は兒童に對して許多の言語と發表とを供給し、そして、兒童がそれらを一々その適處に持ち來たし、それらを組み立て、また分解することを學ぶに至るまでは、決して兒童に向つて理窟を以て説明しようとはしない。そこで彼は感覺的事物に就いての簡単な説明を以て兒童の思想を豊富ならしめ、かくして、彼は兒童に對して、その周圍に存するいろ／＼な事物を記述することを教へ、兒童のいろ／＼な觀念を物語ることを教へ、それらに十分通ずるやうに教へるものである。それは兒童がかくしてこそ初めて、既に彼に存するところのものに就いて明瞭に意識するに至るからである。」

（この點に關する私の意見はかうである。兒童を推理的ならしめ、獨立に思考する力を彼等に與へんがためには、吾々は努めて兒童をしてむやみやたらに喋舌らせたり、または彼等が單に皮相的にしか知つてゐない事物に就いて意見を吐かせたりすることを避けねばならない。私は學習の時間は判斷の時間でないことを信ずる。判斷の時間は實に學習の完結に伴つて來たるものであ

り、また推理の圓熟と共に來たるものである。そしてこの圓熟した推理の力によつて吾々は判斷し、且つ判斷すべきものである。いつたい判斷を發表するその人にとつて、內的眞理を有すると思はれるところの判斷は、すべてこの理由によつて完全な知識からして自然に熟し且つ完全なものとして落ち來たるものでなければならぬと、私は信ずる。恰も完全に熟した麥粒が苞又は殻から自然に且つ自由に落ちるやうなものである。）

「機械的の容易さ、そして、話すことの或る技術、これを彼は兒童の前に於て語尾の變化の練習をなすことによつて造り出すのである。」

（これらの語尾の變化は十分よく知られてゐる事物の敘述に限つて専ら爲したのである。）

「兒童の心意の自由は、かくすることによつて非常に促進される。そして、彼等が多くの例によつて或る一定の敘述様式を學び、且つそれを實地に使用することを學んだならば、彼等は將來に於て幾百千の事物をこれと同一の方式に還元し、それらの事物の定義や敘述の上に明瞭な形像を印銘するであらう。」

（私は今、數と尺度と言語とに於て、この目的のための初歩の、そして普遍的の基礎を見出さうと努めてゐる。）

第三「彼は心意のすべての作用に對して、與材か、または標題か、若しくは指導觀念かを供



せんと試みてゐる。」

（即ち彼は人爲と自然との全領域に於ける基礎的の諸點を求める。即ち種々の感覺的印象、種の實物を求める。そして、それらの特殊性と普遍性によつて、それらの實物に從屬し、それらの實物に關係ある幾多の事物に就いて知識と判斷とを容易に可能ならしめるための有效な手段として使用することが出来るのである。かくして、彼は兒童をして類似の事物を觀察せしめるところの與材を彼等に與へ、類似の諸觀念の順序次第に對して一々標題を與へる。そして彼はその順序次第を決定することによつて、兒童のためにもろくの事物の順序次第全部を一々確定し、且つそれらの事物の根本特質を明瞭ならしめるのである。）」

「與材はそれらが與へられる場合、如何に聯絡がとれてゐなくても、それらは互に相依存するものである。一の觀念が他の觀念を暗示し、そして、これらの觀念は全く右の理由によつて、研究慾を刺戟するものである。即ち、個々の事物を聯絡させずには到底措かれぬといふ完結力と、それらを聯絡することの便宜さといふ心意の必然性に驅られるのである。」

標題は蒐集さるべき諸觀念の分類を來たさしむるものである。換言すれば、それらは、渾沌無秩序な雑多の觀念にまで秩序を與へ、そして、組立てられた骨組は、兒童をして孜々として一つの一つの冊の内容を満たさしめるものである。これが地理や、博物や、工學や、その他の標題の價

値である。而も尙ほそれ以上に、思考のための題材の選擇を支配するところの類推が行はれるといふ價値がある。また指導觀念は、かのそれ自身に於て既に總ての科學の題材であり、若しくは題材たり得べき或る問題の中に存するものである。

さて、これらの問題を、その要素に分析して兒童に解せられるやうに提供し、そして兒童が既に有するか、若しくは容易に見出し得べき與材と結びつけ、且つまた、觀察力のための練習として使用するならば、兒童の心意は絶えずそれらの問題の解決に従はせられることになるであらう。かの「三種の自然界から、人間は如何なるものを取つて、衣服を造り得るか」といふやうな簡単な問題はこの過程を説明すべき一例である。兒童はこの見地に立つて多くの事例を試験し、且つ證明するであらうし、そして、それらの事例からして兒童は専門的問題の解決に貢獻し得ることを豫想するのである。かやうにして兒童は自分の知識を造り上げる。むろん如何なる場合にも兒童に向つて多くの材料を與へなければならぬ。また初めはただ單に實際上の格言として専ら暗記せしむべきではあるが、然し次第に力と適用と意義とを受け取り、そしてますます深く印象され、且つ確實化さるべき種々の命題もまたこの指導觀念に屬するものである。」

第四「彼は教授及び學習の機構を單純化させようと思ふものである。」（人間の心意が教育上に於て狙はれ、そして如何なる形に於ても提示されるところの諸印象に對して同等の感受性を有



するものでないといふことは争ふべからざるところである。そこで極めて容易にこの感受性を刺戟すべき方法を見出さうとする術が即ち教授の機構である。そして如何なる教師もこの機構を自由な自然の中にこれを探し出し、そして自己の術のために自然から學ぶべきである。

「彼が彼の教科書から摘出して、それを兒童に教へようと思ふ事柄はすべて頗る簡單なものであつて如何なる母親でも、また後には如何なる教師でも、多少教授の能力さへ持つてゐるならば誰でもそれを理解し、反復し、説明し、關係づけることの出来るものであらねばならぬとしてゐる。特に彼は、世の母親たちがその子女の最初の教育を行ふに當つては、たやすい話方や讀み方の説明によつてその教育を愉快なもの、且つ意義深きものとなすべきことを望み、かくして、彼の教授によつてその教育を愉快なもの、且つ意義深きものとなすべきことを望み、かくして、彼の家庭教育を以てせしめようと望んでゐるのである。かくして彼は彼が考案した教科書の印刷が済むや否や、母親たちに就いて實驗の用意をしようと思つてゐる。そして政府が多少の懸賞によつて助力せんことを希望してゐるのである。」

（私はこの問題の種々なる困難を承知してゐる。一般の人々はすべて世の母親が、さらでだにあくせくと自分等の仕事に精を出さねばならぬし、また編みもの仕事や裁縫仕事やその他、骨折の多いいろ／＼な仕事や目まぐるしき日常生活に追はれてゐるのに、更にそれに加へて新たな仕

事に取りかかれといはれても、とても納得しはしまいといふのである。而も私は思つた通りにこの非難に答へてかういふことが出来る。曰く「それは決して仕事ではない、遊び事なのである。少しも時間を要せず、むしろ、それは頻々と起る意氣沮喪の瞬間の空虚を填めるものである」と。然し世人はこんなことには少しもお構ひなく、ただ「彼等はそんなことをしたがない」と口答へするに過ぎない。だが然し、法皇ボニフェースは一五一九年の昔に於て、人の善いツキングリに向つて「そんなことは何の役にも立つまい、世の母親は、未來永劫、決してその子女と共にバイブルを讀まうとはしまい、未來永劫、日々彼等と共に朝な夕なのお祈を捧げようとはしまい」といつた。而も彼法皇は、一五二二年早くも世の母親がそれを實際爲したのを見て「よもやそんなことは信じられなかつた」といつたのである。私は新たな法皇ボニフェース出でて私の採るところの手段に就いて、恰も一五二二年の昔、舊き法皇のボニフェースがいつたと同じことをいふであらうと確信する。そして、私は少くとも私が死なぬうちに、さういはれることを知り且つ希望する。私は實際それを待ち得るであらう。そしてその時機は新法皇に到來するであらう。

第五、「第五の原則はこの事と關係がある。即ち「彼は知識を大衆化しよう」と欲する」といふのである。」

（即ち「彼は如何なる場合に於てもすべての人々に向つて、彼等が苟くも獨立にして聰明な生



活を送るために必要な程度の見識と思考力とを興へることを目的とするものである。」これはもちろん、すべての科擧そのものを、日々の衣食に追はれる貧乏人の誤まつた玩弄物としようとするものではない。否、反對に、眞理及び智慧の第一原則によつて、この日々の衣食に追はれる貧乏人をば、自己自身の無智や、同時にまた他の人々の狡猾などの不幸な玩弄物たる危険より免れしめようとするのである。)

「これは既に精選された語や命題によつて知識の主要素を包み、そしてまた、譬へていへば、後になつて容易にアーチを造るために組み合せらるべき石材を供給するところの多くの教科書によつて達せらるべきことである。」

(私はむしろ次のやうにいひあらはしたいと思つてゐる。「これは特に人間教育の第一初步の單純化により、且つまた各人各自の個人的知識を豊富ならしめるところのすべての事柄にまでの破綻なき進歩によつて達成さるべきものである。教科書そのものは、あらゆる事情及び境遇の下に於てあらゆる學科に於ける人爲的の教授と、自然自からが人間の發展のために盡すところの教授とをただ單に巧妙に結びつけたものに外ならぬものであらねばならない。言葉を換へていへば教科書はおよそ自然があらゆる方法に於て人間の發展のために盡すところの助力をば、人間が安全に使用する上に是非とも必要な力を豫じめ巧妙に準備させるものに外ならないのである。」)

「この目的は更に教科書の小分割と廉價とによつて達せられるやうにされてゐる。教科書は頁數が少くて而もその小分割には相當の理由があつて、それ自ら次から次へと叢書の體裁で出版され、各冊互に相補足するやうに出來てはゐるものの、やはり各冊はそれだけで各々獨立したものであり一冊一冊に賣られるやうになつてゐる。これと同じ目的のために彼はまた、地圖や幾何圖や、その他のものを木版で刷り、極めて安價に弘布しようとしてゐる。彼はこの著書出版の入費を差引いた殘餘の利益を擧げて、彼獨得の教授法の改善のために提供する。換言すれば、彼は、その利益金を以て、既設の一學校、一學院、若しくは孤兒院に於て實地に自己の教授法を試みるための費用に宛てるのである。」

(これは少々言ひ過ぎである。私は私の全生涯の結果でもあり、またこの目的のために敢てした金銭上の犠牲の結果であるところの私の著述の全利益をば、ただ印刷費を差引いただけで殘餘を悉く公共のために提供するほどの餘裕はない。だが然し、私は既に私の目的のために種々雑多の犠牲を敢てしたにも拘はらず、尙ほ若し政府若しくは或る個人が私の主義に従つて孤兒院を經營することを私に許されるならば、私はこの目的のために死に至るまで、私の生命と全力と、そして私の著した學校教科書の大部分とを一切犠牲に供しようと思ふ。)

「學校教授にとつての利益は、如何に教師が或る程度の最低技術をしか持つてゐなくても、そ



のために何等害を及ぼされるやうなことがないばかりか、適切なる進歩を遂げて行くことが出来るといふ點である。」

(これが根本肝腎なところである。少くとも初等程度の知識に於て教師をば單に方法の機械たり道具たらしむる如き教授の範式が見出されない限りは、國民大衆の普通教育は一步だも進むことが出来ないといふ私は信ずる。そしてこの場合、その方法の効果は範式の性質如何によつて現はれるものであつて、その方法を使用するところの教師その人の技術如何から生ずるものではない。およそ教科書は熟練なき教師がそれを必要に際して使用し得ること、恰も熟練あり、才能ある教師がそれを使用すると殆んど同じやうである場合に於て初めてその教科書が優秀なものであると、私は確實に斷言するものである。そこで熟練なき教師はもちろん、世の母親たちでも、その教科書を手掛りとして彼等が兒童を指導する上の技術の進歩的發展にまで兒童よりも常に一步近く進む上に、十分の手助けを見出し得るやうに、元來教科書は編述されなければならぬ。これ以上のことは望まれてゐない。少くとも幾世紀間は、これ以上のものを世の教師たちは興へることが出来なかつた。然し吾々は徒らに空中樓閣を畫き、ただ單に紙上に記された理性と獨立との觀念を誇るのみであるが、而もそれらはかの仕立屋や、織物屋の仕事部屋に於けるよりさへも、尙ほ一層、學校の教室に於て缺けてゐるのである。なぜなれば學校の教師ほど、全然單なる言葉

によつてゐるところの職業は他に一つとしてないからである。そして若し吾々がこれまで如何に長い間、單なる言葉にたよつて來たかを考へて見るならば、この誤謬と、その誤謬の生じ來れる原因とが互に結びついてゐることが明らかになり、そのために吾々はどんなに驚くことであらうよ。

「尙ほこれ以上の利益は次の方法に於て得ることが出來た。即ち多數の兒童を一緒に教授するところからしてその間に勵み合ひが起り、またお互自分の得た知識を他に授けることが兒童自身の間にもますます容易に行はれ、そして、これまでのやうな廻りくどい記憶増進法は他の方法によつて全然驅逐され、若しくは著しく手短かなものとなつた。他の方法とは、即ち題材の類、訓練や注意力増進や高聲、復誦や、その他の練習などである。

以上はフィッシャーの記せるところである。今、彼の書信全體を通じて見るに、彼は實に寢巻姿になつてゐても尙、眞理を崇め、而もその眞理が實際に暗影に蔽はれてゐると見える場合にもなほ且つそれを尊敬して措かざる高尚な人物であることがわかるのである。彼は私が以前スタンツで子供らを教へてゐた有様を見て驚喜に堪へず、そして、その當時の印象が深く彼の念頭に銘刻したので、それ以來、彼は私の事業のすべてに對して眞面目の注意をなすやうになつたのである。



だが、彼は私の實驗が未だ圓熟の時に達せざる中にこの世を去つたのである(譯者註、一八〇〇年五月四日死す)若し生きてゐて私の實驗の大成したのを見たならば、彼は實際見たよりも以上の事柄を見ることが出来たであつたらうに。然し彼の死と同時に、私にとつては一新時期が開かれたのである。

(譯者註、右にフィッシャーの手紙をベスタロッチが引用した部分以外に、この手紙の第一節及び最後の二節を左に譯載して見よう。)

「ブルグドルフにて、一七一九年十二月二十日、ここに私はとにかく、ベスタロッチ及び彼の事業に就いて多少の物語を貴下に書き送ることを、貴下は當然待ら設けて然るべきである。私は近く遙かに詳細な物語を書いて出版し、そして、彼の方法に對して一般教師の注意を喚起しよう」と考案してゐる。それが現はれるまで暫らく貴下はその教授方法の原則に就いて簡單な陳述を持つこととの興味を感ぜられるであらう。そして今私は次の二三の個處を指摘したこの物語を貴下に書き送るのである。(譯者註、手紙の冒頭。)

「私の眼前に於て試みられた幾つもの實驗から、私はベスタロッチのこの方案を抽象的に描き出したのである。ベスタロッチはこの方案によつて政府當局及び一般教師の興味を喚起し、且つ永くそれを維持することに努力したのであるが、その結果は何人もこれを論駁すべからざるものである。ブルグドルフに於ける彼の實驗は、そこに於て保護を受け、且つ名譽を博したのであるが、彼はスタンツに於ける彼の努力にも増して、現に彼が試みつつあるところの實驗の價値を一

層廣く知らしめるに至るであらうことを希望してゐるし、また然か希望すべき理由を持つてゐるのである。スタンツに於ける實驗は頗る小規模で試みられたものであつたし、また種々雑多の續出し來つた地方的並びに個人的の妨害や邪魔のために、めちやめちやに打ち壊はされてしまつたのである。スタンツに於ては彼は仕事のために過勞し、公然または陰然たる宗教上並びに政治上の迫害敵意のために壓迫されてしまつた。然るにブルグドルフでは、彼はもつと自分の氣心になつた空氣の中に身を置いてゐる。そして彼の仕事はスタンツに於けるよりも外部の拘束が少ないから、彼はそれだけ自由に、大規模に彼の計畫を實現することに専ら熱中することが出来るのである。

さうかうする中に、ベスタロッチは、自分には遙かに積極的な知識も缺けてゐるし、また彼の機關を使用する實際上の技術も缺けてゐることを自から理解するに至つた。そして後の方の缺點は、彼の不屈不撓の實驗によつて非常に補填することが出来、また、かやうにして、これまで一般に行はれた教授方法の幾多の部分を一々批評に上ほせて吟味するのみならず、幾種の方法や、その方法の細目が發見され、それと同時に新たな教授の上に適用されるのである。

彼は彼の助力者及び同僚の友情に富んだ助力によつて彼の教科書に於て除き去らねばならなかつた多くの缺陷を填充することの出来るやうにと希望してゐる。否、もつと適切にいつて見れば



彼は彼等の助力を得て肝要ならざる材料を按排したり簡單にしたり全然取り去らうと試み、また肝要なものを選択し、その命名を試みたり、巧みに排列しようとするのである。

苟くも自己の事業に満腔の熱意を捧ぐるところの發見者ならば、何人でも自己の事業が他の人の助力によつて完成するに至り、また完成することが出来るといふことを見て心勇躍することであらう。それと同じく、ベスタロッチもまた彼の荒ら削りの計畫が他の人々によつて整頓され磨き上げられるのを見て欣喜に堪へないであらう。(譯者註、ファイッシャーの  
手紙の最後の二節)

## 第二 信

友よ、私はスタンツに於けると同じくブルグドルフに於ても間もなく疲れてしまつたのである。若し君が人の手助けを借らずには、とても一塊の石をもたげることが出来ぬと知つたならば、君は人の手助けなしには、ものの十五分間もその仕事をやり続けはしまい。私は當然なさねばならぬ責任以上に、とても比べにならぬほど餘計に仕事をしたのであるが、然し、人々は私が實際に爲したよりも以上の仕事を爲すべき責任があると考へてゐたのである。私の心胸は學校の仕事の爲に朝から晩まで痛められ通してあつたので、その爲めに私はまたもや最悪の苦しみに陥らうとしてゐたのである。

私がたまたまかうした境遇に身を置いたその時に、ファイッシャーが死んだので、そのため新たにクリューン(譯者註、一七七五年生、一八四四年死)といふ教師と一緒に仕事をやるやうになつたが、その人の紹介で、私はトブラー(譯者註、一七六九年生、一八四三年死)及びブスの二人と相知るに至つた。この二人はクリューンに後るゝ二三週にして私と仕事を共にするやうになつたのである。彼等が私と合同したことは十分に生きざる中に時ならぬ死を遂ぐることから私の生命を免かれさせ、私の事業の壽命を永引かせてくれた。而もとかくする中に私の事業が減じようとする危険が非常に迫つて來たので私はこ



の場合、たゞに財政上ばかりではなく、殆んど精神的にといつてもよからうが、とにかく萬難を冒かして進むより外には何ごとも私にとつては爲すべく取り残されてゐなかつた。私は私の一生をそのために捧げ來つたところの夢想、この夢想の實現を、今や斷念しなければならぬ破目に陥つてゐたのである。これがために私は殆んど人々の心の中に氣狂といふ印象を止めないでは措かないやうな、焦燥の氣分と、物くるほしき行ひ振りとを示したのである。そして一つは四圍の境遇に驅られたのと、一つは私の努力の中心をかき亂した不幸や、不當の災難などが次から次へと打ち續いたために、私は今こそ眞に私の本望に近づき出したのだと思へた。その利部に早くも内心の混亂の深みに沈んでしまつたのである。

私の目的の全範圍にわたつて、この人たちから助力を受けたために私は財政的にも精神的にも再び生氣を吹きかへしたのである。私の事業並びに私の境遇が、この人たちに與へた印象、それから、この人たちが私に合同した結果は、私の教授方法上から見ても頗る重要なものであり、そしてその心理的基礎の精神を非常に明らかならしめたものであるから、私は私とこの人たちとの合同事業の全經過をこゝに物語らずに打ち過ぎるわけには行かないのである。

クリューンとは私は一番初めに知り合ひになつたが、この人はその少年時代にいろ／＼な業務にたづさはつたのでその爲め非常によく種々の手先の技能に通じてゐたのである。而もこの手先

の仕事は、たゞひ下級のものであつても、往々高貴の心算を要するものでもあり、そして少年時代から、それを樂しみ來つた人をば一般的な且つ包括的な有用さにまで引き上げるものである。

彼が僅かに十二三歳の時分に小規模の商店を經營してゐた彼の父はよく彼を五六哩の所に遣つては六弗乃至八弗ぐらゐの品物を買はせたものである。それに附帶して彼は多少用達しや取次などをやつたのであつた。その後彼は織物仕事と日傭仕事に従つた。彼が十八歳の時に別に楽音もないのに、彼の郷里ガイスで學校の教師に雇はれたのである。彼が今でもいふことだが、その當時は極く初歩の文法上の區別の名稱さへも知らなかつた。むろんそれ以上の知識などはとてもあつたとは思はれない。なぜといふに、彼は普通にある瑞西の村落學校でたゞ讀み書き、それに宗教問答の暗誦などを習つた外には別に何んの教育をも受けたことがなかつたからである。だが然し、彼は子供らに接することが好きであつたし、またこの教師の職が修養と知識とを得る方便であれかしと希望したのであつた。實は彼は用達しをやつてゐてこの修養と知識とが必要であることを痛切に感じたからなのであつた。なぜなれば、學校にはこれらの知識の粹が集められてゐるから彼は早速、いろ／＼の調合物や鹽化アンモニウムだの礬砂だの、その他、彼が生れて未だ一度も聞いたことのないいろ／＼の名前の物などを買ふことを委託されるやうになつたのである。



而も彼はそれと同時に、極く些細な頼まれ事でも決して忘れまいとし、僅か一二銭の仕事にも忠實に責任を持つといふ風であつた。それで如何なる児童にとつても、およそ読み書き計算、それからすべての心的練習はもちろん、話し方を學ぶことでも、それらを進ませられることがどんなに利益であるかといふことを彼は篤と納得するやうになつた次第である。それといふのも、彼自身その貧弱な職務上のために何んとかしてさうした知識を進めたいものだといふことを、今やつくづく感じたのであるから、尙更さう考へるやうになつた譯であらう。

彼が初めて教職に就いた當座の二三週間といふものは、既に百人の生徒をあつかつたのである。だが然し、これら多數の児童を適當に取扱ひ、彼等に教へ且つ彼等を十分に管理するといふことは實に彼の力量を超えたことであつた。彼は綴字や読み方や暗誦などのいろ／＼の課業を課する以外には何等學校管理の術を知らなかつた。即ち生徒順番に課業を繰り返させ、また豫じめ警しめたりして、若しもその課業を覺えない時には笞を以て懲らしたりするより外には、さうしたことに就いての何の術をも知つてゐなかつた。然し彼は自分の少年時代の經驗によつて、かやうな學校管理の方法を施されては却つて大多數の児童は課業時間の大部分をただぼんやりと送るはもちろん甚だしきは馬鹿げたことや悪戯のしたい放題をするものであるといふことを知つてゐた。即ちかやうな方法では、修養のための貴重な時間は無駄に過されてしまひ、折角の學習の利益も、

かかる學校管理が必然的に持つてゐるに相違ないところの有害ないろ／＼の結果のためにその効果を減ずるものであるといふことを、彼は承知してゐたのである。

牧師シースは舊式のまはりくどい教授とは反對なやり方を根氣よくやつてゐた人であるが、最初八週間クリューシンの手傳ひをして學校教授に當つた。そこで、早速彼等は児童を三組に分けた。この組分けをしたことと、それから、その後間もなくその學校に取り入れられた新讀本を使つたこととのために五六人の児童と一緒に綴字や読み方の練習をさせ、かやうにして以前出来たよりも一層よく全體の生徒に行きわたつた教授を施すことが出来たのである。

シースはまた、クリューシンにクリューシン自身の修養のために必要な書物を貸し、また立派な手本を貸してくれたので、クリューシンは自分の筆蹟の體を造り上げるために幾十度もそれを寫し取つたのである。そして彼は間もなく生徒の親たちの最高の要求をも満足させる立場になつたのである。だが然し、これで彼は満足しなかつた。彼は單に生徒に読み書きを教へようと思つたばかりではなく、同時にまた生徒の理解力を練らさうとも思つたのである。

かの牧師が自分の教區に取り入れたところの新讀本には、諺や聖書物語によつた宗教の教授が含まれ、また自然教授や博物や地理や政治など種々なる文句も含まれてゐた。クリューシンは讀み方の課業を教授する度毎に、牧師は児童が讀んだ事柄を理解したか否かを明らかにするために毎



節にいろ／＼の問題を児童に提出してゐることに気づいたのである。そこでクリューンはやはり同じことをしようと努め、それによつて、大體の生徒をして内容に完全に通ぜしめるやうにした。然し彼はこの點に於てはほんの成功したといふばかりのものであつた。なぜなれば、彼は氣の善いヒュブナー(譯者註、一六九八年生、一七三一年死)と同じく、その提出する問題は既に教科書中に存するところの解答に、びつたりと合はせたからである。それだから、解答に先き立つべき問題の見出されない間は、教科書中にまさしく存する解答はとにかくとして、それ以外には何等の解答も求められねば、また期待もされないわけであつた。然し彼が特に成功したのは、彼がこの問答示教法中に理解力のための眞の練習を少しも取り入れなかつたがためである。吾々が問答示教法と稱するところの本來の教授方法は、理智の眞の練習たるには頗る縁遠いものであるといふことを、この場合に特に注意しなければならぬ。いはゆる問答示教法なるものは、児童に提示された混雜した文章を簡単な言葉で分析するといふに過ぎないものであつて、それが種々の觀念を次第に明瞭ならしめるための豫備練習である限りに於て、それは個々の語や文をば一つ一つ明瞭に兒童の感覺的印象にまで提供するといふだけの効果はある。かのいはゆるソクラテス法、即ち問答究理法なるものは、こゝに至つて初めてこの問答示教法と混合されたのである。而もこの問答究理法は元來専ら宗教上の事柄に限られたものであつたのである。

教師はクリューンがかやうに問答示教法によつて教へた児童をば、かれ自からが教へるところの年長生徒に對する模範としたのである。然し、その後、クリューンは當時一般に行はれた方法に従つて、ソクラテス法と、吾々が問答示教法と稱するところの少許の言語的分析とを結びつけようとした。そしてこの場合、ソクラテス法の方はただ單に題材の高等なる取扱を意味するものに過ぎない。だが、この二者を結びつけることは、その本性上、かの樵夫が斧を手にして木板を切らうとするやうに、圓形を方形にするといふことに歸着する外はなく、とでもうまく行くものではない。もとよりこの修養のない、思慮の深からぬ人は、ソクラテスが精神と眞理とを引き出したところのその深奥を測知することは出来ない。それだから、それが成功しないのはもちろんのことである。彼には彼が發する問題の基礎が缺けたるたし、児童はまたそれに對する解答の背景を持たなかつたのである。更に児童はその知れる事柄を發表すべき何等の言語も持たず、また彼等が理解したか、若しくは理解しないところの問題に對して、彼等自身の言語を以て一定の解答を發表し得べき一冊の教科書も持たなかつた。

とにかく、かうした方法で教授しながらも、尙ほクリューンはこれら類似せる二方法の差別を明瞭に感じなかつたのである。彼はやはり本來の問答示教法、殊に抽象的觀念に關する問答示教法なるものが、ただ單にいろ／＼な語や題材を分析的の形に分割するの利益を有するといふだけ



のものであつて、それ自身に於ては、畢竟譯の分らぬ音をば、鵲のやうに繰り返へすに過ぎないといふことを知らなかつたのである。而も彼はまたソクラテス法は元來、兒童にとつては不可能のものであるとした。といふのは、彼の考によれば兒童は豫備知識といふ背景を持たぬし、また發表の外的手段たる言語も持たぬからである。然し、このソクラテス法が不可能であるといふことに就いての彼の理由なるものは實は不當なものである。なぜかといふに、彼はその不可能の原因が全然、彼自身の中にあるものと信じ、そして優秀な教師ならば、誰でも如何やうな宗教的並びに道徳的の諸觀念に關する問を發することに依つて、まさしく兒童から正當明瞭な解答を引き出すことが出来るものであると考へたからである。

クリューンはたま／＼ソクラテス法の流行時代に生れ合はせたのである。否、もつと適切にいへば、彼はこの崇高なる教授法が一般に一の劣悪なる教授法のために吸ひ込まれてしまひ、そして僧侶と教師との別々な問答示教法の範式が結び付けられた爲めに其の本質を傷けられ、その價値を墮落させられた時代に生れ合はせたのである。而もこの時代の人々は一般にさうした方法によつて理智を開發誘導せんとし、そして、まがひもない無から奇蹟を造り出さうと夢みたのである。然し彼等は今や漸くこの夢から覺めかけようとしてゐるのだと、私は思ふのである。さうであるにも拘はらず、クリューン自身は相變らず熟睡に陥つてゐたのである。彼はその眠

りに全く閉されてゐた、でなければ、あのアッペンツェルの人々が半ば目ざめた時に、鷹や鷲は巢の中に生みつけられてゐない場合にはその巢から卵を取つて來ることは出來ないものだといふことに氣がつかなかつたかを、私は訝かしく思ふのである。クリューンは自分の職業にとつて極めて肝要であると思つた或る教授方法を學ぼうと決心した。そして彼はアッペンツェルの人々が他へ移住して行くのと共にフィッシャーの許に來るべき機會を得たのであるが、その時、彼のこの事に對する希望は更に燃え立つたのである。フィッシャーは自己の意見に基づいて、あらゆる力を盡して彼を教養のある教師としようとした。だが然し、私の意見からいへば、フィッシャーは先づクリューンをして自からその問答示教を爲すべき事柄の基礎を次第に彼に明らかならしむべきであるのに、却つて、その方を先きにせずして、ひたすら皮相的な問答示教の術を覚え込ませようとしたものであると思ふ。

クリューンはフィッシャーの恩恵を有難く思ひ、この恩人であり、また友人である人に就いては何事も慈愛と感謝とを以て物語るのである。然し私がフィッシャーの心に堅く私の心を結びつけたところの眞理の愛は、苟くも私及び私の助手どもの心に多かれ少かれ見解や意見を深めるに役立つたこの事柄に於て、今日吾々が相共に心を合はせてゐるところのこの事柄に就いては、如何なる見解も如何なる事情も決して疑はしき點を残さないことを、私に要求するのである。それ故



に、私は次の事をいはずに秘し置くわけには行かない。即ち、クリューシは一方に於て、フィッシャーが如何にも樂々と幾多の題材に關して非常に多數の問題を迅速に提出したことを稱讃し、そして人智のあらゆる主要題材を解明するために非常な時間と勤勉とを以て十分に多數の問題を蒐集すべきことを希望したのであるが、而も、さういひつゝ、彼は若し教員養成所がすべての村落教師をば、この程度の間答法が出来るやうに仕上げねばならぬものだとするならば、かかる養成所は依然としてその效益が疑はしいものであるといふことを、いよ／＼以て自分から告白するものだといふべきであらう。

彼はフィッシャーと共に教授の仕事に従つて行く中に次第に眼前に聳える山が高くなつて行くのを感じたと同時に、彼がその頂上に登るに是非とも必要だと考へた力が、自分自身にはだんだん減じて行くと感じたのである。ところが、その後、彼が私を初めて訪問した當時、彼は私がフィッシャーと教育及び大衆の教化に就いて談じたのを聞き、そして私が今日の教員志願者たちのソクラテス法を明白に非難攻撃したのを聞いたのである。そしてその時、私は次のやうな言葉を以ていひ表はした。即ち、如何なる事柄に對しても明らかに適當の時期が到來せざる中に兒童の判断を熟させることは全然私の反對するところである。むしろ、兒童があらゆる方面から、そして個々の條件の下に於て自ら判断を下すべきところの事柄を彼等が實地に直接觀察し、且つそ

の事柄の根本特質をいひ表はし得べきところの言語に十分通するまでは、成るべく長く彼等の判断を差し控へさせようと思ふと、私は語つたのである。それを聞いて、クリューシは斷然自分もかくありたいものと感じ、そして私が自分の生徒に與へようと言つてゐたその通りの教授法が必要であると、彼は感じたのである。

そこで、一方フィッシャーはフィッシャーで、クリューシに向つて、教長の素養をつけさせるために全力を擧げて種々の學科を教へて行つたのであるが、而かも他方クリューシは既に教科書が多かれ少かれ豫想するところの事物並に言語の基礎的知識に自分自身が缺けてゐる間は、彼が行くべき道は決して教科書ではないといふことを一日増しに感ずるやうになつたのである。幸ひにも彼は人間知識の初歩、乃至起點に兒童を溯らせることに依つて兒童に如何なる結果、如何なる影響が現はれるかを直接實地に見、且つまた、私が飽くまでもこの知識の初歩、乃至起點を固執するので、彼はこの自己知識、即ち彼の道は教科書に依るべからずとの實感がいよ／＼以て確實になつて行つたのである。こゝに於て、彼の教授に關する見解、及び彼がこれまでそれに就いて懷いてゐたすべての基礎觀念が全然一變を來たしたのである。私が實地に行つた一切の事に於て私は衷心たゞ兒童の内的能力を發展せしむることを念とし、決して私の教授法によつて個々離れ離れの結果を兒童に生ぜしめようとはしないといふことを、今やクリューシは覺つたのである。



そしてこの原理が私の發展の方法の全範圍に於ける影響結果によつて、彼はかくしてこそ初めて  
理智とその理智の不斷の進歩との基礎が兒童の心中に据ゑつけられるものであつて、他の如何な  
る方法によつても、斷じてそれは不可能だといふことを確信するに至つたのである。

然るに、間もなくフィッシャーの教員養成所設立案は、次の事情のために沙汰止みとなつた。  
それは彼がまたも教育局長官に選任されたからである。彼はその教員養成所設立のために更に好  
機を待たんことを心に期し、ブルグドルフを立ち去つても尙ほ暫らくはその地の諸學校を指導管  
理しようと思つた。ブルグドルフの諸學校は當に改造さるべきであつたし、またそれを要求し  
たのである。然し彼はその地にゐなかつたし、また、それには彼の全時間と全精力とを割かねば  
ならなかつたからとても着手さへも出来なかつた。それに、彼がその地にゐなければ、また多く  
の仕事に忙殺されてゐてはそれを開始經營することは確かに不可能であらう。クリューシの事情  
は、フィッシャーがゐなくなつた爲めにますます困難となつた。彼はフィッシャーが側にゐて同  
情を注いでくれなければフィッシャーが彼に期待した事業をますます實行不可能と感ずるやうに  
なつたのである。そこで、フィッシャーがブルグドルフを立ち去ると間もなく、彼はフィッシャ  
ーにも私にも、彼自身及び彼が預かつてゐた兒童らを私の學校に合併させたいとの希望を洩らし  
たのである。然し、私は非常に助手を必要としてゐたにも拘はらず、その時は彼の希望を斥け

た。なぜなれば、絶えず熱心に教員養成所の設立を望み、それがためにクリューシを全然信頼し  
てゐたフィッシャー、其の人に迷惑をかけまいと思つたからである。然しフィッシャーは間もなく  
病氣になり、そしてクリューシがフィッシャーの最期に臨んで私との合併の必要を彼に話したの  
であつた。ところが、瀕死の病人の返答は情愛の籠つた首肯であつた。フィッシャーのこの追憶  
は永久に私にとつていとしいものであらう。あゝ、彼は私自身と同様の目的に向つて熱心に且つ  
氣高く努力したのである。天若し彼に假すに長壽を以てしても私の實驗の完成を待たしめること  
が出来たならば、確かに吾等二人は全然見解を一にしたであつたらうに。

フィッシャーの死後、私の方から進んでクリューシの學校を私の學校に合併することを申し出  
た。それからは私共は私共の仕事が少からず軽減されたのを見たのである。だが、私の方案の困  
難は却つて少からず増加した。私は既にブルグドルフから、年齢も教養も風習も區々不同である  
多くの兒童を收容した。また小さな縣から多くの兒童が到來したことは、いろいろの困難を増し  
た。といふのは、ブルグドルフのと同じやうな區々不同に加ふるに、彼等兒童は私の教室内に自然  
に思想、感情、言語上の劃然たる獨立を持ち來たしたのであるが、さてそれが私の教授方法に對す  
るあてこすりと相俟ち、尙ほまた私の教授に確固たる組織が缺けてゐて、それがやはり彼等から  
は單なる一つの實驗に過ぎないものと見られ得るといふので、私は日増しに、張り合ひ抜けがし



て行つたのである。私一個の事情としては、私の心ゆくまゝ自由自在に實驗を重ねて行く必要があつたが而も私人たちが私の許に送られた児童に向つて如何やうに教授に取りかゝるべきかに就いて、刻々私に得手勝手な註文を言つてよこしたのである。幾代も幾代も相變はらず、極く少許の教授を受けるだけで満足し來つたところの或る處では、今や打つて變つて私に向つて、かう要求したのである。苟くも人間知識のあらゆる要素を包括し、そして幼少な児童の初期に於て使用するために編成された教授の方法は、十二歳乃至十四歳に達して極めて無分別な不羈奔放の自由を發揮し、従つてすべての教授に就いて不信の態度を取るに至るところの児童に對して普遍的、絶對的な一大影響を持つべきものだといふのである。然し、私の方法は確かにかかる方法ではなかつた。それで、彼等はそれがこの影響を持たないからして何等の役にも立たないといつた。彼等はそれとイロハ及び書き方を教へる方法を普通に變改したものとを、こつちやに考へたのである。人間の技術及び人間の知識のあらゆる部門に於て確固確實たる基礎を求めんとする私の目的あらゆる技術に對して簡單に且つ一般的に児童の諸能力を強めんとする私の努力、はたまた原理そのものから次第に發生發展するところの、その原理の結果を冷靜に且つ、一見無關心的に待ち設けんとする私の態度、およそこれらは、實に空中の樓閣であつたのである。彼等は私の目的、この努力、この態度から何ものをも待ち設けず、またそれらの中に何ものをも見なかつた。否、

却つて私が能力を築き上げたところに、彼等は空虚を見出したのである。彼等は言つた「児童らは読み方を學ばない」と。而もそれは畢竟、私が児童らに向つて正當に読み方を教へたからなのである。彼等はまたいつた、私は正當に書き方を教へたから「児童らは書き方を學んでゐない」と。そして、最後に「児童らは善良たるべく學ばない」と。而もそれは私が當時學校に存在した善行に對する最初の障害物を除去するために全力を盡し、特にかのハイデルベルヒ宗教問答書をたゞ囑讀がへしに暗記することは世界の救主が人類をして神を尊敬せしめ、且つ精神及び眞理に於て神を崇拜せしめんがための唯一の教授方法であるといふ思想に反對したからなのであつた。なるほど、私は愚痴と誤謬と偽善と巧言とを嘉納するやうな神は斷じて神にあらずと、大膽に明言したのは事實である。また私は大膽に言つた、吾々は既成神學上の諸事項及びそれらの果てしなき論争をば児童の理智を培養する手段としてはたまた心霊の練習として児童をして反復記憶させる前に、先づ吾々は児童をして正しく考へ、正しく感じ、且つ正しく行動せしめ、彼等の心中に信と愛との恵みを刺戟し、それを活用せしめることを教へるやうにせよと。かうすることは決して神及び宗教に反對する筈がないのである。然し私は誤解されたことを咎めらるべきではない。彼等がさう解釋したのは尤もな理由があつたのである。といふのは、今日一般に行はれてゐる教育の方法が餘りに山師的であるところから、私の大袈裟な新方法樹立の企ては他の多數者



と同じく、山の向ふ側にある、鯉が一面に棲息するところの湖水を見ようとはせずして、ひたすら彼等の池中なる一介の魚を見ようとする人々を失望させたに相違ないといふことを、十二分に瞭知したからである。

かれこれしてゐても私はやはり私自身の道を辿つたのである。そしてクリューシはますます／＼しつかと私に味方してくれるやうになつた。

彼が直ちに納得した主要の諸點は次に列挙する如きものである。たゞ然し彼はそれらの諸點をば完成した教育的眞理であると考へたのではなく、單に次第次第に明らかに發展する教育の原理として展開するところの豫備的見解に外ならぬと考へたのである。

第一、巧に編成された名目集を一々消えぬやうに強く印象することによつて、あらゆる種類の知識に對する一般的基礎を据ゑることが出来るのである。そして、それによつて児童と教師とが一緒にでも別々にでも、とにかく徐々に、而かも安全なる進み方で知識のあらゆる部門に於ける明瞭な觀念にまで到達することが出来るものであるといふこと。

第二、當時私在使用し始めたいろ／＼の直線や角や曲線等に於ける練習によつて、児童をしてあらゆる事物の感覺的印象を迅速に容易に獲得せしめることが出来、それと同じく、苟くも彼等の觀察圈内に入り來るところのものは、何物でもこれを造らしめるの效能のある、かの

手先の熟練が次等に明瞭になりまた簡易になるものであるといふこと。

第三、實物を以て、若しくは少くとも實物の代りになるところの打點を以て初めから計算の練習をさせることによつて、吾々は算術の學科全體に通ずる基礎を据ゑ、且つ児童をしてその後、誤謬と混亂とに陥らないやうに進めさせて行くことが出来るといふこと。

第四、児童がすつかり覚え込んだところの歩き方、見方、立ち方、座り方等いろ／＼の動作に就いて、児童に口づから述べさせたところが、その結果、第一原理は、私とその原理によつて期せんとした目的、即ち徐々にあらゆる觀念を明瞭ならしめることと關聯するものであるといふことを、クリューシが覺つたのである。即ち、吾々がそれを一層明瞭ならしめるためにはもはや何等の實驗をも要せざるほどわかり切つた事柄を、児童に口づから述べさせれば、それと同時に、児童は未知の事柄を述べて見たいといふやうな差し出がましき心を抑へ、そして専ら既知の事柄及び彼等の觀察圈内に入り來たる事柄を簡潔明瞭に、そして理解を以て述べる力を獲得するものであることを、クリューシは忽ち感じたのである。

第五、私の方法が一般の既成的僻見を打ち破る上に力があるといふことに就いて、私が少しく物語つたのがクリューシに極めて深刻な印象を與へたのである。私はかういつた、感覺的印象から生ずるところの眞理は、飽き飽きする話や、廻りくどい議論を一切冗漫蛇足のものと



なす、(實際これらの話や議論は恰も暴風雨を静めんがために鈴を鳴らすやうなものであつて誤謬や既成の僻見に對して殆んど何等の効果なきものである。)なぜなれば、感覺的印象によつて得られた眞理は、人間の心靈をして僻見や誤謬の侵入を防止せしめる力を吾々に與へるものだからである。そして古往今來吾々人間が不斷に物語る議論を通じて僻見や誤謬が絶えず吾々人間の耳に響き來たる時でさへも、これらのものは彼クリューシの心には、殆んど全く絶縁されてゐるので、今日凡庸な人たちに對するやうな効果を持ち得ない。いつたい今日一般普通の人たちを見るに、感覺的印象によることなく、ただ單に不可思議な言語によつて眞理も誤謬も一樣に、さながら魔の提灯を通じて彼等の想像に投ぜられたる觀があるとかやうに私が物語つたので、クリューシは誤謬や僻見を打破するには私の方法に對して一般に許された、否、大いに咎むべき得手勝手な非難を果てしもなく繰り返すよりも、ひたすら私の方法に黙従する方が却つて効果あるべきことを會得したのである。

第六、吾々が昨夏試みに植物採集及びそれに關聯した吾々お互ひの會話が、特にクリューシをして吾々の五官を通じて生ずるところの知識の全範圍は、全然自然界の觀察と、自然が吾々の意識に上ほせるところのありとあらゆる事物を採集し、そして確實に理解することの熱心とによつて得られたるものであるとの確信を生ぜしめるに至つたのである。

さて一方に於て以上の諸見解は、彼が他方に於て教授のあらゆる手段及び題材を互に調和させることの必要をますます感ずるに至つたことと關聯して、彼をして一種の教授方法を打ち建てることの可能を自信せしめるに至つた。その方法といふのは、あらゆる動作及び知識の諸原理を結合統一し、そして教師がそれによつて彼自身及び兒童をば、自己の教授が狙ひ得る如何なる標準にまで引き上げるためには、ただそれらの原理を如何に使用すべきかを學びさへすれば、それで十分であるといふやうな仕組の教授法である。それで、この方案に於ては、兒童にあらゆる知識の確實な基礎を据ゑるために、また、ひとへにかうした知識獲得の手段を使用することによつて親たち並びに教師たちの心中に十分な内的自己活動を生起するためには別に博識を必要としないたゞ單に健全なる人間の理解と、この方法に於ける實地練習とを要するに過ぎなかつたのである。

既にいつたやうに、彼は六年間、村落學校の教師を勤め、種々異つた年齢の兒童を非常に多勢扱つたのである。然し彼は一方ならぬ苦心をしたに拘はらず、少しも兒童の諸能力を發展したことがなく、また吾々が既に到達した程度の確實、堅固、理解、及び自由に到達したことを、一度も見ることがなかつたのである。

そこで、彼はその原因を尋ね、そして、多くを發見した。



彼が第一番に發見したことは、かうであつた。先づ極めて容易な事柄から着手し、そして、それ以上に進む前に、この極めて單純なものを完全に學ばしめ、然る後、既に完全に學んだ事柄に次第次第に、少しづつ附け加へて行くといふ原理は、學習の初期に於ては、實際、力の感じと力の自覺とを生ぜしめることがないが、然し、それは絶えず兒童の心中に、彼等の具へてゐる自然の力が少しも弱つてゐないといふ、この何より結構な證據を生き生きさせるものであるといふことであつた。

そこで、彼は「吾々は決して兒童を驅使してはならぬ。たゞ單にこの方法によつて兒童を指導しなければならぬ」といつた。教授に取りかゝる時に、彼はいつも前以て「一寸考へて御覽なさい、皆さんは記憶してゐませんか」といつたものである。

彼が算術に於て、例へば、六十三は七の幾倍なるかを問ふ場合、兒童はそれに対する何等實際の背景を持たぬので、それで、彼はその記憶の中から非常に骨折つて探し出さねばならぬといふことは止むを得ざるところであつた。そこで、今度は眼前に、七個の實物の九倍だけを置き、七個のものが九つそこに集まつてゐるものとして、兒童にそれを計算せしめるといふ方法を取るならば、兒童はもはやこの間に就いて、それ以上考へる必要がなくなるわけである。即ち、たとひ兒童は初めて問はれたとても、六十三の中に七が九倍含まれてゐるといふことを既に學んでゐる

からして知つてゐるわけである。そして他の學科に於ても、かやうにこの方法を適用することゝなるのである。

今、一例を擧げて見よう。彼が兒童に向つて、名詞を大文字で書かせようとしても、いつも兒童はその規則を忘れてしまふのであつた。然るに、彼が教授方法に準據して造られた辭書の二三頁を採つて、兒童と共に讀むところの簡単な讀み方の練習に供して見たところが、兒童はイロハ順に既知の名詞の順序を自然に記し始めたのである。さて、この實際は、これらの語と他の語との明白な區別の意識を豫想したものである。若し方法がどうしても思考への刺戟を要する場合には、それが兒童にとつては不完全なものであることは全然眞實である。換言すれば、明白な練習が自然にすらくと、何んの苦もなく兒童の既知の事柄から出て來ない場合はその方法は確かに不完全なものである。

彼は更にかういつた、私が讀み方の課業に於て兒童の前に一つ一つ提示するところの語や繪は普通の教授に於て提示されるところの句の集合とは全く別種の効果を兒童の心意に與へるものである。そして、彼はこれらの句をよく吟味して見たところが、それらは兒童が一つ一つの語が代表するところの自然的事物の感覺的印象といふものを、それらに就いては何等持ち得ない性質のものであることを會得した。そして、その場合には多くの句が集合的に見られるのであるが、



而も兒童が熟知せる簡單な諸部分を見るのではなくて、雜然たる未知の事物の譯の分からぬ結合として、兒童がそれを見るのみである。そして吾々は兒童の本性に反し、彼等の能力以上のことを強ひ、且つ幾多の欺瞞をも加へて、それら未知の事物を兒童に提示し、そして單に兒童にとつて全く縁がないばかりではなく、その初步をさへ學ぼうと試みない話し方の術を必要とするところの思考の順序次第を一途に呑み込まさうとするものであることは、クリューンは氣づいたのである。彼はまた、私が私どもの學校の知識の層を投げ去り、そして自然が原始人に對すると同じやうに、いつも兒童の眼前に繪を提示し、それからその繪を言ひ表はすところの語を求めるといふ方法を採用してゐることを會得したのである。そしてこの簡單な方法は兒童の心中に何等の判斷も、何等の推理も生ぜしめないが、而もそれは兒童に向つて、決して一個の信條として、はたまた、どの道、眞理か誤謬かに關係あるものとしては提示されるのではなく、ただ單に觀察の材料として、また今後の批評及び推理の背景として提示され、はたまた、兒童が既往の經驗と今後の經驗とを結びつけて、自發的に前進し得るための道案内として提示されるに外ならぬものであるといふことを、クリューンはまさしく理解したのである。

彼はあらゆる知識の部分をは第一の起點乃至初步にまで還元し、そして、總ての部分に於て徐徐に少しづつこの初步に附加して行くところの私の方法をだん／＼多く學び、その精神をます

ます深く會得し、且つまたこの方法の結果は即ち徐々に新たなる深き附加への進行であることを理解するに従ひ、日に増し彼は進んで私と共にこの原理の精神を以て仕事に従ふやうになつた。そして、根本的にこれらの原理に則れる私の綴字の教科書及び算術の教科書の編述を手傳つてくれたのである。

私と提携してから間もなく、クリューンは彼と親交のあつたトブラーにフィッシャーの死を知らせるため、且つは彼の現況に就いて報告するためにバーゼルに行つて來たいといつたのである。そこで、私はこの機會を利用して、私の書き方教授の助手となる人を是非とも必要であることを彼に話し、若しトブラーが私と力を協はせることが出来るやうになれば非常に嬉しいといふことをクリューンに語つたのである。私はクリューンとフィッシャーとの交通によつて既にトブラーの人と爲りを承知してゐた。それで、その時、私はクリューンに向ひ、やはり私は私の目的のために圖も描き唱歌も出来る人が入用である旨を語つた。クリューンはバーゼルに赴きトブラーと談合したのであるが、トブラーは殆んど即座に私の希望に添ふやうに決心し、そして二三週たつてブルグドルフに到着したのである。またクリューンは、私が同時に圖案家が入用である旨をトブラーに話したので、トブラーはたま／＼とブスと邂逅し、そしてブスも間もなく私の助手となつたのである。トブラーとブスの二人が私の許に來てから、もはや八個月になるので、若しこ



の仕事に於ける二人の経験を精細に物語るならば、君は興味を以て讀んでくれるだらうと思ふ。  
トブラーはパーゼルの或る有力者の家庭にあつて五個年も家庭教師を勤めた人である。

今、彼が彼自身の方法と比較して、私の教授方法の性質を如何に見るかを、彼の言葉通りに紹介すれば左記の如くである。

「私は過去六個年の努力の後に、私の教授の結果は私の豫期に添はなかつたことを發見して、私の教へた子供等の内的自發力は私の努力に應じて進まなかつたばかりでなく、更に彼等の内的自發力は彼等の實地に得た知識の程度に應じて、當然然かあらねばならぬほどの増進を見なかつたのである。彼等は私が教授した知識の個々の断片の内的關係を認めたりとも思はず、また彼等に必要な嚴密なる永續きの省察をば、これらの個々の知識に向つて注いだとも思へなかつた。私は今日としては實に最良の教科書を使用したのである。然るに、これらの教科書は一方に於ては、兒童が殆んど理解し得ざる言語を以て表現され、また他方に於ては、兒童の経験を超越せるいろいろの觀念に充ちて居り、その年齢に於ける兒童の事物の見方とは非常に反對なものであつたので、従つて、この理解すべからざる事柄を説明するには、極度に時間と努力とを要したのである。そして、これらの説明はそれ自身實に不斷の厄介物であつた。それは暗室若しくは濃霧中に於ける一閃光と同じく、兒童の眞の内的發展に對して何等の効果がなかつた。而もこれらの教科書の多く

は書中の繪畫や圖表などまでも、兒童をして堅固な地上に立脚せしめざる中に——吾々が飛び方を學び、若しくは飛び立つための翼が生えるまでは、是非ともこの地上に立たなければならぬに、未だその地上に立脚することを學ばしめざる中に——或は人間の知識の最深奥にまで下るかと思へば、或はまた畫表に聳え、永生の天界にまでも上るといふ風であるから、なほ更甚しきものがあつたのである。

「斯くすべてが一種陰氣な暗い意識に閉された結果、私は餘儀なく年少の兒童には事物の繪を以て樂ませようとしたが、年長の兒童には、ソクラテス法によつて次第に明瞭なる觀念に到達させようと試みざるを得なかつたのである。そこで、最初現はれた結果はどうであつたかといふに私の教へた子供等は他の同年齡の子供等が實際持たぬところの多量の知識に通ずるやうになつたことである。そこで、私はかうした教授の方法と、最良の教育書中に見出した教授の方式とを結びつけたいと思つたのであるが、然し私が使用しようとしたすべての教科書は實に先づ以て兒童に是非とも與へねばならぬところのもの、即ち言語を豫想しての上で書かれたものであつた。それ故に、私が年長生徒に對しソクラテス法を使用した結果は、事物の知識に基礎を置かず、そして兒童にとつて何等明瞭なる觀念を傳達することなき言語で以て發表されてゐるところの單なる言語上の説明を確かに持つといふことにならざるを得なかつた次第である。従つて、兒童が今日



捕捉したものは二三日を経る中にいつの間にか分らぬやうに彼等の心意から消えてしまふのであつた。そして、私が児童に向つて事物を明瞭に理解せしめようとして骨折れば骨折るほど、却つて、彼等は彼等自身の力を以て渾沌として存在するもろ／＼の事物を自然界から探し出さうとする自發力を次第に失つて行くやうに見えたのである。

「かやうに全體として、私は私の目的の到達にとつて打ち破るべからざる幾多の障壁のあることを感じたのである。私はいろ／＼な教師や教育者と會つて種々話し合つて見たが、要するに現代に於ては誠に仰山な教育上の著書が公けにされてゐるにも拘はらず、彼等教師並びに教育者たちはその取扱ふところの児童を日々教授してゐて何れも同一の困難と當惑とを感じてゐるといふ私の確信を非常に強めたのである。若しも一種悲惨な感ひや、もがきのために教師が全然かやうな感じさへも起す暇だにないといふやうな破目に陥つたならば、私はこれらの困難は倍加し、また下級教師にとつては、十倍も重加されるだらうと感じた。私は教育の全範圍にあつて存在するところのこれらの缺陷に對しては、臆ろげではあるけれども、絶えず熱烈な堪へられざるほどの意識に燃え立ち、そして、私はどんなことをしてでも、この缺陷を填充しようとして全力を盡したのである。そこで、私は一部は経験から、また一部は教育書からして、すべての児童に就いて私が痛切に感じた種々なる教育上の困難を除去し得べき、あらゆる方便とを蒐集することに取

かつたのである。然し、忽ち私はこんなことをして見たところで、この目的を果たすには私の一生涯を擧げてもとても足らぬと感じた。私は既に當時、この問題に關する幾冊かの書物を残らず書き終つたところであつたが、ちやうどその時分、フィッシャーが五六通の書信に於て、私の注意をベスタロッツチの方法に惹きつけたので、そこで、私は私の方法と異つた方法によつて、恐らくベスタロッツチは私の求める如き目的に達し得るかも知れないといふ考が私の心中に湧き出したのである。私は考へた、私の系統的な科學的方法そのものが、恐らくベスタロッツチの方法中に現はれないところの幾多の難點を造り出すであらう、また、現代の方法そのものが幾多の缺陷を生み出すのであるかも知れない、そして、ベスタロッツチはそんな方法を知りもせねば使用もしないから、さうした缺陷などを填充するに及ばないのではなからうかと。尤もベスタロッツチの使用せる用具の多くは、例へば石盤に畫かせるといふ遣り方などは、私から見れば頗る簡單なものであつて、なぜ私はずつと以前にそんなことを考へつかなかつたかをむしろ怪しむらぬのである。彼は何んでも既に手近にあるものを使用してゐるといふことが痛く私を感ぜしめた。そして次の彼の方法の原理は、特に私の心を惹きつけたのである。即ち、自然が母親のために極めて著しくもくろんだところの教育といふ仕事に對して、その母親を教育せんとすることが、それである。なぜといふに、すべて私の實驗は終始一貫この原理の上に立つてゐたからである。



「さて私のかうした見解は、クリューンがパーゼルに來た時に彼によつて確認されたのである。といふのは、彼はその地の女子學院でベスタロッテの読み方及び算術教授の方法を實地にやつて見せたからである。牧師フェッシュ及びフォン・ブルンはまだ一般にベスタロッテの方法が殆んど知られなかつた時分に早くもクリューンが初めて示してくれたところに従つて、この女子學院の教授及び一部の管理を編成した人々であるが、彼等は忽ち読み方と綴字とを同時に稽古することが児童の上に確實なる印象を與へることに氣づいたのである。クリューンは、その時この様式に従つて書き方及び算術を教授するための二三の材料と、ベスタロッテが児童のための最初の讀本として編述した辭書の二三部とを持参したのであるが、それを見るとベスタロッテのかうした方法は深き心理的基礎を持つたものであることを知つた。かやうないろ／＼の事柄のために私は即座にベスタロッテの希望に添ふべく決心し、そして、彼と提携したのである。

「私はかくしてブルグドルフに來たのであるが、來着早々この如何にも盛んに進展してゐるところの事業を一目見るや、私のいろ／＼豫期したことが悉く實現されてゐるのを見出した。その児童には一般に驚くべき自己發表の能力があること、それから、この能力を創造せしめるための發展の手段や用具が如何にも單純であり、且つ多種多様であることは全く一驚を喫するばかりであつた。ベスタロッテがすべて舊來の學校の諸規程などを全然認めないこと、彼が印刷した繪

物、如何にも簡單なこと、彼がその教材の内的部分を徐々に教授せねばならぬところの多くの部分にまで嚴密に區分して置くこと、彼が何事でも錯雜または混亂したものを一切排斥すること、彼が暗黙の間に児童のすべての内具的の諸能力に及ぼす影響、いつでも言語が必要な時には、彼は飽くまで言語を固執すること、そして特に彼が使用する教授上の設備が貧弱であるにも拘はらず、それが恰かも一の新なる創造の如く、藝術及び人間本性の根本素から發出するかの如き偉大な力を有すること、およびそれらの事柄は極度に私の注意を緊張せしめたのである。

「尤も彼の實驗には頗る非心理的な事柄が二三はあると、私に思へたことは確かである。例へば、むづかしく、混雜せる命題、而も、その最初の印象は児童にとつては全く漠然であるに相違ないところの命題を反復記誦することが、それである。然し彼が如何に強き力を以て觀念の徐徐たる開明のために準備するか、はたまた彼が私に語るところによれば、如何に自然そのものが最初は混沌たる濃霧を以てあらゆる感覺的印象を包むものであるか、而も次第次第にそれらを開明して行くものであるかといふことを、私が實地に見た時に、私は何もそれ以上、とやかといふことがないといふことを覺り、そして彼が彼の教授の個々の區分に對しては殆んど何等の價値をも置かず、ただそれを組織立てるには非常に骨折つて苦心するけれども、つまりはそれを斥けてしまふ結果となることを實地に見た時には、尙更、私などは批評すべき何もものも持たぬと感じた



ことは確かである。これら多くの実験によつて、彼は結局、児童の内的能力を向上させ、そしてこれらの種々なる方法を使用するに至らしめた種々なる根拠及び原理の説明を見出さうとしたに外ならない。私が如何にも彼が使用する手段乃至設備が少許であるといふことを、ふと考へた時に、私自身が單獨にて初めて実験することが何んとなく不安で、堪らないといふやうに恐れを懐いたのであるが、そのために私は決して迷はされることはなかつた。殊に私が間もなく徐々の進歩がそれらの実験の本質中に存するものであることを篤と納得したので、尙更迷ふやうなことがなくなつた。確かに私はそれを算術、圖畫に於て、また言語教授の基本的方面に於て見たのである。

「今や彼の特殊の方法、即ち、全體と各個との結合によるところの彼の特殊の方法が特に各個にまでの児童の感受性に依存するものであることは、日に日にだん／＼私には明瞭にわかつて来た。そこで、これらの方法は實に彼の日常の實地教授によつて完全なものとなり、その上で初めて彼が求めてゐる目的を必ず前進させるに相違ないところの原理として發表されることを、私は承知したのである。彼は苟くも企圖や實驗をなすに當つては、原理の本質をこれ以上に單純化し若しくはその基礎にこれ以上深く徹することが殆んど事實上不可能であると、自分で考へるまでは決してその原理を信賴しなかつた。全體を單純化し、また個々の部分を完結しようとするこ

これらの處置は私が以前、漠然ながら懐いてゐた次の如き考を確認したのである。即ち、複雑な用語によつて人間心意の發展を求めんとするところのあらゆる手段は、その結果にとつて障礙をそれら自からの中に持つてゐるものであるといふこと、また吾々が苟くも自然が人類の發展に於て示すところの、かの自己活動に於て自然を手助けしようと思ふならば、教育及び發展のあらゆる手段は、これをそれらの内的存在の極度の單純さに還元しなければならぬと同時に、心理的にして調和的な言語教授の編成にまで還元されなければならぬといふことを確認したものである。かくしてベネタロッツナが言語の研究を開せんとする目的が次第に私に明瞭となり、尙また彼が何故に算術をば還元して、常に記憶さるべき次の原理、即ち、およそ算術なるものはただ單に計算の簡單なる方法に過ぎない、そして、計算は結局一と一と一とが幾つになるかといふ廻はりくどい言ひ表はし方をする代りの簡單な方法に外ならぬといふ原理に歸着せしめたか、更にまた物事を實地に爲すところのあらゆる力——またすべての實物を明瞭に表現する力でも——を築き上げる基礎をば、何故に彼は児童の幼少の時分に豫め發展せしめたところの、直線や角や直角や曲線を畫く能力の上に置いたかの理由も次第に私に明瞭となつて來たのである。

「従つてもちろん、彼が方法の效能に對する私の確信は日に日に著しく強められた次第である。なせといふに、私はこれらの原理に従つて一般的に覺醒され、また活用されるところの力が



計算や算術や書き方や圖畫などは如何にも顯著な効果を歴々現はすのを、私は毎日毎日實地に見るからである。私は私自身の實行に活氣づいてゐるので、私が上にいつたところの私の目的、即ち、自然が母親の爲めに著しくもくろんでくれたところの仕事に對して母親を教育すること、この目的に私は毎日毎日だん／＼接近して行くと感じた。否、獨り母親の教育に止まらず、それを通じて普通の學校教授の如何なる最低度の材料でも、それと提携すべき母親の教授の結果に基づき得べきものだと、私は確信するに至つたのである。およそ如何なる父母でも心中に教育の動機を見出すものならば、何人でも一般的な心理方法によつて彼等自身の子女を教育し、かくして經費のかゝる長期の教員養成所や教育圖書館などによつて、一般に考へられてゐるところの教員養成の必要などといふ考を斥けるやうな事情に置かれ得るかも知れないであらう。何れにせよ、かうした一般的な心理的方法が成り立つてゐることを、私は知り得たのである。

「これを要するに、全體の印象により、且つまた、いつもと同じく感ずるところの私の經驗によつて、私は嘗て教師としての經歷に入つた當初に於て非常に熱心に懐いてゐた信念、而も私が現代が一般に提供する如き愚劣な教授の術及び助力の重荷の下に於て教師の職を進めてゐる中に殆んど失はんとしたところの信念、即ち、人類を進善せしめることの可能に對する信念、この信念を今更ながら私は復活するに至つた次第である。」

### 第三 信

以上、君は私の目的、私の事業に關するトブラー及びクリューシンの見解を讀まれたことである。そこで今、ブスの私に對する見解を君に申越さうと思ふ。下層階級の人々の潛勢的諸能力に關する私の見解は、既に君が御存知のことであるが、このことに對して、ブスその人は、實にいみじき證人である。この人は如何にして六個月にして發展進歩したのであらうよ。ウィーランド(譯者註)ペンタロットと交遊厚き人、ベスタロットの「ゲルトル」にブスの直觀のイロハに對する企圖を知らず如何にその子を教ふるか」を初めて紹介せる人である)にブスの直觀のイロハに對して如何に深き興味を有するかを私は承知してゐる。彼はこの企圖に於て明白に浪費または閑却された諸能力が、手厚き助力と刺戟とによつて如何ばかり活用され、増進さるべきかの證據を、きつと發見するであらうと思ふ。

親愛なる友よ、世界には有用なる人間が充満してゐるのであるが、而もこれら有用なる人間をそれぞれ適處に置くことの出来る人が、まるで缺けてゐるではないか。今日に於ては何人もいはば自己自身の皮膚の内部に、人間としての有用性に就いての觀念を局限してゐる。若しくは、それを譬へば、自己の褌衣に觸れる人々にまで擴張するぐらゐが關の由である。



親愛なる友よ、眞面目に以上の三人の人々と、それから、私がこの三人と如何なる事を協議するかを想像せられよ。私は君が正確に彼等と彼等の生活振りとを知らんことを望むものである。ブスは私の乞ひによつてそれに就いて自から君に告げるであらう。

トブラーの幼時に於ける教育は、一口に全く閑却されたものであつた。二十二歳の時、彼は恰かも奇蹟によつてとも思はれるやうに學問の系統の渦中、特に教育の部門に投じ込まれたのであつた。彼はそれに通曉しようと思つたのであつたが、然し今日になつて見ると、結果は反對に學問の方が彼を支配し、且つ彼は、彼自身の不十分なる教育に就いての豫感を持つてゐたにも拘はらず、その學問、教育が彼をして彼が漠然その必要を感じてゐたところの感覺的印象にたよつて自然それ自身の道を辿らしめることなく、却つて一意書物によれる教育のみ信ぜしめるに至つたことを、彼自身が今になつて分つた次第である。かくして彼は、個々離れ離れに合理的な幾百千の知識の諸断片に没頭し、そして同時に教育及び學校修養の諸原則を見出さざるの危険に陥つたことを、今更彼は自覺したのである。そして教育や修養の結果は決して合理的な語及び合理的な書物ではなく、精練された理性の力によつて合理的の人間となるにあらう。然るに彼は二十歳の時、書物の勉強が未だ彼の生れつきの能力を減退し始めなかつた時に、而も彼は既に今日三十代に於て迫つてゐるところの道を發見しなかつたことを悲しんだのである。

彼は二十二歳より現在の三十代に至る中間の時期が、如何に彼を害ねたかを深く感じた。そして彼は學無教育の人が却つて彼よりも容易、確實に初歩の點を發見し、それから次第に階梯を進み得るものであるといふことを、自からいふに至つたのは實に彼の心情と彼の教育方法とを同等に光榮あるものたらしめたゆゑである。かくして彼は、彼自身の確信に忠實である。彼の才能は彼の進行を確實ならしめる。そこで彼が簡単な知識の初歩を幾多の困難を以て首尾よく教授することに成就し得たならば、これら初歩の知識と、それから、彼がそれらと結びつける以前の知識とは、彼にとつて、その方法と學校教授の高尙な諸點——それには吾々はまだ到達してゐない——と結びつけることを容易ならしめるであらう。

君はクリューンを知り、且つ、彼が自己の職務に於て如何なる力量を示したかを見られたであらう。それは尋常一様のものではない。誰でも彼の實地の仕事を見たものは、驚かない譯には行かない。彼は自己の職務に於て獨立を持つてゐる。これはただ自から何等の獨立を持たざるものから見れば不快なものであらう。而も、彼が未だ方法を知らなかつた以前は、機械的な學校教師のおきまりの遣り方を除いては、すべての方面に於てブスに遙かに及ばなかつたのである。彼は今自から告白していふには、この方法を知らざれば獨立に對するすべての彼の努力は、彼をして能く彼自身の立場に立たしめなかつたであらう。そして彼はいつも他人の指導の下に依然として



たよらざるを得なかつたであらうと。だが、これは彼の持つて生れたアツペンツェルの精神に全然反するものである。彼には五百フロリン(譯者註、一フロリンは二シリング、即ち九十七錢六厘)の職を與へられたけれども依然として彼の現在の地位が極めて不自由な境遇にあつたのである。そこで、彼はさあ、これから自分は眞に學校の教師となり得ようといふことを感じもし、實際見もしたけれども、彼は到底舊態を改めることが出来ず、而もその職務を満足にさへ爲し得なかつたのである。彼が如何にしてかやうな決心を起すに至つたかを、君は不思議に思ふであらう。むろん、彼の單純な性質が然らしめたであらう。彼は全然方法に没頭したのである。その結果は自然的であつた。トブラーが正直にいつたやうに「それは彼が何等の術も持たなかつたからして、彼にとつては十分容易であつた。そして彼は何事もそれに就いて知らず、ただ能力だけを持つてゐたから、精確にその術を得たのである。」

友よ、私は私の方法の最初の成果に就いて敢て誇るべき理由がないだらうか。君が二年前に私にいつたやうに、世人はいつも私の方法の土臺たる簡單な心理的觀念を少しも理解しないであらうか。すべて私の方法の成果がこれら三人の人の初兒のやうなものであらんことを祈る。こゝにまたブスの意見を讀み、次にまた私の所感を聞いてくれ給へ。

ブスはいつた「私の父はチュービンゲンの神學校の教職にあり、その官舎に住んで居つた。」

彼は私の三歳の時から十三歳の時までラティン學校に私を送つた。そこで私はその當時に教授されたことはすべて學んだのである。その時代に私は校外では頗る快活な少年と遊ぶことを好んだ。年長の學生たちと大概は起居を共にしてゐた。私が八歳の時、彼等學生の一人は私にピアノを教へてくれたのであるが、彼は半年でチュービンゲンを去つたので、私は今まで受けてゐた課業がなくなつたから、そこで自分一人で稽古しなければならなくなつた。然し撓ますやりに續けたし、練習したお蔭で非常に進歩し、私は十二歳の時にはピアノを一人の貴婦人と一人の生徒に教へ、而も極めて好成绩を擧げることが出来たのである。

「十一歳の時、私はまた、圖畫の教授を受け、それから辛抱して希臘語とヘブライ語、それに論理と修辭などの勉強を續けた。兩親の考では、私は専ら學者に仕立てようとするのであつたら、それがために私をステットガートに新設された高等學藝學校に入學させるか、それともチュービンゲン大學の教授の指導の下に送らうかといふのであつた。」

「その當時までは如何なる階級の人々も或は私費、或は公費でこの學藝學校に入學を許されたのである。然るに、私の兩親の資力ではとても私のために一文も費すことを許さなかつたから、この學校に公費入學の願を提出したところが、その願がカールその人(グイユルタンベルヒ公カール、エンゲン、一七七五年この學校を建てた)の署名の下に拒絶の旨返送されたのである。この拒絶といふのは、私の記憶する限り



では中流及び下層階級の子弟に對しては入學を拒絶するといふ告示が、それと同時に現はれたのであるが、私にとつて非常な影響を興へた事件であつた。私は全然自分の注意を圖書に轉じた。然し、これもまた／＼半年もたぬうちに中止されてしまつた。といふのは、私の教師が不始末なことがあつたので、この地を餘儀なく去らねばならなくなつたからである。そこで、私は獨立して活計を立て、行けるだけの資金も見込もなくなつてしまつた末、仕方なく直ぐさま或る製本屋に年期の契約を結ばねばならぬ次第となつたのである。

「私の氣分は殆んどどうならうとかまはぬといふところへ落ちてしまつた。結局、他のどんな商賣をやらうと、つまりは、二六時中、手先の勞働に従つてゐて、私が嘗て懐いた青春時代の夢は跡方もなく打ち忘れてしまふことは同じだから、それで、この商賣に取りかゝつた次第である。ところが、この商賣を私はやることが出来なかつた。私は働いた、然しいふにいはいはれぬ不満足を感じた。そして、單に私が下層階級の子弟であるからといふので、先例に反いてあらゆる學問修業の便宜を私に向つて拒絶し、私が少年時代の大部分をそれに到達せんがために費し來つたところの私のいろいろな希望や志望を遂げさせることを拒んだ。その不公平な或る權力に對して、私は一刻も猶豫が出来ないやうに感じ出したのであつた。然し、それでも私は私の商賣によつて、とにかく私のこの不満足な手先仕事を廢して、失つたものをどの道、恢復するだけの資

金を儲けたいといふ希望をも心中に起したのである。

「私は處々を放浪した。然し世間は餘りに私には狭かつた。私は憂鬱性に罹り病氣になつて、また／＼歸宅しなければならぬやうになり、または私は私の職を放棄し、そして私が少しばかり知つてゐる音樂を教へて、瑞西で辛じて私の生計だけを稼ぎ出したいものだと思つたのである。

「私はバーゼルへ行つて、そして、どうかして音樂教授の機會を見出したいものと思つた。然し私はこの前にやつておつた商賣のために、幾分か心に恥かしいと思つてゐたので、何だか金儲けに向つての第一歩を踏み出す氣になれなかつたのである。私は自分の希望したものを得るために、世間の人々から如何やうなことをいはいはれやうと、そんなことをかれこれいほうとする心はなかつた。私がかうして當惑してゐる中に、たま／＼相會うた一人の知人は、私の心を慰めてくれて、當分、製本仕事をやるやうにいつてくれたのである。そこで、私はまた細工場入りをやつた。が然し今度もまた、私は細工場に入る初日から、既に時間と機會とを得て何か外のことが出來さうなものだと夢想してゐたのである。然し彼は、音樂と圖書とを長く稽古してゐなかつたから、餘り後れ過ぎてゐてもそれによつて獨立の生計を立てることが出来まいと、殆んど信ぜざるを得なかつた。それでも何んとかして勉強すべき時間を得たいと思つて、私は間もなく初め



勤めてゐた細工場から他へ轉じた。そして一日二時間だけ私自身の自由な時間を持つことを得たので、私の事業を容易く出来るやうにしてくれる知人を見出したのである。

「數ある知人を求めたうちで特に私はトブラーと相知るやうになつたが、彼は早速、私が現に身を斷ち切られるやうな心配をしてゐることを見てをり、そして、私に向つて他に職を轉ずるやうにと忠告してくれたのである。彼はクリューシからベスタロッチの新編成にかかる教授方法は音楽と圖畫とを解する人を要求してゐることを聞いて、早速その候補者として、私を考へた。

「私は自分ながら一般的教養並びに圖畫の點に於て後れてゐることを承知してゐた。それでこの兩方面に於て、もつと進むべき機會を見出したいといふ希望から、私は即座にブルグドルフに行かうと決心するに至つた。尤も私はベスタロッチといふ人は半馬鹿者で、自分で自分の心がわからぬ人だから、そんな人と關係などをつけることはよした方がよからうと、五六人の人たちから警告を受けたのである。(私はむろん、私の見解のこの部分に對する一般の人々の意見の發表が實に不體裁なものだと感じたのであるが、然しベスタロッチ自身は却つてそれを希望した。そして、彼の人物及びその他如何なる事柄でも、苟くも私が感じた印象を、率直に正直に述べてくれるやうにと要求したのである。) ベスタロッチに就いて、こんな話が今でも尙ほよく話されてゐる。尤もその話はいろいろと艶をつけ、品を變へられてはゐるが、とにかく今以て繰りかへさ

れてゐる。彼が嘗てバーゼルに來た時、靴を藁で縛つてゐたといふことであるが、それは彼がこの町の入口のところに立つてゐた乞食に靴のびぢよがねをくれてしまつたからであつた。私は彼の「リーンハルドとゲルトロード」を讀んで、そのびぢよがねの一件は本當だとは思つたけれども、彼が馬鹿だなどとは信じなかつたのである。

「とにかく、一口に私はやつて見たいと思つたので、ブルグドルフに來たのである。彼との初對面は殆んど別に私をあつといはせたところはなかつた。彼は大變きたない靴下をとめもせず、かみ手の部屋からやつて來たが、ちやうどその時、彼を訪問に來てゐたチームセンと一緒に、まるで、すごすごと抜け出て來るやうに見えたのである。私はこの瞬間に於ける私の感じを述べることは出来ない。それは殆んど驚愕の感じに混じて、一種の憐憫の情をそゝるものであつたのである。

「あゝベスタロッチよ、その時の私の印象はどうであつたらうよ。彼の慈愛さ、初對面の私に對する彼の嬉しさ、少しも氣取つたところのない彼の態度、彼の純撲さ、私の前に立つた彼のもち／＼した様子、すべては一瞬の間に私の眼から遠のいてしまつた。こんなに私の情緒に觸れた人は一人もゐなかつた。私の信賴をかほどまでに深めた人は一人もなかつたのである。

「翌朝、私は、彼の學校に行つて見たが、最初は實際たゞ無秩序、否、一種不愉快な混雜をし



か、私は見なかつた。然し、ベスタロッチの方案について、前日チームセンが私に向つて如何にも熱情こめて語つたところからして、私の注意は前以て喚起されてゐたので、私は忽ちこの印象に囚はれてしまひ、かくして、間もなく私は彼の教授方法にいろ／＼の功德があることに氣づいたのである。最初、私は一點に餘り長く固執することは却つて兒童を非常に苦しめるものではないかと考へたのであるが、然しベスタロッチが如何にも完全に兒童をばその練習の初歩點に持ち來たすことを見た時に、私は私が少年時代に與へられた教授のやり方が轉々といろ／＼の點を移り廻はり、跳ね廻はつたりすることが、今初めて不利なものであるとわかつた次第である。それで、若し私が初歩の點を十分長い時間かゝり、そして徐々に取扱ふやうにしたならば私はより高い階梯に向つて私自身が進行する上に非常に救はるべき事情にあつたであらうし、それと同時にまた私が現在陥つたやうな憂鬱悲觀や生活上のあらゆる禍患に打ち克つたであらう。

「ベスタロッチがいつた通り、およそ神の地上に於ては神より外に何も人々を助けるものはない、また助けることが出来ないから、そこで、神は神の方法によつて人々をして彼等自らを救ふことの出来るやうにさせるといふベスタロッチの原則、この原則と私の右の回想反省とが、びつたり合致したのである。私は初めてこの句を「リンハルドとゲルトールド」に於て讀んだ時には、ぞくぞく身ふるひしたものである。だが、神の地上に於ては、およそ、自分で自分を救ふこ

との出来ないものは何人もこれを救はうとも思はねば、また救ふことも出来ないといふのが、私のこれまでの生涯の経験である。そこで、私は私の目的を達する上に、とても填め合はすことの出来ない幾多の缺陷は、實に私が今日それに従つて行かなければならぬところの技術の方面、而も、その技術の基礎たる諸原則に就いては何等知るところなくして行はなければならぬ。その技術の方面に於て彼が嘗て受けた薄弱皮相極まれる教授に基因するものだといふことが、今日私にとつて明白になつて來たのである。

「私は確かに今日ではベスタロッチが私の助力を欲求した方面に向つて私の全力を傾倒してゐるのであるが、然し長い間、私は圖畫に關する彼の意見に就いてはちつとも理解が出来なかつたし、また、彼が次の如くいつた時に果して如何なることを欲求したものであるかを初めの間は分からずにゐたのである。(譯者註、以下「」の個處はベスタロッチの語)

「直線や角や曲線はこれ即ち圖畫の術の基礎である。」彼は自身で私に説明せんがために「この場合に於ても、やはり人間を漠然たる感覺的印象から明瞭なる觀念へ進めなければならぬ」といつた。然し私にはこれがどういふ風にすれば、圖畫で以て爲し得られようかが解せられなかつたのである。彼はいつた「これは方形や曲線を各部分に分割することにより、また、これらの部分をば眼にて見られ、且つ比較し得られるところの單位に分析することによつて成し遂げねばな



らぬ一と。そこで、私はこの分析と簡單化とをどうかして見出さうとしたけれども、その簡單さの初歩點を見出すことが出来なかつた。そして如何に苦心して見ても、つまりは一つ一つの圖形が、ただいくつもいくつも現はれて、それに忙殺されるばかりであつた。尤もそれらの圖形は、それ自身に於ては確かに簡單ではあるが、然しペスタロッチの簡單性の法則は少しも明瞭にはならなかつたのである。不幸にして彼自身は、書くことも描くことも、どちらも出来なかつたけれども、而も彼は何等か私には理解の出来ないやうな方法によつて、すんすんこれらの二者に於て兒童をうまく出来させて行つたのである。要するに、數個月の間は私は彼を理解しなかつたし、また、數個月の間は私は彼が模型として與へたところの幾つかの直線をどうしたらよいかわからなかつた。が、私はとやかくと餘り知識などを持たずにただ實地やつてさへ居れば、それでよいのではなからうか、それとも、とにかく私は自分の知識を一切投げ出してしまつて、私には眞似ることは出来ないが、何れにせよ、彼に彼獨得の力を與へてゐると思はれるところの簡單なる初歩點に私の基礎を置かねばならぬではないかといふことを、たうとう感じたのである。とにかく、それは困難であつた。然し私は事實ペスタロッチがかくも辛抱強くその初歩點を固執することによつて兒童が如何にも上達して行くことが分つてゐるので、たうとう私の見識が圓熟した結果、私はこれらの初歩點にまで溯らざるを得なくなつたのである。かくして、直觀のイロハに對する

私の企圖はその後二日にして完成するに至つた。

とにかく現にそれは存在してゐる。而も尙ほ私はそれが如何なるものなるかを知らなかつた。だが然し、その存在を初めて認めたことは私の上に最大なる影響を及ぼした。私はこの術が單に直線だから成り立つものであることを、以前は知らなかつたのである。

さてかうなると、私の眼に見えるすべての物は忽ちその物の輪郭を劃するところの線と線との中間に立つのを見るやうになつたのである。私の眼に映する像に於ては、その輪郭と事物とが決して別々に離れないやうになつた。ただ私の想像に於ては、その輪郭から離れて、一定の形になり、而もその形と一寸でも違ふと、それがはつきりと私にはわかるやうになつた。然し初めはただ事物ばかりを見たのであるが、今度は線ばかり見るやうになつて來た。そして、この線は兒童に向つて實物を模寫させたり、または吟味させたりする前に是非とも、そればかりを絶對的に且つ極度に使用しなければならぬと考へるに至つた。然るに、ペスタロッチはこの圖畫の規則をば自分の全目的と關係させて考へ、また人間の術の如何なる部分をも人間の心意中に長く個々孤立させることを許さぬところの自然と關聯させて考へたのである。かゝる意圖から彼は幼兒の時明からして、すつと兒童に向つて二重の形體を提供してゐた。即ち、幼兒のためには書物の中の形體、また、一定の形を知らせるための準備としての形體これである。彼は前者を以て自然のお手



傳をしようと考へ、自然の像をいくつも提供し、成るべく初期に於て兒童に言語や事物の知識を發達させようと思つたのである。後者を以て彼は術の規則と、その術の感覺的印象とを結びつけ、且つ純然たる形の意識とその形に適合する事物の意識をば並置することによつて、兒童の心意中に永く固着せしめようと思つた。そして最後にそれによつて術に於ける漸進的なる心理的進歩を保障しようと考へたのである。かくすれば兒童は完全に描くことの出来る如何なる線をも事物を描く代りに使用することが出来るであらう。そして、これらの事物を完全に描くのは、つまり既に彼がよく知つてゐるところの一定形の單なる反復に過ぎないのである。

「私はかく形體を描かせることによつて、或は兒童の感覺的印象の力を弱めはしないかと懸念したが、然しベスタロッツは何等不自然な力を要しなかつた。彼は嘗ていつた「自然は兒童に何等の線をも與へず、ただ事物を與へるのみである。そして兒童に向つて線を與へてよい場合は、ただただそれによつて兒童が事物を正しく認識することを得るためのものでなければならぬ。然し兒童がただ線のみを見得るがために事物を兒童から奪ひ取つてはならない」と。そして、別な機會には、彼は線のために自然を斥けることの危険に就いて、頗る平らかならずして、遂に彼は叫んでいつたには「恰かもかの偶像崇拜の僧侶たちが迷信的説教を以て人間の心意を吞吐し、そして自然の感覺的印象を排するほど人間の心意を化石化したのと同じく、これらの線や人爲の

術のために私が人間の心意を吞吐し盡し、且つ自然的な感覺的印象を排するほど人間の心意を化石する」とを、神が禁じたのである」と。

「最後に、私は二者の書物の方案に於て、自然の進行との完全な合致を認め、且つ發見した。そして、自然をして人間の諸才能の發展上、根本肝要なる影響を人心に與へしめるに必要なだけの術を認め、且つ發見したのである。

「然し、こゝまで来る中に私は進退兩難に陥つた。ベスタロッツは私に向つていつた、およそ兒童は言葉と同じやうに、これらの輪郭を讀むやうに、また曲線や角の個々の部分を文字を以て命名するやうに教へ、それによつて、それらの結合をば恰かもいくつかの文字の結合によつて語を表現すると同じく、明瞭にこれを紙上に發表し得るやうにさせなければならぬ。そして、これらの直線や曲線やこれを直觀のイロハとなすべく、それによつて人爲の術に成れる言語の基礎たらしむべきである。而も、その基礎によつて種々雑多なすべての形を、單に極めて明瞭に知らしむるのみならず、また明白に語を以てそれを發表さすべきである。然し、ベスタロッツは私が理解するまでは決して安心することはなかつた。私が非常に彼に心配させたことを見て氣の毒に堪へなかつた。然し悲しんで見たところで、所詮致し方はなかつた。直觀のイロハは彼の辛抱強さがなかつたならばとても發見されなかつたであらう。



「たうとうそれは発見されたのである。私はA(イ)なる文字から始めた。これ即ちベスタロッチが望んだところであつた。そして一の文字から他の文字へと順次進んで行つたので、もはや私は何の心配も骨折もなかつた。事物は既に完成せる圖畫の中に存したのであるが、ただ私が實際に知れる事柄を發表することも出来ないし、また他の人々の発見を理解することも出来ないといふ難點があつたのである。」

「然し、この難點が救済されるといふことが、ベスタロッチの方法の根本肝要な結果中の一つである。物事を發表するといふ術は、自然及び人爲の術が吾々に與へるところの知識と確實に結びつくであらう。そして兒童は如何なる階梯の知識に就いても、發表することを學ぶであらう。『吾々が徹底的に知れる事柄に就いて明瞭完全に發表することが出来ないといふことは、吾々教師の間に普通に認識されたところであつた。ベスタロッチにとつてさへも、明瞭に彼の意味することを發表するところの言語を見出して、そして、教育の目的に關する彼の見解を敘述するといふことは必ずしも困難でないわけではなかつたのである。』

「實はこの明確な言語發表の缺乏のために、私は私の仕事に就いてかくの如く長い間、遲疑躊躇し、そしてベスタロッチの原則を理解しなかつたし、また理解することが出来なかつたわけである。」

「私はこの難關を通過した後、日に日にベスタロッチの方法の效益を認め、そして特に明確な言語による直觀のイロハ——その方法がかゝる程度に於て、事物及び術に就いて兒童に與へるところの——が如何にして兒童の心意に於て、ずつと正確な正しさと釣合との感じを形造るかを理解したのである。私は特にまた、かういふことを感じた。即ち、自分等の環境の事物に就いて、術及び注意を以て發表するやうに教へられた人々が單に種々の事物の名稱を正しく知ることによつて、如何にしてかやうな教授を受けない人々にとつて可能なるよりも、それらの事物の種々異なる特色を一層明瞭に識別し、且つ一層明瞭に意識することが可能となるかといふことを感じたのである。經驗は私の期待を確認した。兒童はかの少年時代より、計算や圖畫に慣れた人々よりも、一層正しくこれらの種々なる諸部分を批評したのである。この術に於ける兒童の進歩は頗る急激であつて、兒童の普通の進歩とは到底比較すべからざるものがあつたのである。」

「そして、私はただ單に私の受持てる學科を媒介としてのみ、この方法の全體を見たのであるから、むしろ、それだけでは、その方法の効果が狭いものではあらうが、而も、この制限された私の圈内に於て私は根氣よく且つ注意深く實驗した結果、私は次第に一步は一步と、他の學科の上にもやはり同じくその効果を及ぼすものであるといふことを推察し得たのみならず、またその實地に目撃もし、且つ理解することも出来たのである。そこで、私は單に圖畫に於ける私の課



業によつて與へられた限られた手がかりによつて、およそ言語の心理により、昔から語へ、語から語へと、次第に課業を進ませることによつて、如何にしてかの線から角へ、また角から形體へ、尙ほまた、形體から事物へと、次第に課業を進ませることによつてと同じやうに、明瞭な觀念の形成に到達することが可能なるべきかを會得するやうになつた。私はこれと同じ進み方を算術に於ても可能なことを理解した。今まで私は一々數を見るに、その數の本來の價値または内容について明確な意識を持たずして、ただ單に獨立の實體であるとしてこれを見たのであつた。恰かも、これまで私は樹の對象物を認めるに、それらの事物の明確なる輪郭または釣合の意識、即ちそれらの事物の内容についての明確然たる意識なしに、これを見たのと同じやうであつた。然し、今では私は如何なる數でも、その數の明確な内容を明瞭に意識し、且つまた、この教授を受ける兒童等が如何なる進歩をなしたかを認め、更にそれと同時に、如何なる學科にとつても、およそ數と形と言語とに關する教授を同時に與へることが如何に肝要であるかを會得するに至つたのである。然し、私は嘗て私の受持學科に於て言語の缺乏に基因する缺陷を認めたやうに、今は算術の缺乏のために生ずるいろいろの缺陷を認めるに至つた。例へば、私は兒童が如何なる形狀でも、その形狀の個々の部分をば、その部分を數へることが出來ずしては、とても表現し得ないことを實地に見たのである。ちやうどこれは兒童は四なる數は四個の單位から成り立つものな

ることを明確に知らないでは、とても如何にして或る一つの數が四個の部分に分割し得らるべきかを理解し得ないのと同様であることが、私に分かつて來たのである。かやうにして、今日私の仕事は日に日に私に明瞭の度を加へて行き、それだけ多く私自身によつて明瞭になつて行くところから、いつたいこの方法は、それが一般に人間の心意の上に及ぼす影響によつて、兒童の心意中に各學科に於て兒童自身の進歩を、ずんずん助けて行くところの力を發生せしめるものであつて、いはゞ、その方法は本來一のはづみ事のやうなもので、ただ初めにそれを動かしてさへもらへば、あとはひとりで運轉して行くやうなものであるといふ確信が私に起つたのである。だが然し、これを覺り得たものは敢て私一人のみではなかつた。幾百の人々が來校し、實地に參觀して、そして「これは間違ありつこはない」といつたのである。百姓の父母たちも「家庭で自分の子供にかういふやり方を施すことが出来る」といつた。そしてそれは決して間違ひのないことであつた。

「若し誰でもが、この初步の手掛りさへ握つてしまへば、この方法全體は、實に一種の樂しき遊戯と化するであらう。この方法によるならば、およそかの人爲の術をば人間にとつて困難な仕事と思はせるところの側路、そして、自然そのものから吾々を外らさせ、また人爲の術が専らその基礎を据ゑ得べき確固たる地盤から吾々を遠ざからしめるところの側路、この側路にふみ迷ふ



やうな心配はなくなるのである。自然は若し、吾々が人爲の術をば正しき方法に於て求め、且つ自然の手からのみこれを求めるならば、決して吾々に向つて容易くないことは要求するものである。

「私はこゝに次のことを一言添へて置かねばならない。それはこの方法の知識は非常に私の少年時代の愉快さと力とを恢復させてくれたし、また私自身のため、並びに人類のために、私の希望を活気づけてくれたといふことである。而も、私はこれまで長い間、私のこの希望をば單なる夢想に過ぎぬものと認め、心中私かに憧憬の念に驅られながらも、それを投げ棄て、置いてゐたのであつた。今やその希望が甦つたのである。」

#### 第四 信

友よ、君は既に私と現に尙ほ協力して仕事に従つてゐる人々の事を知り得たであらうが、然し私が最初こゝブルグドルフに來た當時は、これらの助力者を一人も持たなかつたのである。私は最初、かうした助力者を求めなかつた。私がスタンツを去つた後は非常に疲勞もし、心も動搖してゐたので、私が豫ねての國民教育方案の理想も私の心中に早や萎みかけてゐた。それで私は當時ただ單に現存する學校の悲しむべきいろ／＼の状態の細目に就いて改良を加へることだけに私の目的を狭く限局したのである。而も私がこの事さへも能く爲し得ず、また、私の豫ねての目的の精神によつて到達さるべき唯一の軌道に餘儀なく立ち歸らざるを得なかつたのは、一に全く私の必要と境遇との結果であつた。かくして數個月間といふものは、私は私自身の狐疑遠慮のため餘儀なくこの制限内のことをやつたばかりであつた。それは實にをかしな事態に外ならなかつた。私は無學でもあり實行力に乏しいのではあるが、然し私の事物を明瞭に掴み、それを單純化しようとする力を以て、私は一方に於てはほんの間に合はせの學校教師であると同時に、他面實に教授の改革者であつた。そして、ルソー（一七二二年生——一七七八年死）及び、パセドール（一七二三年生——一七九〇年死）の時代以後、世界一半は既にこの目的のために實地進行を促



がされてゐた時代に於て敢て私はこの大事業に當つてゐたのである。私は實際、彼等が何を欲求し、また何を爲しつゝあつたかに就いては何事も知らなかつた。ただ私は次のことだけは見たのである。それは教授の高尙な諸點、否むしろ高等なる教授そのものは、こゝかしこに於て完成の頂點に到達して居り、そしてその榮光は恰も日光が蝙蝠の眼を晦らますと同じことに私の無學をいよゝ、以て惑はずに至つたといふことである。私は教授の中等階梯は私の知識の領分をすつと超越してゐることを見た。そして、私は最も初等程度の教授がこゝかしこに於て蟻の如き勤勉と熱誠とを以て實行されてゐるのを見、また、その效用と効果とはどの道、到底閑却され誤認さるべきものでないことを實際に感じたのである。

私が教授の全體、否むしろ全體としての教授を大觀し、而も教授を必要とする多數大衆の眞實なる實狀と關聯してそれを大觀する時、私は自己の無學をも顧みずして爲し得た僅かばかりの仕事でも、大衆が當時實地に受けてゐたものとはとても比較すべからざるほど多大なものであるやうに思はれたのである。私が大衆を観察すること多ければ多いほど私はますます次のことを發見するに至つたのである。即ち吾々が村や學校に於て實際に見る場合、恰かも書物からして大なる流れのやうに大衆に流れると見えるものは濃霧の中に消えてしまひ、而もその濕潤な濃霧のため大衆は濡れもせねば、乾きもせず、また彼等は日中または夜間に於ける何等の利益をも受けな

いといふことを私は次第に感じたのである。少くとも當時實地に行はれたのを見たところでは、學校の教授は大多數の大衆にとり、また、最下層階級にとつて全然何等の用を爲さぬものであるといふ感じを、私は發表せずにはゐられなかつた。

私の知る限りでは、當時の學校教授は譬へば一の大なる家庭のやうなものであつた。そして、その最上層は最高至善の術を以て輝きわたつてゐるが、然しその部屋に住むものは極めて少數者だけでしかない。中層には更に多數の人々が住居してゐるけれども人間らしい方法で上層に到達し得るための梯子がない。それでその中の極く少數者が若し動物らしい方法によつてでもそこに到達しようといふ望みを起し、そしてそれが發覺すると、彼等は梯子代りに使用してそこに登らうとしたところの指や手足などは、往々にして断ち切られるのである。最後に、下層にはとても數ふべからざるほどの大衆が群居してゐる。彼等とても、最上層の人々と同じやうに日光と健全なる空氣とを享樂する平等の權利を持つてゐるのであるけれども、彼等は單にまつくら開みの中や、星の見えざる洞穴の中にほつて置かれるばかりでなく、兩の眼を塞がれ、盲目にされて上層を見上げることさへ出来ないやうにされてゐるのである。

友よ、これらの事態を實地に目撃した私は自然に次の如き確信を懐かざるを得ざるに至つたのである。即ち、歐羅巴の大多數の大衆を意氣沮喪せしめる學校の諸弊害を單に塗りかくすだけで



は不十分である、須らくそれを根本から救治せねばならぬ。従つてこの處置が中途半端に終るやうなことで、はすぐさま第二の毒藥を彼等に服せしめるやうなものであつて、この毒藥たるや、第一の毒藥の利目を杜絶することが出来ないことはもちろん却つてそれを倍加するに相違ないものだといふことを私は確信せざるを得なかつた次第である。私はむろんかゝることを欲求するわけがなかつた。とかくする中に私は若し何人も機械的な教授の方式を還元して、人間心意をば單なる感覺的印象から明瞭なる觀念にまで引き上げるところの永劫の法則となすことにうましく成功することが出来なければ學校の弊害全體を救済することは絶対に不可能であるに相違ないとの意識が日に日に私の心中に發生しかけたのである。

日に日に確實化しつゝあつたと、私がいつたこの意識は、同時にまた教育の全範圍に通ずる或る一の見地にまで私を導いたのである。かくして、私の心の奥底では恰も穴の中にある廿日鼠のやうに猫が怖ろしくて外をのぞき見することさへも殆んど出来ないのと似てゐるけれども、それでも私は氣が進まずして採用した誠に心細い姑息策が、全體としての學校の必要を少しも満たすことが出来ないのみならず、容易に起り來たるべき事情に於て隨處に可憐な兒童をしてこれまで學校に於て嚙下することに慣れた阿片の第二藥を服用せしめるの結果をさへ持ち來たすべきことを餘儀なく實現せざるを得なかつた次第である。

然し私がただ一人で學校を管理することの如何にも没生命な、つまらなさのために、私はそれほど恐れることはなかつたが、そのために私は日に増し不愉快になつたのである。私は私の仕事に於て、恰かも自分の魚掬を失つた水夫が魚鉤を以て鯨を取らうとするに似てゐると思はれた。むろん、それがうましく行きつこのないことはいふまでもなかつた。若しその水夫が無事安全に岸に行きつきたいと思へば魚掬を手にとるか、それとも鯨をそのまま逃がさせるかしなければならぬ。一旦、私が私の目的の緊急な要求を満足させ、且つ教授の原則を自然の進行と合致させるには果して如何にすべきかを理解しかけた場合に於ては、私はちやうどこれと同じやうな場合に立つてゐたのである。私の仕事に對する自然の要求は、もはやこれを閑却されなくなつた。それは私の眼前に一の結合せる全體として現はれた。そして若しも捕鯨者の如くに私が無事安全に歸國せんと欲すれば、私は私の職業に於てたとひ些細なことでも少しもこれを爲さうといふ考を一切放棄するか、それとも何處に私を導かうと、ひたすら自然の統一を尊敬するかでなければならぬまい。そこで、私は後者を選んだのである。私は永久に自然の指導に身を任せた。そして私はぶらぶらと意氣地のない間に合せ教員として空虚なイロハの手押車を引き廻はした後、突如として孤兒院、教員養成所、寄宿學校等の設立を包括した一大計畫に身を投じた。ところが、それは第一年目に資金調達の必要に迫られたが、その資金の十分の一だも私の手中にはいることを豫想す



るわけには行かなかつたのである。

然し、それはうまく成功した。友よ、それは成功するもの、また成功するに相違ないものである。深き経験は次の如く教へた、苟くも人間の情といふものは、たとひ或る事情の下に於ては、あらゆる人情中最も頑固な欺瞞的な政府者の人情でも、人類への奉仕に對する偉大にして純眞の努力には勝ち難いものである——若しその努力の豊かな蓄がひとたび眼前に満開したならば——そしてその努力をむざむざ傷つけ、遂に無効無力のものに打ち沈めるやうなことはないものである。してまた、ゲスナーよ、私が初め試みた實驗中、二三のものは實に圓熟した果實を結んだのである。

友よ、人は善良であり、また、善良なものを欲求する。同時に、人はその善良なものを持つて自己の幸福を計らんと欲するものである。若し人が悪であるならば、彼が善良たらうとする道が梗塞されてゐることが確かだからである。あゝ、この梗塞といふことが恐ろしいことである。而もそれは極めて普通のことであり、従つて人は善良なることが極めて稀有であるのだ。それにも拘はらず、私は如何なる處、如何なる時に於ても、飽くまで人情を信するものである。この信仰を以て今や私は恰かも羅馬の鋪石道を歩くが如くに、先人未踏の道を進行するのである。然し、私は昔に對して、私が今までさうした事情の下に動らなければならなかつたところの

混亂した諸觀念に就いて報告し、私自身のために教授の機械的方式を闡明し、その方法を人間性の永劫的法則に従屬せしむべきゆゑんを明らかにしたいと思ふ。

友よ、このために私は今より六個月以前に、私の學院の二三の友人に致したる私の實驗に關する報告書中から二三節を摘記して送らう。それは私の觀念の進歩せる跡を理解する上に非常に役立つであらうと思ふ。

此の報告書に於て私はかういつた、一人はただ術（教授または教育の術）によつてのみ初めて人となるものである。しかし、吾々自身が創造したこの術の指導が如何に多大の力があるにもせよ、それは必ずや自然の單純な進行と結びついたものであらねばならない。人爲の術がたとひ如何なることを爲し、また如何に大膽に吾々をば現在の状態から向上せしめ、そして吾々の動物性の諸特質以上に引き上げることが出来ても、それは吾々人類をして混亂した感覺的印象から明瞭な觀念にまで向上せしむるところの、その形式の精神に向つて毛ほどの廣さも加へることが出来ない。そしてまた、それはさうあつてはならぬものである。それはただ次のことに於てのみ、本來その目的、即ち吾々の向上を實現するものである。即ち、それはこの形式に於て吾々を發展せしめるもの、そして他の如何なる形式に於ても吾々を發展せしめるものではない。そしてそれが他の形式に於て吾々を發展させようとすれば、忽ち非人間的の状態にまで吾々を引き戻すであら



う。そしてその非人間的な状態から吾々が向上するといふことが、そも／＼吾々の本性を造つた造物主が吾々に課した運命である。吾々人類が要求する發展の形式、この發展の形式を發生せしめる自然の靈は、それ自身に於て確固不動であり、永劫不變のものである。それは人爲の術の永劫不變、確固不動の基礎であり、また、あらねばならない。それはまた苟くも事物の皮相乃至表面を徹してその奥を見透さうとする人々には最高の榮光を呈して現はれるであらう。そして恰かも壯麗な大家屋の如く、一つ一つの小さい断片を附加しても殆んど眼に見えない觀があるけれども、やはりそれが永劫不朽の大岩石の上に引上げられたが如きものである。そしてその家屋がしつかりと岩石と結びついてゐる限りは、それは確固不動の基礎をその上に据ゑるのであるが、然し若しも家屋と岩石との結合が少しでも破れるならば、突如としてその構成分子たる微小な断片までも崩壊してしまふであらう。かくの如く、人爲の術そのものは、全體としてその結果がかくの如く偉大なものであるけれども、それが自然の進行に向つて附加するもの、否、むしろそれが自然の基礎の上に建つところの一つ一つの事柄は、いかなる場合に於ても極めて些細なものであり、殆んど眼につかないほどである。人間諸能力の發展に對するその意味は、元來、次の事に限られる。即ち自然が廣い範圍にわたつて、而も、紛然雜然と吾々の眼前に撒布するところのものを、人爲の術はより狭き區域の内に、而も、順序次第を正しく置き、そして吾々の五官に

一層接近させ——すべての印象にまで吾々の感受性を促進し、且つ熾烈ならしめる種々なる聯合によつて——かくして、日々ますます／＼多數に、永い間、またますます／＼正確な工合に、世界のいろいろな事物を吾々に提供するやうに吾々の五官を發展せしめるに在る。然し人爲の術の力はその力の効果及び作用と自然本來の作用との調和に依存するものであつて、その全作用は自然のそれと同一のものである。

一人よ、この高尚な自然の作用を模倣せよ、自然は最大樹木の種子から、先づ殆んど眼にも見えない萌芽を發生せしめ、次に、やはり前同様、眼につかぬやうに毎日毎日、否、毎時間、その階梯を徐々に追うて、第一に幹を、第二に枝を、第三に分枝を、第四に尖端の細枝を展開し、そしてこの最後の細枝には年々朽ちるところの葉が生ずるのである。大自然のこの作用を仔細に觀察せよ。自然はその各部分を形造る場合に、そのいかなる各部分をもよく注意して完成せしめ、すべての新部分をば舊き部分の持續的成長にまで接合するものであるといふことを綿密に考察せよ。

一美はしき花が深く隠れた蕾から如何に展開されるかを仔細に考察せよ。また、第一の美はしき開花が、間もなく消え失せてしまふが、初め弱々しく、而も完全に形造られた果實が、毎日毎日、それが既に存するあらゆるものに向つて何等か必要なものを附加し行く次第を熟考せよ。か



く長き月日の間徐々に大きくなりつゝ、それはそれを養ふところの細枝の上に懸かり、そのすべての部分に於て完全に熟するまでそこに止まり、やがて木から落ちるのである。

「母なる大自然がその發刺たる發生力を以て根芽を發生し、木の最も貴重な部分を、地底深く藏せしめる孔を考察せよ。そして、また自然がいかにその根の眞髓から確固不動の幹を形造り、幹の眞髓から枝を、尙ほまたその眞髓から分枝を形造るか、次第を考察せよ。そして、如何に自然が最もか弱き、最も尖端の細枝に至るまで十分の榮養分を供給し、而もいづれに對しても決して無用な、不釣合ひな餘計過ぎる力を與へないことを篤と考察せよ。」

人間の物理的本性の機構は、元來、物理的大自然が一般にその諸力を展開するところの法則と同一の法則に従ふものである。およそこの法則に従へば、一切の教授はその知識の題材、即ち學科の最も本質的な部分を、人間心意の眞髓にまで確實に植ゑつけ、それから、次第に、然しながら間斷なく本質的な部分をば、最も本質的な部分にまで接合し、そして學科のすべての部分、その最も尖端的な部分をまでも一切含めて、一の生きた釣合ひのとれた全體に於てこれを支持すべきである。今や私は人間心意の發展がその眞の本性に於て従はねばならぬところの法則を求めた。そして私はその法則が物理的大自然の法則と同一のものであることを知り、そしてその法則に於て教授の一般的な心理的方法を理解すべき安全な手掛かりを安心して發見したので

ある。私は夢心地でこの手掛かりを發見してゐる刹那、われとわが身に向つてかういつた、「人よ、諸君が完全な果實のあらゆる物理的成熟に於てその總ての部分に於ける完成の結果を認めると同じやうに、苟くも人間の判斷が、判斷さるべき事物のすべての部分の完全な感覺的印象の結果として現はれないものは決してこれを完全圓熟せるものと考へてはならない。だが、これに反して、完全な直觀が行はれない以前に既に完全圓熟せるものと見えるところのすべての判斷は、その實、虫の食つた、故にまた時ならずして木から落ちるところの、外見上は熟したやうに見える果實に外ならぬものと考へべきである」と。

一、それ故に、もろくの觀察を分類し、且つ複雑に進む前に先づ單純を完結することを學ぶべし。如何なる術に於ても、知識の漸進的階梯が深く印象され、そこに、決して忘却されぬやうにすべし。そして、この漸進的な知識の階梯に於ては、如何なる新觀念も既知の舊觀念に對する些細な、殆んど眼に見えざるほどの附加である。

二、また本來相互に關係あるすべての事物をして、それらが自然界に持つと同じ聯絡關係を、吾々の心意に於ても保たせるやうにせよ。吾々の觀念に於て、本質的な事物に、あらゆる本質的な事象を從屬せしめよ。特に人爲の術によつて與へられた印象をば、自然及び實物によつて與へられた印象にまで從屬せしめよ。そして、それが自然に於ける人間の關係に



於て持つよりも大なる重みを、吾々の觀念に於て何ものにも與へることなかれ。

三、重要な事物の印象をば、人爲の術によつて吾々にますく接近せしめ、且つそれをして種の感官を通じて吾々に影響せしめることによつて、その重要な事物の印象を強め、且つ明瞭ならしめよ。このためには、物理的機構の第一法則を學べ。それは物理的大自然のあらゆる影響の力の強弱大小をして、吾々の感官と接觸するところの事物の物理的接近の如何に依つて決定されるものとなすのである。さて、この物理的接近なるものが吾々の積極的な意見や行爲や義務や甚だしきは道徳をさへも決定する上に、莫大なる影響を持つものであるといふことを決して忘るゝことなかれ。

四、自然法のあらゆる結果をば絶對的に必然的なものと認め、且つこの必然の力の効果を認めよ。自然はこの力によつて自己の目的を到達せんがために自己の有する種々なる材料の、一見異質的な諸要素を結合統一せしめるのである。吾々が教授に於て、苟くも人間に對して所期の結果を實際に役立たせるところの人爲の術、その人爲の術の基礎をば自然法に置かしめよ。そして、かくするゆゑんは、たとひ外見上は異質的に見えても、吾々のすべての行動をば、この主要目的に對する手段ともなすためである。

然し、その豊富な興味と、その種々雑多な自由發揮とは實に物理的必然性、若しくは

自然法に對して自由及び獨立の印銘を帶はしめるものである。

吾々の術及び吾々の教授の結果をして、やはりこれと同じやうに自由と獨立との印銘を帶はしむるやうにせよ。それと同時に、吾々はその結果のいかにも豊富な興味と種々多様な自由發揮とによつて、この教授及び術の結果を自然法の上に基礎づけるやうにせよ。

人間性の發展を支配するこれらすべての法則は一の中心に輻合する。それらは吾々の全存在の中心に向つて輻合し、そして吾々自身は實にその中心となるものである。

友よ、私が現に今日あるゆゑん、私が希望するところのすべてのもの、また、私が或は然かあるやも知れぬところのすべてのもの、これらは實に私自身から生ずるのである。然らば、私の知識もやはりまた私自身から生ずべきものではなからうか。



## 第五信

これら數個の命題に於て、私は教授の一般的並びに心理的な方法が織り成されると考へるところの糸を、君に提供したのである。

然し、私はそれだけで決して満足するものではない。私はこれらの諸命題の基礎たる自然の本質的法則を、そのすべての單純性と完結性に於て敘述すべき場合には達してゐないと感じてゐる。ただ私の見る限りに於て、それらはすべて三重の根源を持つたものである。

第一の根源は自然そのものである。即ち、自然の力によつて吾々の心意は朦朧たる感覺的印象から明瞭なる觀念へと發展するのである。そしてこの根源から、次に擧ぐる如き種々の原則が流れ出る。それらはその性質を現に私が求めてゐる法則の基礎として認められるものでなければならぬ。

一、吾々の五官に影響するところのあらゆる事物は、實に吾々を助けて正しき意見を構成せしめる手段である。尤も、それはこれらの事物の現象が吾々の五官に向つて、その變化するところの面相が若しくはその外部的性質とは異つた、不動不變な、本質的な本性を提示する限りに於てのことである。これに反して、これらの事物は、若しその現象が本質特質とは全く

異なる偶然的な性質を吾々の五官に提供する限りは却つて誤謬と欺瞞との根源となるものである。

二、完全に、且つ打ち消すべからざるやうに、人間の心意の上に印象されたるあらゆる感覺的印象にまで、多少の程度はとにかく、密接に聯合せるもろくの感覺的印象の全系列は恰かも無意的であるかの如くに容易く附加され得るのである。

三、さて、若し或る事物の偶然的性質とは全く異なるその本質的本性が、すば抜けて強烈なる力を以て吾々の心意に印象されるならば、吾々の本性の有機體はそれ自身この事柄に關聯して、眞理から眞理へと、毎日毎日、吾々を指導するであらう。若し、これに反して、或る事物の本質的本性ではなく、却つて變化するところの性質が、これまた、すば抜けて強い力を以て吾々の心意の上に印象されるならば、吾々の本性の有機體はこの事柄に關して毎日毎日誤謬から誤謬へと吾々を導くであらう。

四、今、本質的本性の同一なる多くの事物を結合せしめることによつて、それらの事物の内的眞理に對する吾々の洞察は、本質的にまた一般的にますます廣く、ますます鋭く、且つますます確實となるのである。それら個々の事物の本質的本性が當に吾々の心意の上に生ずべき印象とは反對に、個々の事物の偶然的性質が與へるところの一面的な偏頗な印象は力弱きも



のとなるのである。吾々の心意は偶然的性質の個々離れ離れの印象の力のために吞吐されな  
いやうに保護される。そして、事物の外部的性質と本質的本性とを無分別に混同するの危険  
から吾々は救はれ、且つまた徒らに偶然的な事柄に没頭して、明瞭なる洞察を次第に離れて  
行くところの危険からも吾々は救ひ出されるであらう。そこで、吾々はますます事物の本質  
的、包括的、一般的見解を自己自身のものとなすならば、それに準じて、限局された、一面  
的の見解のために事物の本性を見惑ふやうなことが次第に少くなるといふ結果となるわけ  
である。更にまた、若し吾々が自然の包括的な感覺的印象に於て練習が少ければそれだけ種々  
異なる事情の下に於て、事物の個々の見解が吾々の心意に於て本質的の見解を紛糾せしめ、  
甚だしきは、それを抹消せしめることがいよ／＼容易となるであらう。

五、極めて複雑な感覺的印象でも、それは單純な要素を基礎としてゐる。吾々が若しこれらの  
印象に就いて完全に明瞭であるならば、この極めて複雑なものも單純化されるであらう。

六、およそ或る事物の本性または面相に就いて吾々が多くの感官を働かせれば働かせるほど、  
それに就いての吾々の知識はますます正確となるであらう。

これらは吾々の心意の本性から引き出される物理的機構の原則であると思ふ。これらの諸原則  
は、この機構そのものの一般法則と結びついてゐる。そしてそれに就いて、私は今日、ただかう

いふだけである。曰く「完成は自然の大法則である。そしてすべての不完成は眞ではない」と。

これらの物理的、機械的諸法則の第二の根源は、吾々の本性の感覺性と密接に結合された感覺  
的印象の力である。

これは何事をも見たい知りたいといふ欲求と、その知りたい學びたいといふ衝動を鎮めるとこ  
ろの何事をも享樂したいといふ欲求との間に存するあらゆるその活動中に漂ふものである。單  
なる物理的の力としては、人間の懶惰性は好奇心のために刺戟され、それと同時に、この好奇心は  
懶惰性によつてまた鎮められる。然し、一方の刺戟も他方の誘惑もそれ自身に於ては要するに物  
理的の價值以上のもではない。而も好奇心は吾々の探究にとつての感覺的基礎としての大なる  
價值を持つものであり、また情性は冷靜なる判断にとつての感覺的基礎として價值あるものであ  
る。吾々は知識の木が吾々の本性の感覺性に對して有する無限の魅力によつて、すべて吾々の知  
識に到達する。そして情性の原則によつて、それは一の感覺的印象から他の感覺的印象へと、吾  
吾が無難作に皮相的に轉々することを防止すると同時に、多くの方法に於て吾々は眞理を發表す  
る前に既に眞理にまで圓熟してゐるのである。

然し、吾々眞理界の兩棲動物は、この眞理の圓熟に就いて何ごとも知らない。吾々は眞理のほ  
のめかしを持つ前にそれを豫告し、ひとりでにそれを知らせてしまふのである。吾々はそれより



外には出来ない。吾々は地上に確立するところの四足獣の力を持つてゐない。海灣をわたる魚類の鱗をも持つてゐないし、雲上を飛翔する鳥類の翼をも持つてゐないのである。吾々はイーヴと同じく、事物の無意識的な感覺的印象に就いては殆んど知らない。そして、若しイーヴのやうに成熟せざる眞理の果實を嚙下するならば、やはりイーヴと同じき運命を負ふであらう。

これらの物理的、機械的法則の第三根源は、吾々の知覺の力に對する吾々の外部的事情の關係中に存する。

人間はその棲息する巢と、とても離るべからざる運命を持つてゐる。それで、若し彼がその巢を百本の糸にぶら下げ、そしてその周圍に百個の圓周を描くならば、かの自分の巢を百本の糸にぶら下げ、そしてその周圍に百個の圓周を描くところの蜘蛛以上に果して何ことを爲すであらうか。そしてただ人間の方は蜘蛛の大きなもの、そして蜘蛛の方は小さな人間といふ差があるが、さてその差別は如何なるものであらうか。彼等兩者の活動の本質は、即ち彼等は彼等が描く圓周の中心點にゐるといふことである。ただ人間が中心點にゐるといふのは、そこにたゞ紡いだり、織つたりするためにそこを選ぶのではない。彼は世界のあらゆる事物を、それの單なる物理的面相に於て學び、彼の感覺的印象に到達する世界のあらゆる事物が（大部分は人間の助力を借りずに）そこで、彼が紡ぎ且つ織るところの中心點に接近する程度に全然應じて、それらの事

物を學ぶのである。



友よ、君はとにかく、私が私の實際の仕事の理論を君に向つて明瞭に傳へんがために、かなり苦心したことが分るであらう。この苦心したことをば、若し君が私の今まで成功したことを如何にも些細なことであると感じたならば、その場合の一種の辯解であると考へられたい。私は二十歳以後といふものは、言葉の眞の意味に於ける哲學的思索といふことが、とても出来なくなつて來た。幸にも私の方案を實地に遂行することのためには、私には極めてくどくどしく思はれる哲學などは少しも入用でなかつたのである。私は苟くも自分が仕事をした範圍内の事柄に於ては如何なる點といへども極めて緊張した氣分で生きて來た。私は何が入用であるかを知り、明日のためには何等の思考をも費さず、當面當面の瞬間に於て特に私の興味を覺えた事柄にとつて實際に必要なものを感じたのである。そして、若し私の想像が、今日に於て私が確固たる地盤を見出した以上に、百歩だけ多く私を推し進めるならば、明日に於て私はこの百歩を後戻りするといふ風であつた。これは幾千たびあつたことだかわからなくらゐである。幾千たびか私は私の目ざす目標に近づきつゝあると考へたが、その都度、私は急にこの見かけた目標が、その實、私がそのために變づいた新たななる山に外ならぬことを見出したのである。かくして、私はすすん進んで

行つた。特に、物理的機構の原理及び法則が次第に私に明瞭となりかけた時に、これまで幾代も幾代もの經驗が、諸能力の發展のために人間の實地使用に供したところの教授の各學科に於て、これらの原理や法則を單純に使用する外には、何等の處置の必要なことを即座に考へたのである。そしてこれらの學科をば私はあらゆる術及び知識の要素、即ち讀み方、書き方、算術等であると認めたとである。

然るに、私がかく爲さうと努力してゐる間に次第に増し來たれる私の經驗は、漸くこれらの諸學科があらゆる術及び知識の要素とは認め得べからざるものだといふ確信を生むに至つたのである。却つてそれらはこの事柄の邊かに一般的な見方に從屬しなければならぬと考へるに至つた。然し、教授にとつて極めて重要であり且つ私がこれらの學科を實地に教授する間に發生したところのこの眞理の意識は、久しき間、私には單に個々離れ離れの姿に於て現はれ、やがてまた個々別々の經驗と結びつくところの個々別々の學科と、ただ關係を保つものに過ぎないといふか、私には思はれなかつたのである。

かくして私は讀み方を教へてゐる間に、それが必然的に話す方に從屬するものであることを發見した。また、兒童に話し方を教授する手段を見出さうと努力してゐる間に、私は、この術はかの自然が音から單語に、單語から次第に言語へと進むところの順序次第と結びついてゐるといふ



原則を發見するに至つたのである。

また、私は書き方を實地に教へてゐる間に、この術は描き方の術に從屬するの必要あること、それから、描き方を教へてゐる間に、この術が測量の術と結合し、それに從屬するものであることを發見したのである。尙ほまた、綴字の教授は、私をして幼児のための書物の入用なことを氣づかした。そして私はこの書物によつて、三四歳の幼児の實際持つてゐる知識を、七八歳の學校生徒の知識以上に上げせることの出来るやうなものにしたいと考へたのである。私が實際に學び得たこれらの經驗は、實際、私のために教授上に於けるその時々助力とはなつたけれども、それと同時に、私がこの事柄の眞の意義と内的の深みとをまだまだ知つてゐないといふ感じを起させたのである。

私は永い間、これらすべての教授の手段に對する共通な心理的源泉を求めた。なぜかといふに、かくしてこそ初めて形式、即ち、自然そのものの本來の法則によつて人類の教養を決定すべき形式を發見することが出来る。私は考へたからである。この形式は明らかに心意の一般的組織に於て見出される。そしてそれによつて吾々の理解は吾々の本性の感覺性によつて受けた諸々の印象を受納する際、これを一の全體、即ち一の觀念にまで結合統一し、次第にこの觀念（または概念）を明瞭に展開するものである。

私はかく獨語した、「すべての線、すべての尺度、すべての單語は悉く圓熟した感覺的印象から生じた理解の結果であり、また、吾々の觀念の漸進的闡明の手段であると認められねばならぬ」と。而もまた、すべての教授は本來これ以外の何ものでもないのである。故に、その原則は人間心意の發展の不動不變な原型から抽出さなければならぬ。

萬事はこの原型に就いての正確な知識に依存するものである。それ故に、私は必然的にそれを抽出して來なければならぬところの、かの初歩點に對して、今一度注意して見ることにしたのである。

そこで、私はこの空想に驅られて、かくいつた、「世界は雜然たる種々雜多の感覺的印象の大海の如くに、そして一の感覺的印象から他のそれに流れつゝあるところの大海の如くに吾々の眼前に映するものである」と。ただ一に自然によれる吾々の發展が十分に急激でなく、また淀みがあるならば、教授の仕事はこれらの感覺的印象の混亂を除去し、一の事物と他の事物とを一々判別し、互に類似し互に關係あるものを想像に於て聯合せしめ、かくして、すべての感覺的印象を吾々に明瞭ならしめ、且つこれをすべて完全に明瞭ならしめることによつて吾々の心意中に、判然明確なる觀念を生ぜしめるに在りといはねばならない。それが先づこれらの紛糾、朦朧たる感覺的印象を一一つ一つ吾々に提供し、次にこれら個々別々の感覺的印象を種々變化する位置に於



て吾々に提示し、そして最後に、吾々の既存の知識の全圖とそれらとを聯絡結合せしめる場合に於て初めてかういふことが出来るのである。

かくの如く吾々の知識は混亂から明確となり、明確から簡明となり、また簡明から完全な明確へと進むものである。

然し、自然はそれ自身、この發展に向ふところの進行に於て、常にこの大法則に據るものである。そしてこの法則は、實に吾々の知識の明確さをして吾々の感官に接觸する事物の遠近さに依存せしめるものである。吾々の周圍に存するすべてのものは、餘事はともかく、吾々の五官から遠ざかれば遠ざかるほど混然雜然と五官に映じ、且つこれを明確ならしめるに困難である。これに反して、吾々の五官に到達するすべての事物は、それが吾々の五官に接近すればするほど判然たり、また吾々がそれを明瞭簡明ならしめるに容易である。

吾々是一個の物理的生存體としては、實に吾々の五官に外ならざるものである。従つて、吾々の觀念の明不明はあらゆる外界の事物が吾々の五官に接觸することの近きか、または遠きかといふ一事に絶對的、本質的に依存するものである。換言すれば、五官、即ち吾々自身、そして、吾々の觀念は悉く吾々に輻合するものであるから吾々自身が實に中心なのである。

吾々自身は各々、吾々のすべての感覺的印象の中心であると同時に、また吾々自身は實に吾々

の感覺的印象にとつての一の對象である。そして吾々の内部に存するものは吾々の外部に存するものよりも、これを明瞭簡明ならしめるに容易なものである。吾々が吾々自身に就いて感ずるものは、それ自身に於て一の明確な感覺的印象である。ただ外部に存するもののみが、吾々にとつて混然雜然たる感覺的印象である。故に、吾々の知識の進行は、若しその知識が吾々自身に觸れてゐる限りに於ては、知識が吾々自身の外部に存する事物から生ずる場合よりも一歩簡單であるといふことになるのである。

吾々が吾々自身に就いて知るところのものは、これを吾々は明瞭に知るのである。吾々自身が知るところのものは吾々の中に在り、そしてそれ自身は吾々を通じて明瞭である。従つて、明確な觀念に到達するこの道は他の如何なる方向に於けるよりも此の方向に於てこそ、一層容易であり、また一層安全なものであるといはねばならない。そして、およそ明瞭なるすべてのものの中に於て、次の原理よりも一層明瞭なるものは一つも有り得ないのだ。即ち、眞理についての人間の知識は、人間自身に就いての人間の知識から生ずるものであるといふ原理である。

友よ、教授の要素乃至初步に就いての、生き生きとはしてゐるが、未だ判然しない觀念、この觀念が、かやうにして、久しき間私の心中にさまようてゐたのである。そこで、私はその當時、またその觀念と物理的機構の法則との間に存する破綻なき關係を發見することが出来ないまゝで



私は私の報告書に於てその觀念を記述したのであつた。(譯者註——例の報告書たる「方法」をベストロッチが書いた當時は、彼は教授の初歩といふ明確な觀念には未だ到達しなかつた。)そして、私は確實にこの初歩點を定義することが出來ずして、その觀念を記述したのである。この初歩點は、それから人爲の術に就いての吾々の見解の順序次第が發生して來るものであり、若しくは、それによつて人間自身の本質的本性を通じて人間の教養を決定し得るところの形式であるといつた方がむしろ適切であらう。然るに、たうとう突如として次の考が私の念頭に湧き出たのである。白く、感覺的印象によつて得られるところの一切の知識を明瞭ならしめる手段は、實に數と形と言語とから生ずるものであると。それはこれまで私が實際に爲し來つた仕事の上に、急に新光明を投ずるもの如くに思はれたのである。

さて、私は長い間の苦闘を打ち續けた後、否、むしろ夢の中を久しき間さまよひ續けた後、私はおよそ教育された人が、その眼前に朦朧雜然と現はれる事物を識別し、次第に、それを彼自身にまで明瞭ならしめたいと思ふ場合に、彼はそも／＼如何なる處置を採りまた、採らねばならぬかを一意専心發見しようとしたのである。この場合に於て教育ある人は次の三個の事柄を考察するであらう。

一、如何に多くの、また、如何なる種類の事物が自分の眼前に存するか。

二、それらの事物の面相、形、または輪郭。

三、それらの事物の名前。即ち、彼は昔または語を以てそれらの一つ一つを如何やうに表現すべきか。

さて、かかる人に及ぼすこの考察乃至觀察の結果は、明白に次の如き即座に形造られた諸力を豫想するものである。

一、輪郭に従つて、不同の事物を認め、且つその中に含まれるものを自己自身にまで表現する力。

二、これらの事物の數を示し、且つそれらを自己自身にまで一または多として表現する力。

三、これらの事物、その數、その形を言語によつて表現し、且つそれを忘れざらしめるところの力。

私はまた數と形と言語とは三者相寄つて教授の初歩的手段であると考へた。何となれば、如何なる事物でも、その事物の外部的性質の總體は實にその輪郭及びその數の中に含まれ、且つ言語によつて吾々の意識に上げせられるからである。然らば、次の三重の原則から出發し、その範圍内に於て働くといふことは、實に人爲の術の不動不變なる法則であらねばならない。

一、兒童の眼前に提供される各事物をば單位として見ることを、換言すれば、それが結びついて



あると見えるところの他の事物から引き離れてゐるものとして見ることを、兒童に教へること。

二、兒童にすべての事物の形、即ちその大きさと鈞合ひとを教へること。

三、兒童が知れる諸々の事物を記述するすべての語及び名稱をなるたけ速かに兒童に知らしめること。

そして、兒童の教授は右に擧げた初歩的三點から出發すべきものであるから、およそ人爲の術の第一の努力は、感覺的事物についての精密な知識の基礎に存する數を數へ、物を測り、且つ物を言ひ表はすといふ三個の初歩的能力に向つて注がるべきことは明らかである。吾々はこれらの能力を極めて嚴密な心理的の術を以て培養すべく、それを増進強固ならしめ、且つ發展及び教養の手段として、これを單純、首尾一貫、調和の最高度に到達せしめるやうに努力すべきである。

さて、これらの初歩點の認識に於て私が頗る驚いた唯一の困難は次の如きものであつた。吾々が五官を通じて知る事物のすべての性質は、何故に數、形、名稱とまさに同じく知識の初歩點ではないかといふのであつた。然し、私はありとあらゆる事物は絶對的に數と形と名稱とを持つてゐること、これに反して吾々の五官を通じて知られるその他の諸特質は、一切の事物に共通に存在するものでないといふことを、忽ち發見したのである。それから、私は一方に於て、事物の數

と形と名稱と、他方に於て、その他の諸性質、即ち私が知識の初歩點として認めることの出來ない他の諸性質、これら兩者の間には極めて本質的な一定明確な區別が存することを發見したのである。更にまた、私は他のすべての性質はこれらの三つの初歩點の下に包攝し得らるべきこと、従つて、兒童を教授するに當つて、事物の他の性質は直ちにこれを形と數と名稱とに結びつけられなければならぬことを發見したのである。そこで、私は如何なる事物でも、その事物の統一、形、及び名稱を知ることによつて、その事物に就いての私の知識が正確になり、次ぎ次ぎにその事物の他の諸性質を學ぶことによつて、その事物に就いての知識が明瞭になり、私はその事物のすべての性質を意識することによつて、その事物に就いての私の知識が判然となることを實際に會得するに至つた次第である。

更に進んで、私はすべて吾々の知識は次ぎの三個の初歩的な力から流れ出ることを發見した。

一、音を發する力から。これ即ち言語の根源。

二、心象を形造るところの、未だ明確ならざる、單純なる感覺力から。そして、この力からすべての形の意識が生ずる。

三、明確にして、もはや單なる感覺的ならざるところから。そして、それから統一の意識が生じ、且つそれと共に計數及び算術の力が生じなければならぬ。



かくして、私はおよそ人間を教育する術は、これらの三個の初歩的力たる、音と形と數との最初にして、且つ最も單純なる結果に結びつけられねばならぬこと、そして個々の部分に於ける教授は、若しも吾々の初歩的な力の、この單純な三個の結果が、自然そのものによつて決定されたあらゆる教授に共通な出發點と認められなければならないならば、それは全體としての吾々の本性に對して決して満足な影響を及ぼすことの出来ないものであると考へたのである。この事柄を認めた結果として、これら三個の初歩的な力の結果から、一般的に且つ調和的に流れ出るところの形、そして本質的に且つ確實にすべての教授をば、これら三個の初歩的な力を一緒に使用し、且つ同等の重要性を持つものと考へて、それらの徐々たる不斷の發展たらしめるところの形に適合せしめるやうに人間を教育しなければならぬ。かくしてこそ、これら三學科に於て漠然たる感覺的印象から正確なる感覺的印象へ、正確なる感覺的印象から明瞭なる心象へ、明瞭なる心象から判然たる觀念へと、吾々を發展せしめることが初めて可能となるであらう。

こゝに於て、私は結局、人爲の術は自然と一般的並びに本質的の調和を保つものであることを發見した。否、この場合、自然と調和を保つといふよりも、むしろ自然が世界のあらゆる事物をその事物の本質と、極度の單純さとに於て吾々に明瞭ならしめるために使用するところの原型、この原型と人爲の術とが調和を保つものであるこゝを私は發見するに至つたのである。そこで、

次の問題は初めて解決されたわけである。教授のあらゆる方法及びあらゆる術の共通的基础、それと同時に、人間の發展をば人間性の本質を通じて決定するところの形、この共通的基础並びに形を如何にして見出すべきかといふ問題はこゝに解決されるであらう。また、私がおよそ人間の教授の基礎と認めたるかの機械的法則をば、幾代もの經驗が人類發展のために人類の掌中に置く教授の形にまで實地に適用すること、換言すれば、これらの機械的法則をば讀み方、書き方、算術その他の學科に實地適用するといふ困難な問題は、こゝに初めて解決されるであらう。



かく觀れば教授の第一番目の初歩的手段は先づ

音

である。

そして、この初歩的手段は自から次に擧ぐる教授の特殊な手段に分れる。即ち、

- 一、發音の教授、即ち發語機關の練習。
- 二、單語の教授、即ち個々の事物に就いての教授。
- 三、言語の教授、即ち吾々の能く熟知せる事物及び吾々が知れるすべての事柄に就いて正確に思ふところを發表せしむるための手段。

#### 一 發音の教授

は話される音と歌はれる音との教授に分けられる。

#### 話される音に就いて

この話される音に關していふべきことは、たとひ、それらの音が早く兒童の耳に持ち來たされると、後れて持ち來たされるとを問はず、また個々離れ離れであると、多數一緒であるとかかはらず、とにかく、それを偶然の成り行きに任かせて、放任するわけには行かぬといふことである。音をば成るべく早くその全音域に於て兒童の意識に上げせることが大事な點である。

この意識は、兒童の發語する力がまだ形造られない中に豫め兒童の心意に於て完全なものとなつてゐなければならぬ。そしてその音をたやすく繰り返し得る力は、文字の形が兒童の眼前に置かれる前に、即ち讀み方の課業を初めて開始する以前に於て、完全なものとなるやうにすべきである。

それであるから、『綴字本』(譯者註——一八〇一年に公にされたベスタロッチの『綴字及び讀み』には語を構成するすべての音が含まれてゐなければならぬ。而もそれらの音は如何なる家庭に於ても、嬰兒期に於ける兒童の耳に持ち來され、そしてまだ兒童がほんの一つの音さへも發することが出來ない中からでも、絶えざる反復によつてそれを深く印象させ、決して忘れることのないやうにすべきものである。

例へば、ba ba ba, da da da, ma ma ma, la la la, 等の如き簡単な音を發することが如何に嬰兒の注意を喚び起し、彼等の心を喜ばせるかは何人といへども想像し得られない——それは實際見えないから。なほまた、これらの音を夙に知るといふことのために、兒童に於ける一般の



學習力がどのくらゐ促進されるか、何人も想像することが出来ない。

まだ兒童が音や調子を模倣し得ざる以前に於て、それらのものの意識が頗る重要な價值を有するといふ、この原則により、更にまた嬰兒の眼前に置かれる類ひの事物及び繪畫は兒童の耳に持ち來たされる音と同じく、頗る重要なものであるといふ確信によつて私は「母親のための本」を造つたのである。そして、その本に私は初步の數と形とを木版で圖解したばかりでなく、更に五言によつて明らかにされるいろ／＼な事實の、最も本質的な他の特質をも圖解して置いたのである。

かくして、すべての觀察によつて力強くなり、また、生き生きとなつた多くの名前の知識によつて、私は兒童將來の讀み方の準備ともなさせしめ、また、その讀み方の課業を容易ならしめようとするのであるが、これは恰かも音の印象の文字に先き立たしめることによつて、同年齡に於ける兒童のためにこの課業の準備を前以てなさせしめ、且つそれを容易ならしめようとするのと同じやり方である。さて、私はこの本を使用して、兒童がまだ一つの綴音も發し得ない中に、いはゞ兒童の頭の中にもこれらの音を住はせるやうにするのである。

(これらの試みはその後になつて却つて蛇足であるといふことを發見したのである。それは發展の心理的過程に就いて、また吾々の知識の基礎に於ける順序次第に就いての知識が、私にまず

まず深くなつて來たためであつた。それで右の如き試みはもはや實行するに及ばなくなつたわけである。それでこの一節全體の記述は、私がまだ／＼明瞭に理解してゐない教育の方法を發見せんがための漠然たる願望に外ならぬものと認めてもらはなければならぬ。——ベスタロッテ) 私のこの嬰兒のための感覺的印象表に次の如き方法の本を伴はせようと思ふ。即ちその方法の本といふのは、兒童がその中に現はされた事物に就いて使用すべき單語が、極めて正確に表現されてゐて、如何に初心の母親でも十分に私の目的に添ふやうに教へることが出来るやうになつてゐる。なぜなれば彼女は私がそこにいつてゐる一語をも加へる必要がないから。

かくの如く、母親のために造られた本によると同時に、例の「綴字本」に於ける多くの音を絶えず聞き取ることによつて、兒童は彼の發語機關が形造られると直ぐさま一日五六度もその「綴字本」中の二三の音を恰かも彼が覺えず知らずにいろ／＼な音を眞似する時と同じやうな氣樂な遊び心地で眞似するやうに慣らされなければならない。

さて、この「綴字本」は次の點に於て在來ありふれたるすべての本と異つたものである。即ちその教授の形式は、一般に生徒自身が捕捉し得る母音から出發するといふ差異がある。そして綴音の前後に一つ一つ子音を附加することは明らかに讀み方及び發音の術を一層容易ならしめるものである。



これが吾々のやり方であつた。各母音の後に、吾々はbからxに至る一つ一つの子音を付け加へ、そして先づ簡単容易な綴音、*ab, ad, af* 等を組立て、それから實際普通の語に於てはそれらを伴ふところの簡単な綴音の前にそれらの子音を置いたのである。

例へば、

*ab, b, e, sh, st,*

*b, ab,*

*e, ab,*

*sh, ab,*

*st, ab, etc.*

かやうにして、吾々は最初の簡単な綴音をば、單にすべての母音に子音を附加することによつて組み立て、更にその後いよ／＼多くの綴音を附加することによつて、ます／＼むづかしい語をだん／＼と組み立てたのである。このやり方は必ず簡単な音を絶えず反復することとなり、互に類似する多くの綴音をば必ず順序よく排列統合せしめることとなるのである。そして、かく順序よく排列統合することの出来る理由は、それらの綴音は共通の基礎を有するからであることはいふまでもない。これは児童に向つて決して忘るべからざる音の印象を與へ、そして読み方の學習を非常に容易ならしめる效があるのだ。

この本の特殊の效能は次の如きものである。

- 一、児童はかなり長時間、綴音の練習をやらせられるから、この方面に於ける彼等の能力は十分に形造られるのである。
- 二、類似の諸音を使用することによつて、同じ形のものゝを反復することが児童にとつて面白いものとされること、また、かくして抹消すべからざる印象を與へようとする目的が一層容易に達せられるといふこと。
- 三、それは十分能く知られてゐる語に一つ一つの子音を附加することによつて、而も必ずしもそれを綴ることを強ひられずして組み立てられる如何なる新たな語をも、児童が一目見ただけで直ぐさま發音し、更にこれらの複合せる多くの語を、そらで綴ることを覺え得る上の助けとなるのである。これはその後に至つて、それらの語を正確に書くことを非常にたやすからしめる效がある。

その本の序文に、その本を使用する上の簡単な注意書を述べてゐるが、それによれば、母親は児童が喋舌り得る前に、毎日五六度、而もいろ／＼な方法でこれらの次第順序に排列した多くの音を児童に向つて發音し、それによつて児童の注意を喚び起し、これらの音に聞き慣れしめるやうにすべしと書かれてある。そして、この發音はその都度、熱心さを増して行はれ、また児童が



課し始めるや否や、彼等をしてそれを模倣させるやうに導き、それによつて迅速に話すことを教へるがために、初めからまた繰り返して始めなければならぬ。

綴字に先立たねばならぬ文字の知識を児童に向つて容易ならしめんが爲めに、私はその本に大きく印刷した多くの文字を加へて置き、かくして児童をしてそれらの文字の差異を一層よく注意させることの出来るやうにして置いたのである。

さて、これらの文字は一つ一つ別に硬い厚紙の上に膠づけにしてあつて、それらを一つ一つ児童に與へるやうにしてある。吾々は赤く印刷したいろ／＼の母音から始め、そしてそれらを完全に児童に向つて知らしめ、また發音の出来るやうにしてから、さきへ進んで行くやうにするのである。その次に、児童に向つて子音を一つ一つ與へるのであるが、然し子音はそれだけでは發音することが出来ないからして、いつも母音と結びつけて與へるやうにするのである。

児童は一方に於て、これらの特殊な練習により、また他方に於て、實際の綴字によつて（このことに就いては、私は以下に直ちに述べようと思ふ）かなりいろ／＼の文字を知りかけると、間もなく今度は彼等に三重の文字、やはりその本に伴ふところの三重の文字に注意を向けて行くことが出来る。即ち、それには獨逸語の印刷された文字（今度はそれは小さい文字であつてもよろしい）の上には獨逸語の文字が立ち、それから書いた文字、それから、その下には羅馬字が載

せられてゐる。かくして後、児童をして既にその中央の形を彼が知つてゐるすべての綴音を綴字させ、そしてそれを他の二つの形に於て繰り返さしめるのである。かくすれば時間を浪費することなくして児童は三重の字母を讀むことを學ぶであらう。

綴字の基本的規則は、すべての綴音はただ單に母音の原音に向つて、いろ／＼と子音を附け加へるといふことである。即ち、如何なる場合でも母音がその綴音の基礎であり、基本であるといふことである。尙また、この母音は最初に書かれる、即ち吊した黑板上に置かれる、（それは文字を入れ置くために、その上端かまたは下端かに凹線を有し、そして、その中に文字を容易に置き換へられるやうにすべきである。）さて、この母音はその本の案内書に據れば、次第にその前後にいろ／＼と子音を附け加へられるのであつて、例へば、*a-ab-abb-abc-acc* 等と進んで行くのである。それから各綴音を教師が發音し、そして児童がそれを繰り返し繰り返して、遂にそれを忘れざるまでするのである。それから文字を順序を追つて、また（第一、第三、といふ場合に）順序を取りちがへて繰り返し、それからまた児童に綴音を見せないので綴字させるやうにするのである。

その本の第一節では非常にゆつくりと進ませ、そして、舊きものが児童の上に抹消すべからざるほど強く印象されるまでは決して新しきものに進んで行かないことが特に必要なことである。



なぜなれば、この既知のものが一切読み方教授の基礎だからである。そしてその基礎から生ずるものはすべて少しづつ次第に附け加へることによつてその上に打ち築かれるものである。

かやうにして、児童が或る程度の綴字の容易さに達した時には吾々は今度は他の方法に換へることが出来る。例へば、或る一つの單語を組み立ててゐる文字をば、その單語が完結するまで一つ置き、そしてその文字の各よをば單獨にいはせ、また次ぎの文字と一緒にしていはせるのである。例へば、G—Ga—Gar—Gard—Garden—Gardene—Gardener とふ風である。それが済めば今度はそれらの文字を一つ一つ取り去り、前と同じ工合にして後戻りをし、児童がそらで完全にその單語を綴字することの出来るやうになるまで再三再四反復させるのである。かやうにして吾々はその單語を後戻りに綴字することが出来るのである。

おしまひに、その單語を綴音に分け、そして各綴音をばその數に従つて順序を追ひ、また順序をみだして發音させるのである。學校教授にとつてのこの一の特利的な利益は、児童をして初めから一緒に、そして同時に児童に與へられるすべての音を發音し、または文字若しくは綴音の類によつて發音することを命ぜられたすべての音を發音することに、慣れさせることが出来ることである。かくしてすべての児童に發音されるすべての音は恰かも一つの音のやうに聞えるのである。

黒板上に於けるこれらの綴字の練習が十分完成した場合には、その本はこれを見童の最初の讀本として彼の手に渡され、そして彼がその本を十分容易に讀めるまでそれを使用させるやうにすることが出来る。

#### 歌はれる言に就いて

話される音の教授に就いてはこれだけにして置き、私は今度は歌はれる音の教授に就いて一言して見ようと思ふ。然し歌といふものの本來は、漠然たる感覺的印象から明瞭なる觀念へと發展する手段として考へられ得ないものであつて、むしろ別な時に於て、また別な目的の爲めに發展させねばならぬ能力と考へ得べきものであるから、私は後になつて教育を通觀し、大觀する時まで、それを暫らく論ぜずに置かうと思ふ。ただ、私はこゝに次の事だけをいつて置きたい。即ち一般的原則に従へば、およそ歌ふことを教授するには、先づ、最も簡單なものから始むべきである。これを完成せよ。そしてただ、順次に一の完結した階梯から新たな練習に着手するやうにせよ。そしてこの基礎の確固たることを十分に吟味せずしては、決して諸能力を拘束したりまたは混亂させたりするやうなことに陥つてはならないのである。

#### 二 單語の教授

發音の力、即ち音の初歩的方法から生ずる第二番目の教授の特殊手段は實に



### 單語、否むしる名前の教授

である。

私は兒童がこの方面に於ける最初の指導を「母親の本」から受けねばならぬことを既に述べたのである。(譯者註) 後の第十信に於て、ベスタロッツナはこの「母親の本」なる書は世に現はれないといふのである。(つてゐるが、それはベスタロッツナの考へた通りのものが未だ公にされないとはいふ意味である。彼の初歩本の一つが一八〇三年に出版されたが、それは「母親の本」またはその子に觀察及び話し方を教授するについて母親への指針」と題されてゐる。然しこの本は殆んど全部クリューンが書いたものであつて、感覺的印象に於ける最初の言葉の基礎は人間の身體であるといふ、その基礎的觀念はクリューンがベスタロッツナに負ふところあるものであつた。全卷十篇より成る案であつたが、七篇だけしか公にされなかつた。そして第一篇より第六篇まではクリューンが書いたもの、そして「さて、この『母親の本』編述の次第をいへば、世界に於て最も重要な事物、特に類及び種の如く、事物の全系列を含むところのものは、すべてこれを口に發すべきものであるとし、そして母親は兒童をしてそれらの事物の正しき名稱を十分熟知せしめることの出來るやうにし、かくして兒童に向つてその初期から名稱教授を施し得るやうに仕組んだものである。即ち教授の第二番目の特殊的方法是音を發する力をその基礎とするものであるとしたのである。

この名稱教授は、およそ自然界のあらゆる部門を初め、歴史、地理、人間の業務及び人間の諸

關係に於ける極めて重要な多數の事物の名稱から成り立つてゐる。これらの多數の單語は、兒童がその綴字本を完修した直ぐ後に、ひとへに読み方の練習として兒童に與へられるのである。而も私の經驗の示すところによれば、およそ兒童がその読み方の力を完全に仕上げるために與へられる時に、これら多數の名稱をば、兒童をして完全にそらで覚えさせることが可能であるのである。この刹那、かくも多數にして、また包括的ないろ／＼の方面の事物の名稱を、かくも廣く、かくも完全に知つてゐるといふことが兒童に如何なる利益を與へるかといふに、それは實にその後の教授を容易ならしめる上に非常な助けとなるものである。そしてその利益たるや、後になつて打ち建てられるべき家庭のための、維然たる無数の材料の蒐集に外ならざるものと考ふべきである。

### 三 言語の教授

音を發する力に基礎を置く教授上の第三番目の特殊な手段は

### 本來の言語教授

である。

今や私は特殊な形式、その形式に従つて、人爲の術が、人類の特殊なる特徴たる言語を使用



して、人間の發展に於て能く自然の進行と同一歩調を保ち得るところの特殊なる形式が展開しかける點に到達したのである。然し私は如何にそれを説明すべきか。この形式、それによつて人間が造物主の意志に従ひ、盲目的で無感覺的な自然の手から、吾々人類の教育を奪ひ取り、そしてそれを人間が幾時代の間、自己自身の中に發展せしめ來たれる一層まさつた能力の指導に委すべき形式が展開するのである。更にこの形式、それによつて人は自然がそれを發展せしめるための力と手段とを吾々人間に與へたけれども、その發展のための指導を何等與へざるところの吾々人間の諸能力に對して、正確にして包括的な指導を與へ、且つその發展を促進せしめるゆるゑんの形式が人類と同じく獨立的に展開するのである。吾々の諸能力に對する指導は決して自然がこれを與へることは出來ない。なぜなれば吾々は人間だからである。この形式、それによつて人間は物理的自然の高踏的な、そして單純な進行を少しも破損することなく、または吾々の身體的發展が常に有する調和をも亂すことなく、若しくはまた、みぢんたりとも自然が吾々の身體的發展の上に加へる一様な保護を吾々から奪はれず、すべてかゝることを吾々人間が爲し得るところの形式が展開するのである。

吾々の諸能力の發展は混亂せる感覺的印象から明瞭なる觀念にまで進行するところの自然の機構を程度の完全さに達せしめんがために、言語教授の完全な術と最高の心理學とによつてこれを

期せねばならない。これは私の如きとても今日企て及ばないところであつて、私は眞に荒野に泣く人の聲の如き感に堪へない次第である。

然し、埃及人は初めて牛の角に曲つた鋏を結びつけ、かくして地面を掘る仕事を牛に教へたといふが、彼等は完成はしなかつたけれども、とにかく、鋏の發見を出現せしめるに至つたのである。

然らば、私の業績をばただその鋏を曲げて、その鋏を新たな角に縛りつけるだけのものでもあらしめよ。だが然し、何故に私はそれを譬話を以て語るのであるか。そんな必要はない。私は遠廻りな説き方を避けて、率直にいひたいと思ふことをいふであらう。

私は國民教育のためには、やはり一般に役立たざる今日の貧弱な新教師からも、まだ舊い老いぼれた、どもりの日雇稼ぎの教師階級の手からも學校教育を奪ひ取つて、それを自然そのものの淀みなき力に託し、神が世の父母の心中に絶えず生き生きと燃やすところの光にまで、それを委託し、己が子女をして神と人とのお蔭で成長させようと望むところの兩親の興味にそれを託したいと思ふものである。

然し言語教授の形式、否、もつと適切にいへば、言語教授の方法、それによつて吾々がこの目的を達成し得るところの、換言すれば、吾々の指導となるべき形式又は方法を明らかにするため



に、はたまた吾々に知られてゐるいろいろの事物を、そしてまたそれらの事物に關して吾々が學び得るすべての事柄を明瞭にいひ表はすことの出来るために、吾々は先づ自から次の諸項を問はねばならない。

一、人間に對する言語の目的は何ぞや。

二、自然が吾々の物をいふ術を次第に發展せしめることによつて、この目的にまで吾々を導くところの手段、否、むしろ進歩の徑路は何であるか。

答へて曰く、

一、言語の最後の目的は、明らかに吾々人間をば漠然たる感覺的印象から明瞭なる觀念にまで導くことにある。

二、言語が次第に吾々をこの目的に向つて導くための手段は疑ひもなく次の順序を通るものである。

イ、吾々は何れの事物をもそれを全體として、即ち一般的に認めるのである。換言すれば、それを一の單位として即ち一の事物として命名するのである。

ロ、吾々は次第にその種々なる特質を知るやうになり、そしてそれらの特質を命名することを學ぶのである。

ハ、吾々はいろ／＼の事物のいろ／＼な性質をば、動詞及び副詞によつて定義する力を言語によつて得るのである。それから、事情の變化によつて生ずる種々の變化をば、單語そのものとその排列とを變更して以て明瞭にする力を、言語によつて得るのである。

(一) 私は一々の事を命名することを學ぶために、取る手段に就いて左にこれを述べたのである。

(二) 事物の諸性質を學び、且つ命名する手段は次の如くに分れるであらう。

イ、兒童に向つて、數及び形に就いて明瞭にいひ表はすことを教へること。數及び形は萬物の特殊な初歩的性質であつて、實に物理的自然の二個の包括的、一般的の抽象である。

そして吾々の諸觀念を明瞭ならしめるすべての手段は一にこの二つのものに依存するのである。

ロ、兒童に向つて形と數以外の他のすべての性質に就いて、正確に發表することを教へること。(吾々が單なる感覺的印象によつてのみならず、また想像及び判断の力によつて學ぶ事物の諸性質並びに吾々の五官によつて知るところのそれに就いて。)

この初歩的な物理的概括たる數及び形、これ實に吾々が幾代もの經驗に従ひ、吾々の五官を使用することによつて、事物の多くの性質から抽象することを學べるものがあるが、これは皆に一々



特殊の事物の本具的特質としてのみならず、また物理的概括として夙に兒童に熟知せしめるやうにしなければならぬ。そこで兒童は夙に圓いもの、または四角いものを、圓いとか、四角いとかいふことの出来るやうにしなければならぬと同時に、また成るだけ早く圓形または方形の觀念を一の統一、一の純然たる抽象として印象するやうに仕向けられなければならぬのである。これがために、兒童はおよそ自然界に於て圓いもの、四角いもの、簡單なもの、または複雑なものに遭遇する場合、それぞれその觀念を表はす正確な單語と結びつけることが出来るやうになるであらう。こゝにまた吾々は言語は何故に形と數とを發表する手段と考へられなければならぬか、そして、自然が吾々の五官を通じて吾々に~~考~~へるすべての事物の、他のあらゆる性質を發表する手段であると考へるやり方とは異つたものとして、それを考へねばならぬかの理由が明白になるであらう。

それ故に、私は兒童初期のための本に於て、兒童をしてこれら二つの概括に就いて明瞭なる意識を持たしめるやうにしてある。その本は兒童が數の第一性質を理解する最も簡単なやり方並びに普通の方法に關する廣汎な調査を載せてあるのだ。

この目的に對するそれ以上の處置に就いては、言語練習と同じく暫らくこれを後の機會に譲ることとし、特別に數と形とを論ずる際にそれと關聯して説くこととしよう。これらは吾々の知識

の初歩として、言語の練習を一わたり完結した後には考察されなければならないものである。

最も初歩の教授本たる嬰兒のための母親の本の解説は、如何なる種類のものでも悉く次の如き仕組みに選定されてあるのだ。即ち吾々の五官を通じて學ばれるすべての種類の物理的概括に就いて、よく説明してあるのだから、それで母親は自からは何等の厄介を覺えずして兒童に最も正確な發表を熟知せしめることが出来るやうに選定されたものである。

然し、直接に吾々の五官を通じてではなく、吾々の比較や想像や抽象やの力の仲介によつて間接に學ばれる事物の諸性質に就いては、私は人間の如何なる種類の判断でも、それが明白に早熟なものであつてはならぬといふ私の原則を飽くまでも固執するものである。然し私はこの年代の兒童が持つ如き、避くべからざる抽象的な語の知識をば、ただ單に記憶作業として使用し、そして兒童の空想や推測の力のために軽い食料として使用するのである。

これに反して、直接に吾々の五官によつて學び得らるべき事物に關しては、私は兒童をして成るべく速かに正確に發表することの出来るやうにさせるために次の如き處置を取るものである。

私は吾々の五官を通じて知られる著しき特徴によつて特に目立つ多くの實名詞を辭書の中から取り出し、そしてそれらの下にこの特徴を示す形容詞を置くのである。

例へば、



鰻、

ぬらぬらした、蟲のやうな、革皮のやうな。

腐肉、

死んだ、くされ臭い。

夜、

静かな、輝ける、冷かな、雨降り。

軸、

丈夫な、弱い、油を塗れる。

野、

砂多い、濕潤の、混合肥の、豊饒な、利ある、不利なる。

次に、私はこの順序を轉倒し、そして吾々の五官を通じて學ばれたいろ／＼の事物の著しい特徴を記述する形容詞を見出すのである。更にその次に、私は形容詞によつて記述された特徴を持つ實名詞を、その次に置くのである。例へば、

圓い、

毬、帽子、月、太陽。

軽い、

羽、わた毛、空氣。

重い、

金、鉛、樺材。

熱い、

暖爐、夏の日、炎。

高い、

塔、山、木、巨人。

深い、

海、湖、窖、墓。

柔い、

肉、蠟、バター。

彈力ある、 鋼鐵の線條、鯨骨等。

然し、かうしたところで私はこれらの完全な解説によつて兒童の個人的思考の自由發揮を決して弱めようとはしない。ただ、兒童の心意を強く印象せしめるために二三の解説的事實を與へ、そして直ぐさま「これと同じやうなことを外に知らないか」と兒童に尋ねるのである。大概の場合、兒童は彼等の經驗内に存する新事實を見出すのであつて、教師の經驗しないことさへもいひ現はすことがすくないぐらゐである。かやうにして兒童の知識の領域が廣められ且つ正確になることは、かの單なる問答法などの到底企て及ばないところであり、少くとも百倍も熟練と骨折とを加へても、問答法などはとてもそれだけのことは出来ないものである。

いつたい、すべての問答法では、一方に於て兒童は問答を試みられるところの觀念が、兒童に初めから分つてゐることであるといふ制限によつて、他面に於て問答を試みられる形式によつて、最後に然し確かに教師の知識の制限によつて、否々それよりも甚だしきは、教師が自分の知識の範圍以上に引つ張り込まれないやうにと心配し用心することによつて兒童は拘束されてゐるのである。友よ、これは兒童にとつて何たる恐ろしき拘束であらうよ。私の方法に於ては、かかる拘束は全然撤廢されたのである。

さて、これが済むと私は既に多方面に於て世界のいろ／＼な事物を知つてゐる兒童をしてなほ



進んで辭書を用ひて彼等がかくも多く知つてゐる事物に就いて更に一層明瞭に知らしめようとするのである。

このためには私はこの偉大な古來の證人たる言語を次の四項目に分類し、それらから參考資料を求めらるゝのである。即ち、

一、記載的地理學。

二、歴史。

三、物理的科學。

四、博物學。

然し、同一の語を不必要に反復することを避け、そして教授の形式を成るべく簡略にせんがために私はこれらの主要なる區分を更に四十の小區分に分ち、そして兒童にはただそれらの小區分に收められたる事物の名稱を示すだけにするのである。

それから、私は自から私の感覺的印象の主要な事物、否、むしろ私自身が言語に於て名稱の全系列を考察する。それと同時に、私は古代人の大證人たる言語が人間についていつてゐるところを次の三個の項目中に攝するのである。即ち、

第一項は、

單なる物理的存在者と認められた人間、その人間に就いて動物界との關係に於て言語は何んといふか。

第二項は、

社會生活を通じて獨立の状態に向上努力するものとしての人間、その人間に就いて言語は何んといふか。

第三項は、

自己の情緒、智慧及び技能の力によつて、動物よりも一層高く自己自身及び自己の環境を眺めようと向上努力するところの人間、その人間に就いて言語は何んといふか。

私はこれらの三項目を更に四十の小區分に分け、そしてそれらの小區分に於てのみ兒童にそれら、事物の名稱を與へるのである。(然し、すべてこれらの企ては未熟な見解の結果として、その後これを一切放棄したのである。)

人間について並びに事物についてのこれらの二つの部門に於て、それらの系列の最初の排列は別に何等の意味なしに單なる字母順にすべきである。それらは類似の感覺的印象と感覺的印象によつて得られた觀念とを排列せしめて次第に事物を明瞭ならしめんがために専らこれを使用するのである。



これが済めば、即ち古來の證人たる言語が、かくしてすべての存在物を單なる字母順に排列するため使用されたならば、こゝに第二の問題が生ずる。即ち、

更に嚴密に點檢した後、人爲の術がこれらの事物をその後如何やうに排列すべきかといふのである。かくして新たな仕事が始まる。第十七八番目の初めに至るまで十分熟知するところの、さきと同じ語列は、今や改めて兒童に示さなければならぬ。即ち、すべてこれらの小區分に於て、またこれらの小區分をば更に人爲的に分けるところのすべての分類に於て、改めてこれらの語列を兒童に提示しなければならぬ。そして兒童は自分でその語列の順序を造り且つ次の如き方案によつてそれを排列することが出来るやうにならなければならない。

事物を分類する種々の綱目は、これを各欄の上部に置き、そして數字や略字やその他便利な符號によつてこれを記すのである。

最初の讀み方の課業に於て、兒童は完全に主要項目中の種々の綱目を學ばねばならぬ。それから若し兒童が語列に於てそれが屬する綱目の符號を見出すならば、彼は一瞥しただけで、何んの綱目にその事物が屬するかを見出すことを得、かくして自分で字母順の名稱表を科學的名稱表に變更することが出来るであらう。

私は例を擧げてこの事情を一層明瞭ならしめる必要があるか分らない。それは殆んど蛇足であると思はれる。然し、その形式が、如何にも新奇であるために、それをして見ようと思ふのである。例へば、歐羅巴の小區分の一つは獨逸である。さて兒童をして初めに先づ獨逸を十個の區域に分けることに就いて十分よく承知させて置く。それから、讀み方に際して、獨逸の都會を字母順に先づ兒童に提示するのであるが、その次ぎにはその一々の都會を、それが屬する區域の數字によつて示すのである。兒童がこれらの都會を容易に讀むことが出来るやうになると、直ぐさま彼等はこれらの數字と主要項目の小區分との關係を學ぶ。すると、二三時間かゝつて兒童は獨逸の都會の全系列をば主要項目の小區分に従つて排列することが出来るやうになるであらう。

例へば、兒童が次ぎに擧げる獨逸の諸都會をば、それぞれその數字と共に見る時には、

- |   |   |   |   |     |   |    |    |    |    |    |     |    |     |   |    |   |    |
|---|---|---|---|-----|---|----|----|----|----|----|-----|----|-----|---|----|---|----|
| ア | ア | ヘ | ン | 8、  | ア | ア  | レ  | ン  | 3、 |    |     |    |     |   |    |   |    |
| ア | ー | ヘ | ン | ベル  | リ | 4、 | ア  | ー  | バ  | ー  | ト   | ラン | 11、 |   |    |   |    |
| ア | ッ | ケ | ン | 10、 | ア | ー  | ダ  | ー  | ス  | パ  | ッ   | ハ  | 11、 |   |    |   |    |
| ア | グ | ラ | ー | 1、  | ア | ー  | ル  | バ  | ー  | ゲン | 10、 |    |     |   |    |   |    |
| ア | イ | グ | レ | モン  | ト | 8、 | ア  | ー  | ン  | ド  | ル   | フ  | 1、  |   |    |   |    |
| ア | ッ | レ | ン | パ   | ッ | ハ  | 5、 | ア  | ッ  | レ  | ン   | ド  | ル   | フ | 5、 |   |    |
| ア | ッ | ラ | ー | ス   | ペ | ル  | ヒ  | 2、 | ア  | ル  | シ   | ャ  | ウ   | フ | ェ  | ン | 3、 |



アルスレーベン	10、	アルトブンツラウ	11、
アルテナ	8、	アルテナウ	10、
アルテンベルヒ	9、	アルテンブルヒ	9、
アルテンザルツァ	10、	アルトキルヘン	8、
アルトナ	10、	アルトルフ	1、
アルトランシュテット	9、	アルトワッサ	13、
アルカーディツセン	8、	アルベルヒ	2、
アンブライス	1、	アメーネブルヒ	6、
アンドトナッハ	6、		

児童はこれらを次の如くに使用するであらう。

アアヘンはウエストフアリア區域に在り、アーヘンベルヒはフランコニア區域に在り、アッケンは下サキソニー區域に在る等である。

かくして、児童はその項目に屬する數字または符號を一目見ただけでこの系列の如何なる語がどの綱目に屬するかを決定し且つ私が前にいつたやうに、字母順の名稱表をば科學的の名稱表に變更することを出来るやうになるのである。

そこで、私はこゝに至つて私自身の仕事の完結する限界に達したのである。そしてまた生徒等が各々その向きに驅られて進む如何なる種類の知識に於ても獨立に既存の如き便宜を利用する力を發揮すべき場合に達したるその限界にいよいよ私は達したのである。然しかやうなことは、今日までは僅かに特權ある極少數のみがそれを利用したに過ぎない性質のものである。私はそれだけの限度には達させたいと思ふ。決してそれ以上に一步進まうとは思はない。私は世人に向つて、藝術及び科學を教へようとはこれまでも思つたことがないし、また現にさう思つてゐない。それらのことは私は少しも知つてゐないのである。私のこれまで希ふたこと、そして現に希ふてゐることはただ第一初步の點をば從來見捨てられ、そして粗野無教育に流れるがまゝに放任されてゐた一般大衆に向つて容易く學ばせるといふことである。祖國の貧民及び弱者に向つて、人間としての品位を保つための門戸であるところの術の門戸を開放することである。そして若し出來さへするならば、歐羅巴に於ける貧民階級の市民をばすべて眞の術の基礎たる個人的能力の點に於て、南方及び北方の蠻民よりも遙かに後れさせてゐるところの障壁を燒却したいと思ふのである。蓋し歐羅巴市民が一般にその文明開化を誇り且つ尊重するにも拘はらず、その大氣中にあつて而も人間たるものの社會的權利や教育さるべき權利やはたまたまにかくにもその權利を實際に行使する能力、およびそれらのものを實際に享受し、所有するものは歐羅巴市民中、十人に僅



か一人に過ぎない。他は悉くその権利行使の門戸に鎖されてゐるの實狀である。

希くはこの障壁が私の生前に於て猛々たる火焰を以て燃え盡されんことを。然し目下のところ私はただしつとりと濡れた藁にか弱き石炭を載せるに過ぎないと思へない。だが、もはや風も間近き空を吹きかけてゐるから、やがては石炭を煽ることであらう。かくして次第に我が周囲の濡れ藁は乾燥し暖まりそして火が付き燃えるであらう。然り、ゲスナーよ、現在それは如何に濡れてゐても遂には燃えるであらう。やがては燃えるであらうよ。

然し、私は言語教授の第二の特殊的方法に於て前申した點まで進んでゐることを自認すると同時に、私はまだ教育の最後の目標たる諸觀念の完全なる開明にまで導くところの第三の方法には獨れてゐないことを自覺するものである。

へ、兒童に向つて事物間の相互關係、委しくいへば、數や時間や釣合などの、種々異つた事情に於ける事物間の相互關係を言葉で以て明瞭に區別することを兒童に教へること。否、もつと適切にいつて見れば、吾々が既に名稱によつて知り得たる、そして或る程度までは事物の名稱と性質とを寄せ集めることによつて明瞭となれるすべての事物の本性及性質や力などを更にもつと明瞭ならしめるやうに兒童に教へること。

こゝに眞の文法の基礎が現はれるのであるが、かくして教育の最後の目標たる觀念の完全なる開明への進路が開明されるであらう。

こゝにまた、私は頗る簡單な、然しながら心理的な言語教授によつて、兒童をしてその第一歩を着けしめるに至つたのである。形式や規則に關して一語をも洩らすことなく、先づ母親は兒童の前に於て、専ら簡單な文を練習として反復すべきである。これらは文そのもののためにと同じく、發語機關の練習のためにもまた兒童をしてこれを眞似させるべきである。吾々はこれらの二つの事柄、即ち發音の練習と言語としての單語の學習とを明瞭に區別しなければならぬ。そして、第一のものは第二のものとは獨立に、先づそれだけを練習しなければならぬ。意味と發音とが分つたならば、母親は宜しく次の如き種々の文(單數)を繰り返して誦へてやるべきである。

父は親切である。

蝶ははでな羽を持つてゐる。

牛は草を食べる。

樅の木は眞直な幹を持つてゐる。

兒童がこれらの文を再三再四口ずさみ、それを繰り返すことが容易くなるほど練習をしたならば、母親はそこで、かう問ふて見る。

誰が親切であるか。